

東亞小冊  
第十八支那に於ける銀と物價  
東亞經濟調查局編

553-94



1200501509390

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak



22

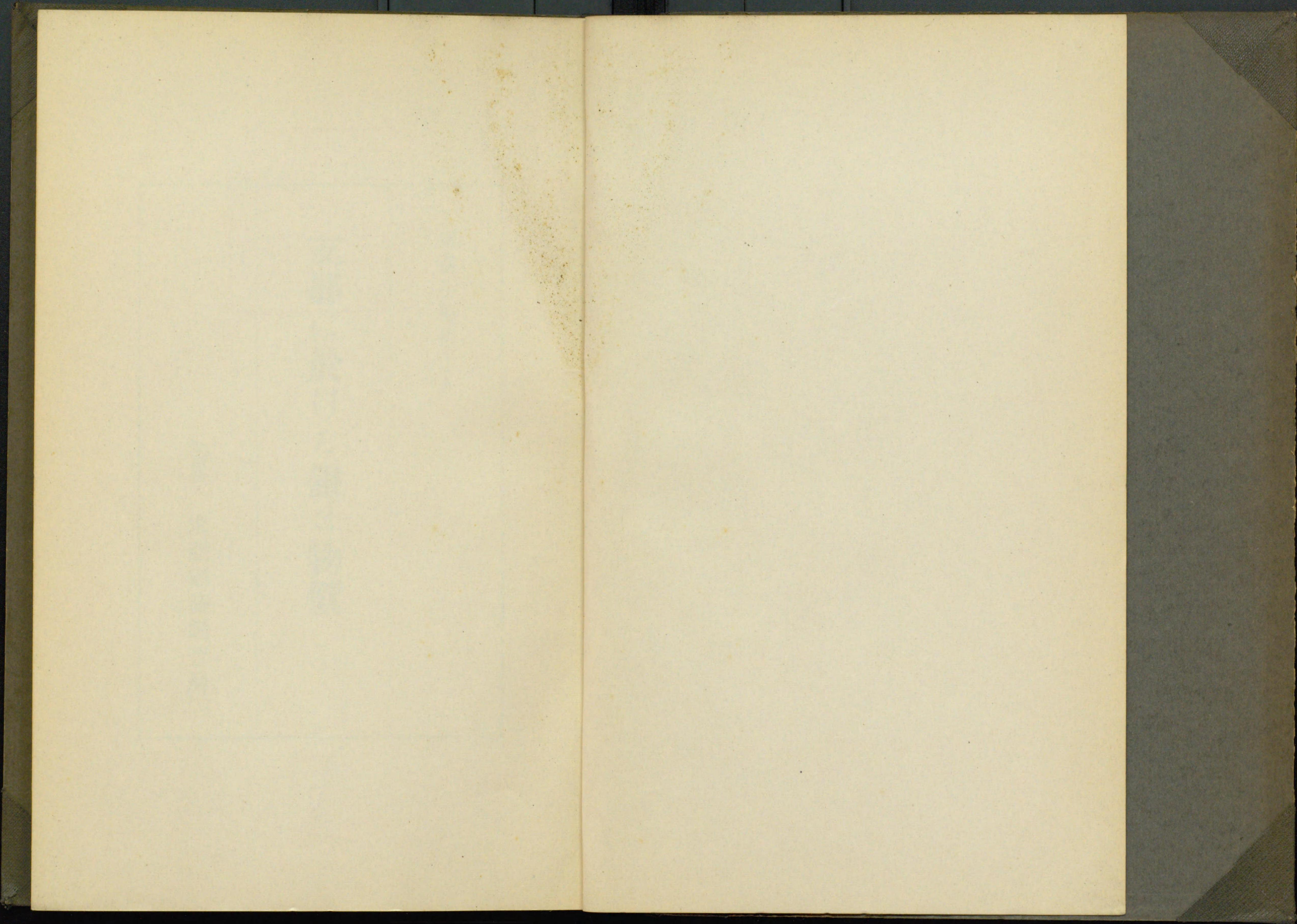
553  
94

東亞小冊第十八

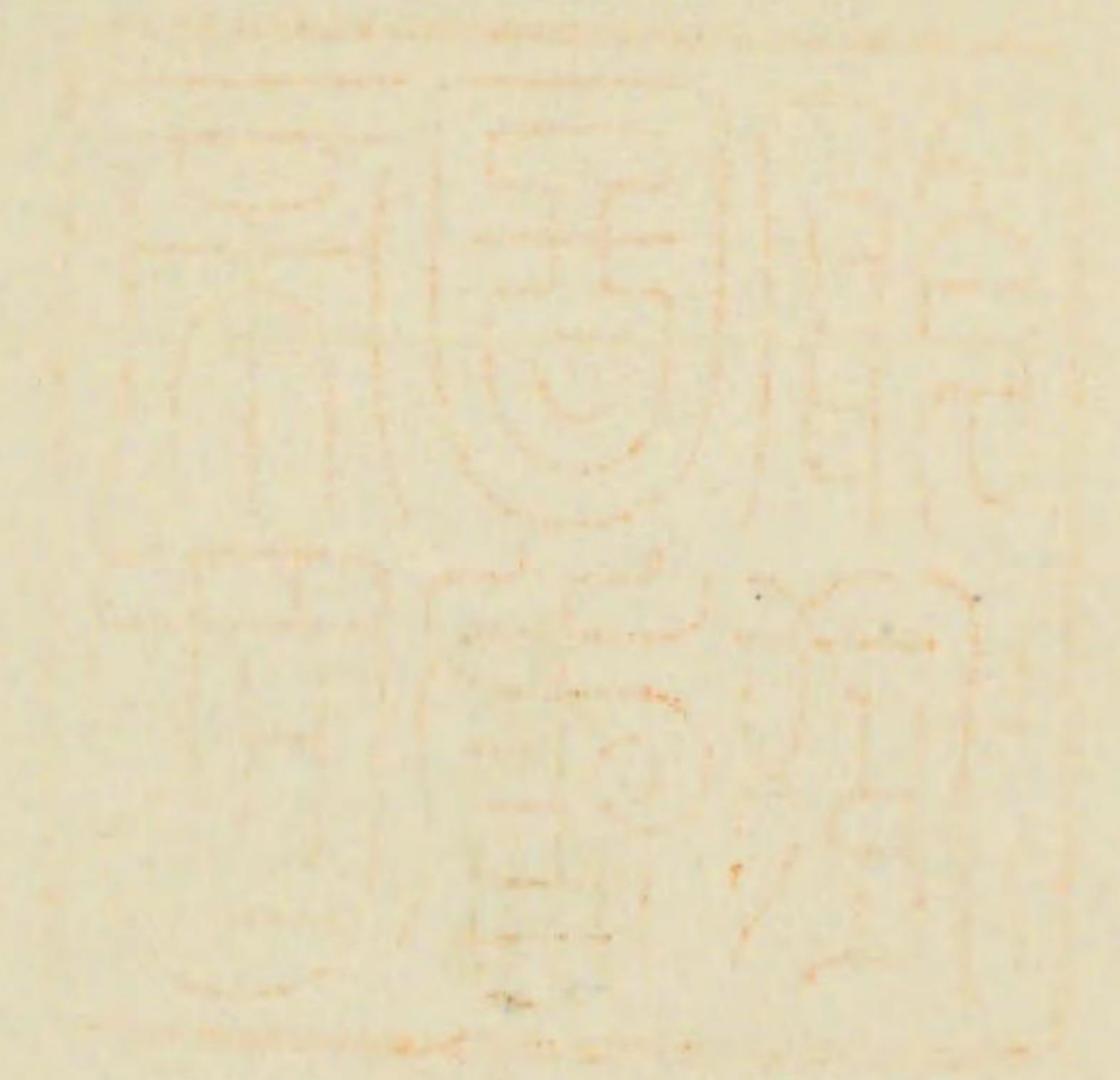
支那に於ける銀と物價

財團  
東亞經濟調查局

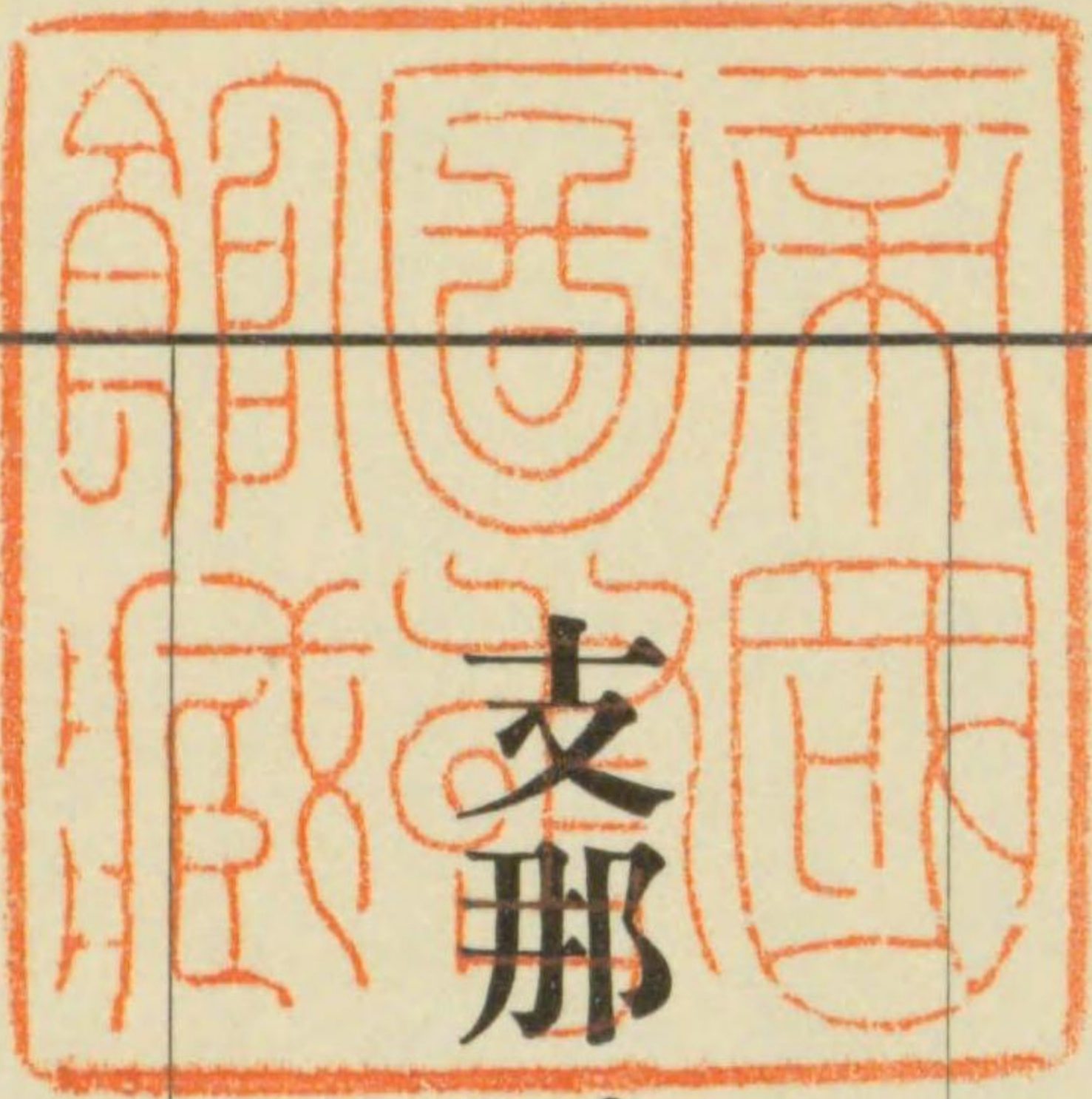








東亞小冊第十八



支那に於ける銀と物價

財團法人 東亞經濟調査局





55394

## 譯者例言

本稿は、國民政府實業部銀物價討論委員會の研究報告書「Silver and Prices in China」の第一章、銀と物價の關係、を譯したものである。

該委員會は、農村復興委員會、全國經濟委員會、及び中央農業實驗所と共に農業恐慌を克服せんとする意圖の下に、現在の支那の農民が最も苦しんでゐるのは農産品の販賣價格の下落であるといふ觀點から、物價下落の原因たるべき諸因子を分析してゐる。

該委員會のメンバーは

許仕廉、J・L・バツク、A・B・ルイズ、張履鸞、顧翊羣、陳鐘聲、陳柄權、湯澄波、である。

これは英文本からの翻譯であるが、本稿の校正中、支那文のものが出版されたので、支那文の引用書は直接支那文本からとつた。



# 支那に於ける銀と物價 目次

第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響	一
第一節 銀の購買力と支那物價水準との關係	一
第二節 農業生産物價格と生産、輸入、輸出、物價水準との關係	三
支那に於ける物價を左右する諸因子	三
小 麥	三五
米	三三
棉 花	三六
大 豆	四〇
平均農産物價格	四七
第三節 銀價値の變動と農家々計における物價水準との關係	五一
武進に於ける農場價格關係	五二



農場價格關係、諸農區の平均……………七五

上海に於ける銀の集積……………六二

支那の農民は自給に非ず……………六二

第四節 一九三一—一九三三支那農地價格……………六四

第五節 支那の石炭、絹の卸賣價額と銀價值その他の因子との關係……………六六

石炭……………六七

生糸……………七一

第六節 通貨としての銀、銅の相對的重要性、及び銀價值の變動が銅で示された物價に及ぼす影響……………七二

銅で示された物價……………八一

銅貨に關する結論……………八六

第七節 支那商品で示された金の購買力と金本位制下の合衆國卸賣物價水準との關係……………九一

第八節 非貨幣的因子の物價水準に及ぼす影響……………九七

運輸機關の未發達……………九七

匪賊……………九七

東三省の分離……………九六

貿易尻の逆調……………九六

高率の租稅……………九六

地方信用供給の不適當……………一〇〇

外國財貨のダムピング……………一〇一



# 支那に於ける銀と物價

實業部銀物價討論委員會

## 第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響 第二節 銀の購買力と支那物價水準との關係

支那に於ては、銀は通貨の基礎をなしてゐる。財貨が販賣されれば銀若しくは銀に對する請求權が反對給付として得られる。物價は銀による財貨の價値であるが、銀そのものは、その價値が變動する一つの商品に過ぎない。多數の商品の平均價格が上騰すれば、銀の購買力は減少したといはれる。何となれば一定重量の銀が以前より少量の財貨を購買するから。反對に物價が下落した場合には、銀の購買力は大になつたといはれる。何となれば、一定重量の銀が以前より大量の財貨を購買するから。従つて支那に於ける銀の購買力指數は、卸賣物價指數の逆數である。

諸外國に於ては、銀は——二三の例外を除いて——それによつて通貨の價値が左右される金屬ではない。銀それ自身は、磅、米弗、その他各國通貨では常にその價格が變動してゐる。商品で示された銀の購買力は、銀の價格から直ちに



判斷することは出来ない。何となれば銀の購買力は、銀の價格とその他の商品價格との比率に依存してゐるから。銀の價格が諸商品の平均價格に比し騰貴した場合には、銀が購買力を増したといはれる。従つて、銀の購買力は、銀價格指數の多數商品の平均卸賣物價指數に對する百分率として示される。

諸外國に於ける銀の購買力は直ちに、支那に於ける銀の購買力と比較され得る。諸外國に於ける銀價格と、支那、諸外國通貨間の爲替相場は、直接に、支那に於ける銀の購買力とは比較され得ない。かくの如き比較をしようとする試みは支那に於ける銀價値と物價との關係を取扱つた論文を公けにした幾多の人々を誤らした。

第一表 一八六七—一九三二年間の支那及び英國に於ける銀の價値 (一九〇—一九四を100とす)

年次	支那輸出商 品卸賣物價指 數(一八七—一八七 を100とす(註1))	同上 一九〇—一九四を 100とす(註2)	支那銀の購 買力指數 一九〇—一九四を 100とす(註3)	倫敦銀塊價格 (オンス當り ペンス) (註4)	倫敦銀塊 價格指數 一九〇—一九四を 100とす	英國卸賣物 價格指數 一九〇—一九四を 100とす(註5)	英國銀の購 買力指數 一九〇—一九四を 100とす(註6)
一八六七	九七・一	四六・四	二五・五	六〇・五	三三・七	一一二	一九三・三
一八六八	一〇四・一	四九・八	二〇〇・八	六〇・五〇	三三・五	一一〇	一九三・八
一八六九	一〇一・〇	四八・三	二〇七・〇	六〇・四	三三・三	一一八	一九六・九
一八七〇	九七・九	四六・八	二一三・七	六〇・五	三三・七	一一六	二〇〇・六
一八七一	九九・八	四七・七	二〇九・六	六〇・三	三三・五	一一三	一九三・一
一八七二	一〇一・二	四七・四	二一一・〇	六〇・三	三三・八	一一三	一九五・一
一八七三	九九・一	四八・四	二〇六・六	五九・九	三三・五	一一四	一九五・六
一八七四	八九・一	四二・六	二三四・七	五八・三	三三・一	一一三	一九九・八
一八七五	八〇・一	三八・三	二六一・一	五六・九	三二・九	一一六	一九七・八

一八七六	八五・四	四〇・八	二四五・一	五三・三	三二・二	一一五	一七三・六
一八七七	八〇・五	三六・五	二五九・七	五四・八一	三二・〇・六	一一四	一八四・七
一八七八	八〇・一	三六・三	二六一・一	五二・六三	三二・三	一一五	一九二・七
一八七九	八〇・七	三八・六	二五九・一	五一・五	三二・〇	一一〇	一九五・〇
一八八〇	八三・八	四〇・一	二四九・四	五二・五	三二・八	一一七	一八七・七
一八八一	八四・五	四〇・四	二四七・五	五一・三	三二・四	一一三	一九一・六
一八八二	七七・二	三七・二	二六八・八	五一・八一	三二・一	一一〇	一九七・一
一八八三	七九・〇	三七・三	二六八・一	五〇・五六	三二・三	一一〇	一九六・三
一八八四	七三・九	三五・三	二八三・三	五〇・六九	三二・八	一一二	二一一・七
一八八五	七六・〇	三六・三	二七五・五	四八・五六	三二・六	一一七	二二四・五
一八八六	八二・九	三九・六	二五二・五	四五・三八	三二・四	一一四	二〇七・六
一八八七	一〇〇・〇	四七・八	二〇九・二	四四・六九	三二・八	一一二	二〇九・五
一八八八	一〇一・三	四八・四	二〇六・六	四二・八	三二・六	一一二	一九三・九
一八八九	一〇三・〇	四九・二	二〇三・三	四二・六九	三二・六	一一二	一九三・九
一八九〇	九七・三	四六・五	二二五・一	四七・七五	三二・五	一一七	二一〇・九
一八九一	九六・〇	四五・九	二二七・九	四五・〇六	三二・二	一一七	一九九・一
一八九二	九六・〇	四五・九	二二七・九	三五・七五	三二・二	一一七	一九九・一
一八九三	一〇〇・八	四八・二	二〇七・五	三五・五六	三二・七	一一三	一九六・三
一八九四	一一三・〇	五八・三	一七一・五	二八・九四	三二・二	一一一	一九六・三
一八九五	一二六・二	六〇・三	一六五・八	二九・八一	三二・六	一一四	一九三・八
一八九六	一三一・七	六三・〇	一五八・七	三〇・八一	三二・四	一一四	一九〇・〇
一八九七	一四五・五	六九・五	一四三・九	二七・五六	三二・九	一一五	一八四・二
一八九八	一四一・六	六七・七	一四七・七	二六・九四	三二・五	一一三	一八三・七









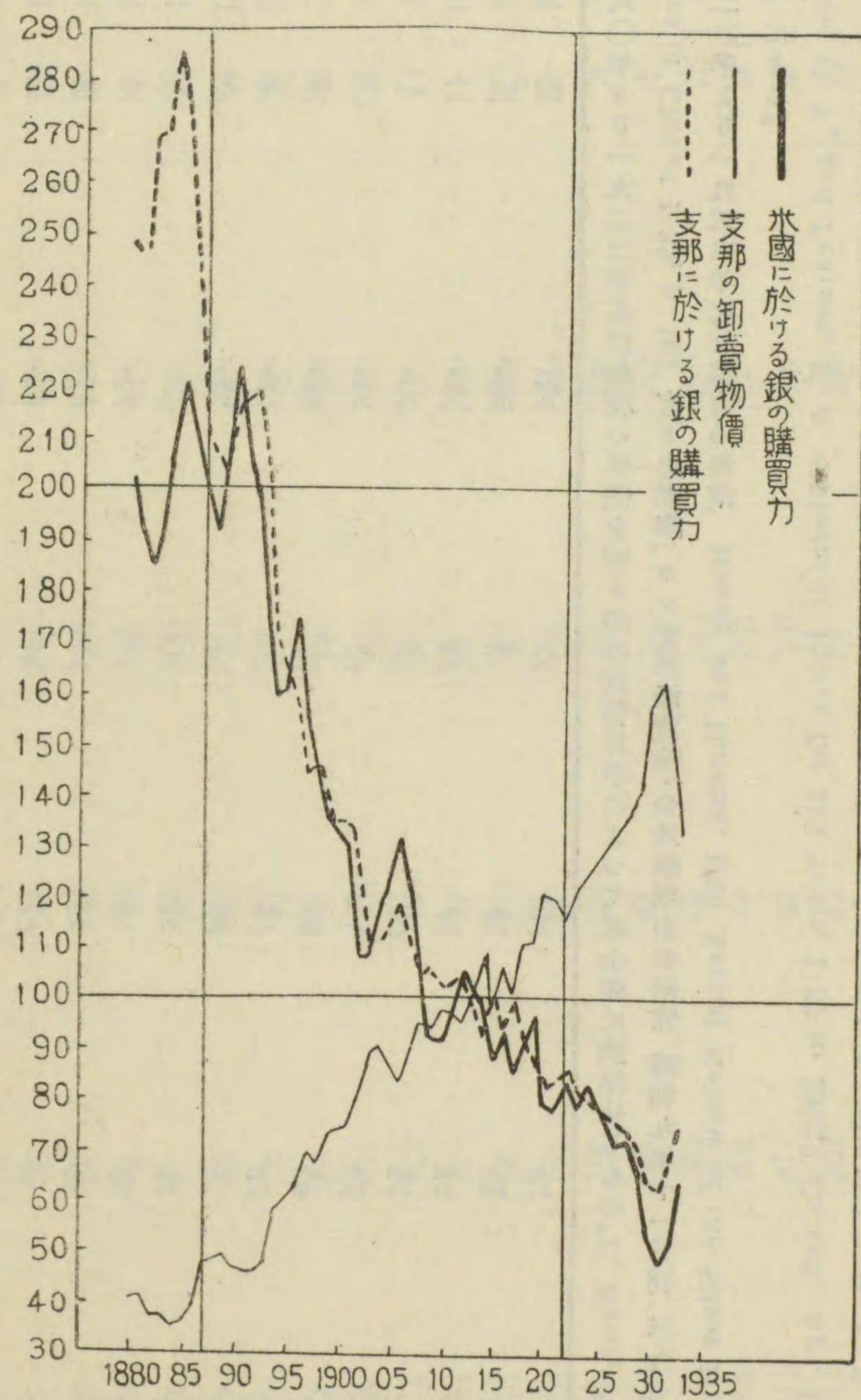






第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響  
 一〇  
 數、但し一九三二年及び一九三三年の指數は一九二六年の輸出入物價指數一三〇・七を一〇〇として換算した北支卸賣物價指數の逆數である。

第2圖 支那輸出入品卸賣物價指數及び支那と米國との銀購買力指數  
 1910-1914=100  
 (第一表及び第二表による)



【註】 支那に於ける銀の購買力は永年の間米國に於ける銀の購買力と歩調を一にして動いてゐた。

一八七〇年以前は、大部分の國の通貨は銀本位或は金銀複本位制であつた。一八七〇年、諸國はその通貨を金本位の上に置き、銀を廢貨し始めた。この廢貨の行程は最近まで續いた。

銀に對する世界の需要が減少した結果、英國に於ける銀の購買力は、一八八五年頃、急轉直下の減少し、一九三一年まで絶えず減少し續けた(第一表及第一圖)。同期間中、銀の基礎の上に立てる支那の物價は、引續き上昇した。この期間中、支那に於ける銀の購買力指數——それは卸賣物價指數の逆數である——は英國に於ける銀の購買力指數と密接に一致してゐる。

世界大戰中、英國からの銀の輸出は禁止された。輸出禁止後、銀價格の上昇は、その他の諸商品の卸賣物價のそれよりも緩慢であつた。従つて英國に於ける銀の購買力は、支那に於ける銀の購買力よりも遙か下廻つてゐた。輸出禁止が解除されるまでは依然として比較的低かつた。

一八八五年頃から現在まで、支那に於ける銀の購買力は、合衆國のそれに極めて類似してゐた(第二表及第二圖)。世界大戰中は合衆國からの銀の輸出禁止はなかつた。従つて合衆國の銀の購買力と、支那に於けるそれとは、この混亂せる時期に於てさへ、甚だしくは離反しなかつた。

支那に於ける卸賣物價水準は、明かに、數ヶ年以上もの間、世界に於ける銀の購買力によつて決定された。ある人は支那に於ける物價水準を、例へば合衆國の如き諸外國に於ける銀價格によつて直接説明せんと試みたが、この比較は効果がない。合衆國に於ける銀價格は合衆國の通貨で示された銀の價值であり、支那に於ける銀の購買力はその他の多數商品の平均によつて示された銀の價值であるからである。銀の價格と購買力との關係が如何に少いかは第3圖及第二表



の示す通りである。

諸外國に於ける銀價格が、その他の諸商品の價格に比し騰貴したときのみ、銀の購買力が増して、支那の物價は下落すると豫定し得る。反對に、諸外國に於ける銀價格が、その他の諸商品の價格に比して下落した場合のみ、支那に於ける物價が騰貴すると豫定し得るのである。例へば合衆國に於ける銀價格は、一九三二年の方が一九三一年より低かつた。しかしその他の物價は銀の價格よりよけいに下落した。従つて、合衆國に於ける銀の購買力は一九三一年より一九三二年の方が大であつた。支那の物價は一九三二年に下落した、従つて、支那に於ける銀の購買力は、合衆國に於けると同様、一九三一年より一九三二年の方が大であつた。

支那に於ける銀の購買力は、世界の銀價值を動かす諸因子に極めて敏感であるから、英國及び合衆國に於ける銀の購買力の月々の變動は、支那に於ける卸賣物價水準のそれに相應せる月々の變動に反映される(第三表及第4、5、6圖)。

一九二一年から一九三三年の間、北支那(天津)の卸賣物價は、英國の銀の購買力が減少した時は、通常騰貴した。北支那に於ける物價は、銀の購買力が英國に於て最底を示した時に、即ち一九三一年に最高點に達した。一九三一年以後英國に於ける銀の購買力が上昇の傾向にあるに反して、北支の物價は下落を辿つてゐる。

一九二九年から一九三一年十月迄、英國は金本位を維持してゐた。英國の卸賣物價の一般的傾向は、急激なる下落の方向に動いた。物價が下落する場合には、銀の如き基準商品は卸賣物價水準よりも早く下落し易い。従つて英國に於ける銀の購買力は、一九三一年には非常に低かつた。英國が一九三一年十月、金本位を離脱するや、銀の購買力は、一時は反動も伴つたが、急激に回復した。相次いで起つた、この突然の變動の一つ一つは、支那の物價水準に反映されな

6月	65.44	105.3	100.4	104.9	30.19	105.2	99.2	98.6	106.0	106.7		97.9
7月	64.88	104.4	99.5	104.9	30.00	104.6	100.6	99.9	104.0	104.7		98.0
8月	62.31	100.3	99.1	101.2	28.69	100.0	101.1	100.2	98.9	99.4		97.9
9月	61.25	98.6	99.7	98.9	28.25	98.5	101.9	101.2	96.7	97.3		99.2
10月	54.00	86.9	99.4	87.4	25.13	87.6	102.7	103.8	85.3	84.4		103.0
11月	54.38	87.5	98.4	88.9	25.25	88.0	102.9	103.2	85.5	85.3		105.3
12月	53.50	86.1	97.9	87.9	24.56	85.6	98.6	98.0	86.8	87.3		105.5
1927	—	—	—	—	—	—	—	—	95.1	—	103.0	—
1月	55.88	89.9	96.5	93.2	25.88	90.2	96.9	97.3	93.1	92.7		103.2
2月	57.75	93.0	95.8	97.1	26.63	92.8	96.3	98.0	96.4	94.7		103.1
3月	55.38	89.1	94.7	94.1	25.69	89.5	94.9	98.0	94.3	91.3		104.7
4月	56.50	90.9	94.1	96.6	26.19	91.3	94.4	97.3	96.7	93.8		105.2
5月	56.13	90.3	94.2	95.9	26.00	90.6	95.2	98.0	95.2	92.4		104.1
6月	56.75	91.3	94.1	97.0	26.25	91.5	95.9	97.3	95.4	94.0		103.9
7月	56.25	90.5	94.3	96.0	25.94	90.4	95.2	96.6	95.0	93.6		104.5
8月	54.50	87.7	95.2	92.1	25.19	87.8	95.1	97.3	92.3	90.2		104.8
9月	55.50	90.3	90.3	92.7	25.63	89.3	95.9	96.0	93.1	93.0		106.2
10月	56.13	90.3	93.6	93.5	25.75	89.8	95.4	95.3	94.1	94.2		104.9
11月	57.50	92.5	96.3	96.1	26.50	92.4	95.2	96.0	97.1	96.3		103.1
12月	58.06	93.4	96.4	96.9	26.81	93.4	94.8	96.0	98.5	97.3		101.7
1928	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	57.13	92.0	96.4	95.4	26.44	92.2	95.2	95.3	96.8	96.7	105.6	101.0
2月	57.13	92.0	95.8	96.0	26.19	91.3	94.7	96.0	96.4	95.1	107.1	102.2
3月	57.25	92.1	95.5	96.4	26.38	92.0	94.9	94.0	96.9	93.9	108.3	102.4
4月	57.38	92.4	96.6	95.7	26.31	91.7	96.6	99.3	94.9	92.3	108.6	102.9
5月	59.75	96.2	97.5	98.7	27.56	96.1	95.9	99.9	99.2	96.2	108.3	103.0
6月	59.94	96.5	96.7	98.7	27.44	95.6	96.3	95.6	99.3	99.0	108.6	101.7
7月	59.25	95.4	97.4	97.9	27.28	95.1	96.3	95.3	99.9	99.8	109.6	100.8
8月	58.88	94.8	97.6	97.1	27.13	94.6	94.0	93.4	100.6	101.3	106.8	101.7
9月	57.63	92.8	98.6	94.1	26.50	92.4	92.4	92.1	99.5	100.3	106.3	99.8
10月	58.00	93.4	96.7	96.6	26.69	93.0	93.2	92.1	99.8	101.0	108.0	101.2
11月	58.00	93.4	95.8	97.5	26.69	93.0	93.1	93.4	99.9	99.6	108.5	101.4
12月	57.38	92.4	95.8	96.5	26.31	91.7	93.4	93.4	98.2	98.2	108.6	101.6

(次表へ續く)



方向に動いた。物價が下落する場合には、銀の如き基準商品は卸賣物價水準よりも早く下落し易い。従つて英國に於ける銀の購買力は、一九三一年には非常に低かつた。英國が一九三一年十月、金本位を離脱するや、銀の購買力は、一時は反動も伴つたが、急激に回復した。相次いで起つた、この突然の變動の二つ一つは、支那の物價水準に反映されな

第三表 1921年より1933年迄の米國、英國及び支那に於ける銀の購買力 (1926=100) (註1)

年及び月	紐育銀價 (純オンス) (註2) 指	紐育銀價 數 1926=100	米國卸賣物 指 1926=100 (註3)	米國銀の 購買力指數 (註4) (1926=100)	倫敦銀價 (オンス當) 指 1926=100	倫敦銀價 數 1926=100	英國卸賣物 (通商局) 指數 1926=100 (註5)	左 (オクナリス) 同 指數 1926=100 (註7)	英國通商局卸賣 物價指數による 購買力 1926=100 (註8)	英國メタリス 指 1926=100 (註9)	北支卸賣物 價指數 1926=100 (註10)	支那上海卸 賣物價指數 1926=100 (註11)
1921												
1月	65.95	106.1	114.0	93.1	39.63	138.1	133.1	126.4	97.7	103.0	88.9	—
2月	59.32	95.5	104.9	91.0	34.56	120.5	164.4	156.1	84.0	88.5	—	102.9
3月	56.03	90.2	102.4	88.1	31.81	110.9	152.7	145.0	78.9	83.1	—	105.5
4月	59.34	95.5	98.9	96.6	33.94	118.3	147.8	140.4	75.0	79.0	—	106.2
5月	59.85	96.3	96.2	100.1	34.31	119.6	141.6	134.5	83.5	88.0	—	105.9
6月	58.51	94.2	93.4	100.9	34.63	120.7	134.8	128.0	88.7	93.4	—	105.2
7月	60.26	97.0	98.4	103.9	37.38	130.3	129.9	123.4	92.9	97.8	—	105.4
8月	61.60	99.1	98.5	106.0	37.69	131.4	132.0	125.4	98.7	103.9	—	105.0
9月	66.15	106.5	93.4	114.0	40.56	141.4	124.5	122.1	102.2	107.6	—	105.8
10月	70.97	114.2	94.1	121.4	41.00	142.9	115.5	118.2	113.6	119.6	—	105.5
11月	68.23	109.8	94.2	116.6	39.19	136.6	114.1	109.7	123.7	130.3	—	102.6
12月	65.76	105.8	92.9	113.9	36.13	125.9	111.4	108.4	119.7	126.0	—	102.5
1922											86.4	—
1月	65.45	105.3	91.4	115.2	35.00	122.0	107.2	104.3	111.9	115.0	—	102.1
2月	65.31	105.1	92.9	113.1	33.81	117.8	107.4	104.5	113.5	116.7	—	100.9
3月	64.38	103.6	92.8	111.6	33.00	115.0	108.0	104.5	109.7	112.7	—	101.6
4月	66.57	107.1	93.2	114.9	34.56	120.5	109.4	106.4	106.5	109.4	—	101.8
5月	71.15	114.5	96.1	119.1	34.56	125.1	110.1	107.1	110.1	113.3	—	100.6
6月	71.15	114.5	96.3	118.9	35.88	125.1	110.1	107.1	113.6	116.8	—	99.2
7月	70.24	113.1	99.4	113.8	35.81	124.8	108.7	107.1	113.7	116.8	—	99.2
8月	69.40	111.7	98.6	113.3	34.88	121.6	105.3	102.5	114.8	118.0	—	97.6
9月	69.50	111.9	99.3	112.7	35.38	123.3	104.0	102.5	115.5	118.6	—	96.1
10月	68.01	109.5	99.6	109.9	34.56	120.5	106.1	103.2	118.6	121.8	—	95.0
11月	65.18	104.9	100.5	104.4	32.94	114.8	106.1	103.2	113.6	116.8	—	96.2
12月	64.62	104.0	107.7	103.3	31.38	109.4	104.7	101.9	108.2	111.2	—	97.5
1923											90.4	—
1月	65.71	105.8	102.0	103.7	31.94	111.3	107.2	102.8	103.9	108.3	—	100.9
2月	64.34	103.6	103.3	100.3	30.75	107.2	107.6	103.2	103.4	107.8	—	103.3
3月	67.53	108.7	104.5	104.0	32.25	112.4	109.6	105.1	98.3	102.6	—	103.3
4月	66.85	107.6	103.9	103.6	32.31	112.6	110.3	105.8	102.5	106.9	—	104.1
5月	67.07	108.0	101.9	106.0	32.63	113.7	109.0	104.5	102.4	106.4	—	103.2
6月	64.84	104.4	100.3	104.1	31.69	110.5	105.5	101.2	104.3	108.8	—	102.0
7月	63.01	101.4	98.4	103.0	30.88	107.6	102.8	98.6	104.7	109.1	—	100.8
8月	62.78	101.0	97.8	103.3	30.94	107.8	102.8	98.6	104.7	109.1	—	100.8
9月	64.22	103.4	99.7	103.7	31.69	110.5	105.5	101.2	104.9	109.3	—	99.9
10月	63.65	102.4	99.4	103.0	31.75	110.7	105.5	101.2	104.7	109.2	—	102.1
11月	63.82	102.7	98.4	104.4	32.94	114.8	109.0	104.5	104.9	109.9	—	101.7
12月	64.70	104.1	98.1	106.1	33.44	116.6	109.6	105.1	105.3	109.9	—	102.8
1924											93.6	—
1月	63.44	102.1	99.6	102.5	33.56	117.0	111.6	108.4	105.8	107.9	—	101.6
2月	64.36	103.6	99.7	103.9	33.56	117.0	112.7	109.7	104.8	106.7	—	101.6
3月	63.96	102.9	98.5	104.5	33.50	116.8	111.6	108.4	103.8	107.7	—	100.8
4月	64.14	103.2	97.3	106.1	33.06	115.2	111.2	108.4	99.9	107.7	—	99.1
5月	65.52	105.5	95.9	110.0	33.75	117.6	110.5	107.7	103.6	160.3	—	98.6
6月	66.69	107.3	94.3	113.1	34.83	121.6	109.8	109.2	106.4	109.2	—	97.2
7月	67.16	108.1	95.6	113.1	34.50	120.3	109.8	107.7	106.4	109.2	—	96.9
8月	68.52	110.3	97.0	113.7	34.31	119.6	111.5	109.1	109.6	109.7	—	96.4
9月	69.35	111.6	97.1	114.9	34.94	121.8	112.7	111.7	107.3	109.1	—	96.7
10月	70.87	114.1	98.2	116.2	35.44	123.5	114.8	115.6	108.1	109.0	—	96.4
11月	69.30	111.5	99.1	112.5	33.69	117.4	114.6	114.9	107.6	106.8	—	96.5
12月	68.10	109.6	101.5	108.0	32.94	114.8	114.8	114.9	102.4	102.2	—	97.2
1925											97.3	—
1月	68.45	110.2	102.9	107.1	32.13	112.0	115.5	108.4	103.9	107.5	—	98.2
2月	68.47	110.2	104.0	106.0	32.25	112.4	114.0	114.3	100.1	106.4	—	97.9
3月	67.79	109.1	104.2	104.7	31.88	111.1	112.3	111.0	98.6	105.9	—	99.0
4月	66.90	107.7	101.9	105.7	31.44	109.6	109.7	108.4	98.9	105.7	—	103.1
5月	67.58	108.8	101.6	107.1	31.31	109.1	107.3	107.3	99.9	104.4	—	104.7
6月	69.12	111.3	103.0	108.1	31.69	110.5	106.4	106.4	101.9	105.5	—	99.4
7月	69.44	111.8	104.3	107.2	32.00	111.5	106.3	106.4	101.7	107.2	—	98.1
8月	70.26	113.1	103.9	108.9	32.44	113.1	106.0	106.4	103.9	106.5	—	99.6
9月	71.61	115.3	103.4	111.5	32.88	114.6	105.3	105.1	104.9	106.3	—	103.2
10月	71.11	114.5	103.6	110.5	33.00	115.0	104.0	103.2	108.8	109.0	—	101.7
11月	69.22	111.4	104.5	106.6	32.13	112.0	103.7	105.1	110.6	111.4	—	100.5
12月	68.89	110.9	103.4	107.3	31.81	110.9	103.4	103.2	108.0	106.6	—	99.4
1926											100.0	—
1月	67.75	109.0	103.2	105.6	31.31	109.1	101.3	102.5	100.1	107.5	—	97.6
2月	66.88	107.6	102.0	105.5	30.75	107.2	99.6	101.2	97.0	106.4	—	97.9
3月	65.88	106.0	100.6	105.4	30.31	105.6	97.3	101.2	107.6	105.9	—	99.0
4月	64.38	103.6	100.3	103.3	29.75	103.7	96.9	99.3	108.5	105.7	—	103.1
5月	65.00	104.6	100.5	104.1	30.06	104.8	96.9	99.3	107.0	105.7	—	104.7
6月	65.44	105.3	100.4	104.9	30.19	105.2	97.8	98.6	107.2	104.4	—	105.2
7月	64.88	104.4	99.5	104.9	30.00	104.6	99.2	98.6	106.0	106.7	—	105.4
8月	62.31	100.3	99.1	101.2	28.69	100.6	101.1	99.9	104.0	104.7	—	105.0
9月	61.25	98.6	99.7	98.9	28.25	98.5	101.9	100.6	98.9	99.4	—	97.9
10月	54.00	86.9	99.4	87.4	25.13	87.6	102.7	103.8	96.7	97.3	—	99.2
11月	54.38	87.5	98.4	88.9	25.25	88.0	102.9	103.2	85.3	84.4	—	103.0
12月	53.50	86.1	97.9	87.9	24.56	85.6	98.6	98.0	85.5	85.3	—	105.3
1927											103.0	—
1月	55.88	89.9	96.5	93.2	25.88	90.2	96.9	97.3	95.1	92.7	—	103.2
2月	57.75	93.0	95.8	97.1	26.63	92.8	96.3	98.0	93.1	94.7	—	103.1
3月	55.38	89.1	94.7	94.1	25.69	89.3	94.9	98.0	96.4	91.3	—	104.7
4月	56.50	90.9	94.1	96.6	26.19	91.5	94.4	97.3	96.7	93.8	—	105.2
5月	56.13	90.3	94.2	95.9	26.00	90.6	95.2	98.0	95.2	92.4	—	104.1
6月	56.75	91.3	94.1	97.0	26.25	91.5	95.9	97.3	95.4	94.0	—	103.9
7月	56.25	90.5	94.3	96.0	25.94	90.4	95.2	96.6	95.0	93.6	—	104.5
8月	54.50	87										



1922	1月	65.45	105.3	91.4	115.2	35.00	122.0	107.4	104.5	113.5	116.7	109.9	100.9
	2月	65.31	105.1	92.9	113.1	33.81	117.8	107.4	104.5	109.7	112.7	101.6	101.6
	3月	64.38	103.6	92.8	111.6	33.00	115.0	108.0	105.1	106.5	109.4	101.8	101.8
	4月	66.57	107.1	93.2	114.9	34.56	120.5	109.4	106.4	110.1	113.3	100.6	100.6
	5月	71.15	114.5	96.1	119.1	35.88	125.1	110.1	107.1	113.6	116.8	99.2	99.2
	6月	71.15	114.5	96.3	118.9	35.88	125.1	110.1	107.1	113.7	116.8	97.2	97.2
	7月	70.24	113.1	99.4	113.8	35.81	124.8	108.7	105.3	114.8	118.0	97.6	97.6
	8月	69.40	111.7	98.6	113.3	34.88	121.6	105.3	102.5	115.5	118.6	96.1	96.1
	9月	69.50	111.9	99.3	112.7	35.38	123.3	104.0	101.2	118.6	121.8	95.0	95.0
	10月	68.01	109.5	99.6	109.9	34.56	120.5	106.1	103.2	113.6	116.8	96.2	96.2
	11月	65.18	104.9	99.6	104.4	32.94	114.8	106.1	103.2	113.6	116.8	96.2	96.2
	12月	64.62	104.0	100.5	104.4	32.94	109.4	106.1	101.9	108.2	111.2	97.5	97.5
1923	1月	65.71	105.8	102.0	103.7	31.94	111.3	107.2	102.8	103.9	108.3	90.4	90.4
	2月	64.34	103.6	103.3	100.3	30.75	107.2	107.6	103.2	103.4	107.8	103.4	103.4
	3月	67.53	108.7	104.5	104.0	32.25	112.4	109.6	105.1	98.3	102.6	98.3	98.3
	4月	66.85	107.6	103.9	103.6	32.31	112.6	110.3	105.8	102.4	106.4	102.4	102.4
	5月	67.07	108.0	101.9	106.0	32.63	113.7	109.0	104.3	104.3	108.8	102.0	102.0
	6月	64.84	104.4	100.3	104.1	31.69	110.5	105.5	101.2	104.7	109.2	100.8	100.8
	7月	63.01	101.4	98.4	103.0	30.88	107.6	102.8	98.6	104.9	109.1	100.8	100.8
	8月	62.78	101.0	97.8	103.3	30.94	107.8	102.8	98.6	104.9	109.1	99.9	99.9
	9月	64.22	103.4	99.7	103.7	31.69	110.5	105.5	101.2	104.7	109.2	102.1	102.1
	10月	63.65	102.4	99.4	103.0	31.75	110.7	105.5	101.2	104.9	109.2	101.7	101.7
	11月	63.82	102.7	98.4	104.4	32.94	114.8	109.0	104.5	105.3	109.9	102.8	102.8
	12月	64.70	104.1	98.1	106.1	33.44	116.6	109.6	105.1	106.4	110.9	102.6	102.6
1924	1月	63.44	102.1	99.6	102.5	33.56	117.0	111.6	108.4	104.8	107.9	93.6	93.6
	2月	64.36	103.6	99.7	103.9	33.56	117.0	112.7	109.7	104.8	106.7	101.6	101.6
	3月	63.96	102.9	98.5	104.5	33.50	116.8	111.6	108.4	103.8	106.7	100.8	100.8
	4月	64.14	103.2	97.3	106.1	33.75	115.2	111.2	108.4	104.7	107.7	99.1	99.1
	5月	65.52	105.5	95.9	110.0	33.05	117.6	110.5	107.7	103.6	160.3	98.6	98.6
	6月	66.69	107.3	94.3	113.1	33.75	121.6	109.8	107.7	106.4	109.2	97.2	97.2
	7月	67.16	108.1	95.6	113.1	34.50	120.3	109.8	107.7	110.7	112.9	96.9	96.9
	8月	68.52	110.3	97.0	113.7	34.31	119.6	111.5	109.7	109.6	109.7	96.4	96.4
	9月	69.35	111.6	97.1	114.9	34.91	121.8	112.7	109.1	108.1	109.6	96.7	96.7
	10月	70.87	114.1	98.2	116.2	35.44	123.5	114.8	111.7	108.1	109.6	96.4	96.4
	11月	69.30	111.5	99.1	112.5	33.69	117.4	114.8	115.6	107.6	106.8	96.5	96.5
	12月	68.10	109.6	101.5	108.0	32.94	114.8	114.8	114.9	102.4	102.2	97.2	97.2
1925	1月	68.45	110.2	102.9	107.1	32.13	112.0	115.5	114.3	97.0	107.9	97.3	97.3
	2月	68.47	110.2	104.0	106.0	32.25	112.4	114.0	113.0	98.6	106.7	98.0	98.0
	3月	67.79	109.1	104.2	104.7	31.88	111.1	112.3	111.0	98.9	105.9	97.9	97.9
	4月	66.90	107.7	101.9	105.7	31.44	109.6	109.7	108.4	99.9	101.1	97.9	97.9
	5月	67.58	108.8	101.6	107.1	31.31	109.1	107.3	107.3	101.7	101.9	99.9	99.9
	6月	69.12	111.3	103.0	108.1	31.69	110.5	106.4	103.8	103.9	106.5	99.6	99.6
	7月	69.44	111.8	103.3	108.9	32.44	111.5	106.3	106.4	104.9	104.8	103.2	103.2
	8月	70.26	113.1	103.9	103.4	32.00	113.1	106.0	105.1	106.7	106.3	101.7	101.7
	9月	71.61	115.3	103.4	111.5	32.88	114.6	105.3	105.1	108.8	109.0	100.5	100.5
	10月	71.11	114.5	103.6	110.5	33.00	115.0	104.0	103.2	110.6	111.4	99.4	99.4
	11月	69.22	111.4	104.5	106.6	32.13	112.0	103.7	105.1	108.0	106.6	98.3	98.3
	12月	68.89	110.9	103.4	107.3	31.81	110.9	103.4	103.2	107.3	107.5	97.6	97.6
1926	1月	67.75	109.0	103.2	105.6	31.31	109.1	101.3	102.5	100.1	106.4	57.9	57.9
	2月	66.88	107.6	102.0	105.5	30.75	107.2	99.6	101.2	107.6	105.9	99.0	99.0
	3月	65.88	106.0	100.6	105.4	30.31	105.6	97.3	101.2	107.6	105.7	99.2	99.2
	4月	64.38	103.6	100.3	103.3	29.75	103.7	96.9	99.3	107.0	104.4	99.4	99.4
	5月	65.00	104.6	100.5	104.1	30.06	104.8	97.8	99.3	107.2	105.5	99.4	99.4
	6月	65.44	104.6	100.5	104.9	30.19	105.2	99.2	98.6	106.0	105.5	97.9	97.9
	7月	64.88	104.4	99.5	104.9	30.00	104.6	100.6	99.9	104.0	104.7	98.0	98.0
	8月	62.31	100.3	99.1	101.2	28.69	100.0	101.1	100.6	98.9	99.4	97.9	97.9
	9月	61.25	98.6	99.7	98.9	28.25	98.5	101.9	101.2	96.7	97.3	99.2	99.2
	10月	54.00	86.9	99.4	87.4	25.13	87.6	102.7	103.8	85.3	84.4	103.0	103.0
	11月	54.38	87.5	98.4	87.4	25.25	88.0	102.9	103.2	85.5	85.3	103.0	103.0
	12月	53.50	86.1	97.9	87.9	24.56	85.6	98.6	98.0	86.8	87.3	105.5	105.5
1927	1月	55.88	89.9	96.5	93.2	25.88	90.2	96.9	97.3	93.1	92.7	103.0	103.0
	2月	57.75	93.0	95.8	97.1	26.63	92.8	96.3	98.0	96.4	94.7	103.1	103.1
	3月	55.38	89.1	94.7	94.1	25.69	89.5	94.9	98.0	94.3	91.3	104.7	104.7
	4月	56.50	90.9	94.1	96.6	26.19	91.3	95.2	97.3	96.7	93.8	105.2	105.2
	5月	56.13	90.3	94.2	95.9	26.00	90.6	95.4	98.0	95.2	92.4	104.1	104.1
	6月	56.75	91.3	94.1	97.0	26.25	91.5	95.9	97.3	95.4	94.0	103.9	103.9
	7月	56.25	90.5	94.3	96.0	25.94	90.4	95.2	96.6	95.0	93.6	104.5	104.5
	8月	54.50	87.7	95.2	92.1	25.19	87.8	95.1	96.0	92.3	90.2	104.8	104.8
	9月	55.50	90.3	90.3	92.7	25.63	89.3	95.9	96.0	93.1	93.0	106.2	106.2
	10月	56.13	90.3	93.6	93.5	25.75	89.8	95.4	95.3	94.1	94.2	104.9	104.9
	11月	57.50	92.5	96.3	96.1	26.50	92.4	95.2	96.0	97.1	97.1	103.1	103.1
	12月	58.06	93.4	96.4	96.9	26.81	93.4	94.8	96.0	98.5	97.3	103.1	103.1
1928	1月	57.13	92.0	96.4	95.4	26.44	92.2	95.2	95.3	96.8	96.7	105.6	105.6
	2月	57.13	92.0	95.8	96.0	26.19	91.3	94.7	96.0	96.4	95.1	107.1	107.1
	3月	57.25	92.1	95.5	96.4	26.38	92.0	94.9	96.0	96.9	93.9	102.4	102.4
	4月	57.38	92.4	96.6	95.7	26.31	91.7	96.6	99.3	94.9	92.3	108.3	108.3
	5月	59.75	96.2	97.5	98.7	27.56	96.1	95.9	99.9	99.2	96.2	108.3	108.3
	6月	59.94	96.5	96.7	99.8	27.44	95.6	96.3	96.6	99.3	99.0	108.6	108.6
	7月	59.25	95.4	97.4	97.9	27.28	95.1	95.2	95.3	99.9	99.0	101.7	101.7
	8月	58.88	94.8	97.6	97.1	27.13	94.6	94.0	93.4	100.6	101.3	109.6	109.6
	9月	58.00	93.4	96.7	94.1	26.50	92.4	92.9	92.1	99.5	100.3	106.8	106.8
	10月	58.00	93.4	95.8	96.6	26.69	93.0	93.2	92.1	99.8	101.0	108.0	108.0
	11月	58.00	93.4	95.8	97.5	26.69	93.0	93.1	93.4	99.9	99.6	108.5	108.5
	12月	57.38	92.4	95.8	96.5	26.31	91.7	93.4	93.4	98.2	98.2	108.6	108.6

(次表へ續く)



1929	1月	57.00	91.7	95.9	95.6	26.25	91.5	93.4	92.7	98.0	98.7	111.4	101.7
	2月	56.25	90.5	95.4	94.9	25.88	90.2	93.4	94.7	96.6	95.2	112.9	103.2
	3月	56.38	90.7	96.1	94.4	26.00	90.6	94.6	95.3	95.8	95.1	112.7	104.1
	4月	55.75	89.7	95.5	93.9	25.81	90.0	93.7	92.1	96.1	97.7	110.6	103.1
	5月	54.38	87.5	94.7	92.4	25.19	87.8	91.7	89.5	95.7	98.1	109.8	102.6
	6月	52.44	84.4	95.2	88.7	24.25	84.5	91.5	89.5	92.3	94.4	110.4	103.0
	7月	52.63	84.7	96.5	87.8	24.28	84.6	92.7	90.1	91.3	93.2	111.9	103.4
	8月	52.63	84.7	96.3	88.0	24.31	84.7	91.7	88.8	92.4	94.0	111.7	104.8
	9月	50.75	81.7	96.1	85.0	23.63	82.4	91.7	88.2	89.9	92.8	111.8	106.6
	10月	51.00	80.5	95.1	84.6	23.03	80.3	91.9	88.2	87.4	91.0	111.9	107.4
	11月	49.63	79.9	93.5	85.5	22.69	79.1	90.5	85.5	87.4	92.5	111.1	106.1
	12月	49.00	78.9	93.3	84.6	22.44	78.2	89.4	86.2	87.5	90.7	110.7	105.5
1930	1月	44.81	72.1	92.5	77.9	20.81	72.5	88.4	84.2	82.0	86.1	111.3	108.3
	2月	43.56	70.1	91.4	76.7	20.00	69.7	86.3	82.9	80.8	84.1	114.5	111.3
	3月	41.81	67.3	90.2	74.6	19.25	67.1	84.0	81.6	79.9	82.2	114.9	111.3
	4月	42.50	68.4	90.0	76.0	19.56	68.2	83.5	80.3	81.7	84.9	114.1	111.2
	5月	40.94	65.9	88.8	74.2	19.00	66.2	82.4	78.4	80.3	84.9	114.8	111.0
	6月	34.13	54.9	86.8	63.2	15.91	55.5	81.5	75.7	80.3	75.5	118.6	117.5
	7月	34.38	55.3	84.4	65.5	15.94	55.6	80.5	74.4	69.1	74.7	120.5	120.5
	8月	35.25	56.7	84.3	67.3	16.19	56.4	79.5	73.1	70.9	77.2	120.2	119.6
	9月	36.25	58.3	84.4	69.1	16.75	58.4	78.3	71.8	74.6	81.3	118.3	118.4
	10月	35.81	57.6	83.0	69.4	16.56	57.7	76.6	71.2	75.6	81.0	116.0	115.4
	11月	35.00	57.9	81.3	71.2	16.63	58.0	75.6	71.2	76.7	83.0	115.0	114.1
	12月	32.38	52.1	79.6	65.5	15.19	52.9	73.5	68.6	72.0	77.1	114.5	113.6
1931	1月	29.38	47.3	78.2	60.5	13.88	48.4	72.2	67.9	67.0	71.3	118.2	119.7
	2月	26.88	43.3	76.8	56.4	12.44	43.4	71.7	67.9	60.5	63.9	122.2	127.4
	3月	29.25	47.1	76.0	62.0	13.53	47.2	71.5	67.9	66.0	69.5	124.0	126.1
	4月	28.38	45.7	74.8	61.1	13.19	46.0	70.5	66.6	64.5	69.1	124.5	126.2
	5月	28.00	45.1	73.2	61.6	13.00	45.3	70.5	65.3	64.3	69.4	125.0	127.5
	6月	26.63	42.9	72.1	59.5	12.38	43.2	69.7	65.3	62.0	66.2	124.8	129.2
	7月	28.00	45.1	72.0	62.6	13.13	45.8	69.0	63.3	66.4	72.4	123.3	127.4
	8月	27.50	44.3	72.1	61.4	12.81	44.6	67.2	62.7	66.4	71.1	123.8	130.3
	9月	27.88	44.9	71.2	63.1	13.00	45.3	67.0	64.0	67.6	70.8	129.2	129.2
	10月	29.75	47.9	70.3	68.1	17.25	60.1	70.2	65.3	85.6	92.0	121.3	126.9
	11月	31.13	50.1	70.2	71.4	18.88	65.8	71.6	65.3	91.9	100.8	120.5	124.8
	12月	30.25	48.7	68.6	71.0	20.00	69.7	71.6	67.3	97.3	103.6	119.4	121.8
1932	1月	29.81	48.0	67.3	71.3	19.63	68.4	71.6	67.3	95.5	101.6	117.7	119.3
	2月	30.13	48.5	66.3	73.2	19.63	68.4	70.9	68.6	96.5	99.7	119.9	119.3
	3月	29.75	47.9	66.0	72.6	18.09	63.1	70.6	66.6	89.4	94.7	118.0	118.0
	4月	28.25	45.5	65.5	69.5	16.88	58.8	69.1	65.3	85.1	90.0	118.8	116.7
	5月	27.75	44.7	64.4	69.4	16.81	58.6	68.0	63.3	86.2	92.6	117.0	115.7
	6月	26.75	44.5	63.9	69.6	16.88	58.8	66.2	60.7	88.8	96.9	115.0	113.6
	7月	26.75	43.1	64.5	66.8	16.91	58.9	65.9	62.7	89.4	93.9	112.4	111.8
	8月	28.00	45.1	65.2	66.2	17.93	62.5	67.2	64.0	93.0	97.7	111.3	111.3
	9月	27.63	44.5	65.3	68.1	18.00	62.0	68.2	63.3	91.0	99.1	109.5	109.8
	10月	27.38	44.1	64.4	68.5	17.78	62.0	68.2	61.4	90.9	101.0	107.5	108.7
	11月	27.00	43.5	63.9	68.1	18.07	63.0	68.2	61.4	92.4	102.6	106.9	106.9
	12月	25.13	40.4	62.6	64.5	17.10	59.6	68.2	61.4	87.4	107.1	107.5	107.5
1933	1月	25.64	41.3	61.0	67.7	16.85	58.7	67.5	67.5	87.0	109.1	108.6	108.6
	2月	26.43	42.5	59.8	71.1	16.91	58.9	66.8	66.2	88.2	108.5	108.5	108.5
	3月	28.15	45.3	60.2	75.2	17.63	61.4	66.2	65.5	92.7	106.7	106.7	106.7
	4月	30.58	49.2	60.4	81.5	18.22	63.5	65.5	66.8	96.9	103.0	104.6	104.6
	5月	34.51	55.5	62.7	88.5	19.12	66.6	66.8	66.8	99.7	101.8	104.2	104.2
	6月	36.19	58.2	65.0	89.5	19.12	66.6	68.9	68.9	99.7	101.8	104.5	104.5
	7月	37.94	61.1	68.9	88.7	18.39	64.1	68.9	68.9	96.7	103.1	104.5	104.5
	8月	36.01	57.9	69.5	83.3	17.90	62.4	69.5	69.5	93.0	101.9	103.4	103.4
	9月	38.75	62.4	70.8	88.1	18.25	63.6	69.5	69.5	89.8	98.5	101.7	101.7
	10月	38.62	62.2	71.2	87.4	18.22	63.5	69.5	69.5	91.5	97.2	100.4	100.4
	11月	42.94	69.1	71.1	97.2	18.38	64.1	69.5	69.5	91.4	95.2	100.3	100.3
	12月	43.50	70.0	70.8	98.9	18.62	64.9	69.5	69.5	92.2	94.5	99.9	99.9
1934	1月	44.25	71.2	72.8	19.38	67.5	70.4	73.5	68.6	93.4	93.4	98.4	98.4
	2月	45.25	72.8	72.8	20.19	70.4	73.5	73.5	68.6	93.4	93.4	98.4	98.4

(註1) 本表を基礎としたる第四圖及び第五圖にあつては、英國の銀の購買力は同國通商局の卸賣物價指數によるものである。

(註2) 1921年より1925年迄は 孫拯 支那譯 Bratter, Herbert, M. "The Price of Silver" 統計月報第二卷第六號, 1930年6月。1926年より1932年迄は國定稅則委員會「上海貨價季刊」1932年4—5月號及び10—12月號。1933年は天津南開大學經濟學院 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)

(註3) 米國勞働統計局卸賣物價指數。

(註4) 米國卸賣物價指數に對する銀價指數の百分比例。

(註5) 1921年より1932年迄は國定稅則委員會「上海貨價季刊」1932年10—12月號。1933年は天津南開大學經濟研究所 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)

(註6) 英國通商局指數, 1913年を100とするものより 1926年を100として換算せるもの, 原本は支那實業部「中外物價指數」及び Federal Reserve Board, Washington, D. C. : "Federal Reserve Bulletin", 1933年7月。1921年より1923年迄は月別の數字は存在しない。從てこの月別の數字は、スタテイス卜誌の月別指數がその各年の平均に對して同一割合にあるところからして、各月の指數はその年の平均に對して同一割合にあると假定して挿入せるものである。

(註7) 英國スタテイス卜誌サワーベツク卸賣物價指數にして1910—1914年を100とするものから、1926年を100として換算したるもの, 原本は Warren, G. F. and Pearson, F. A. : "Wholesale Prices for 213 Years, 1720 to 1935," Cornell University Agr. Exp. Stat. Mem. 142, Nov., 1932, p. 14

(註8) 英國通商局卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。

(註9) 英國スタテイス卜誌卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。

(註10) 實業部「中外物價指數」及び天津南開大學經濟學院 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)



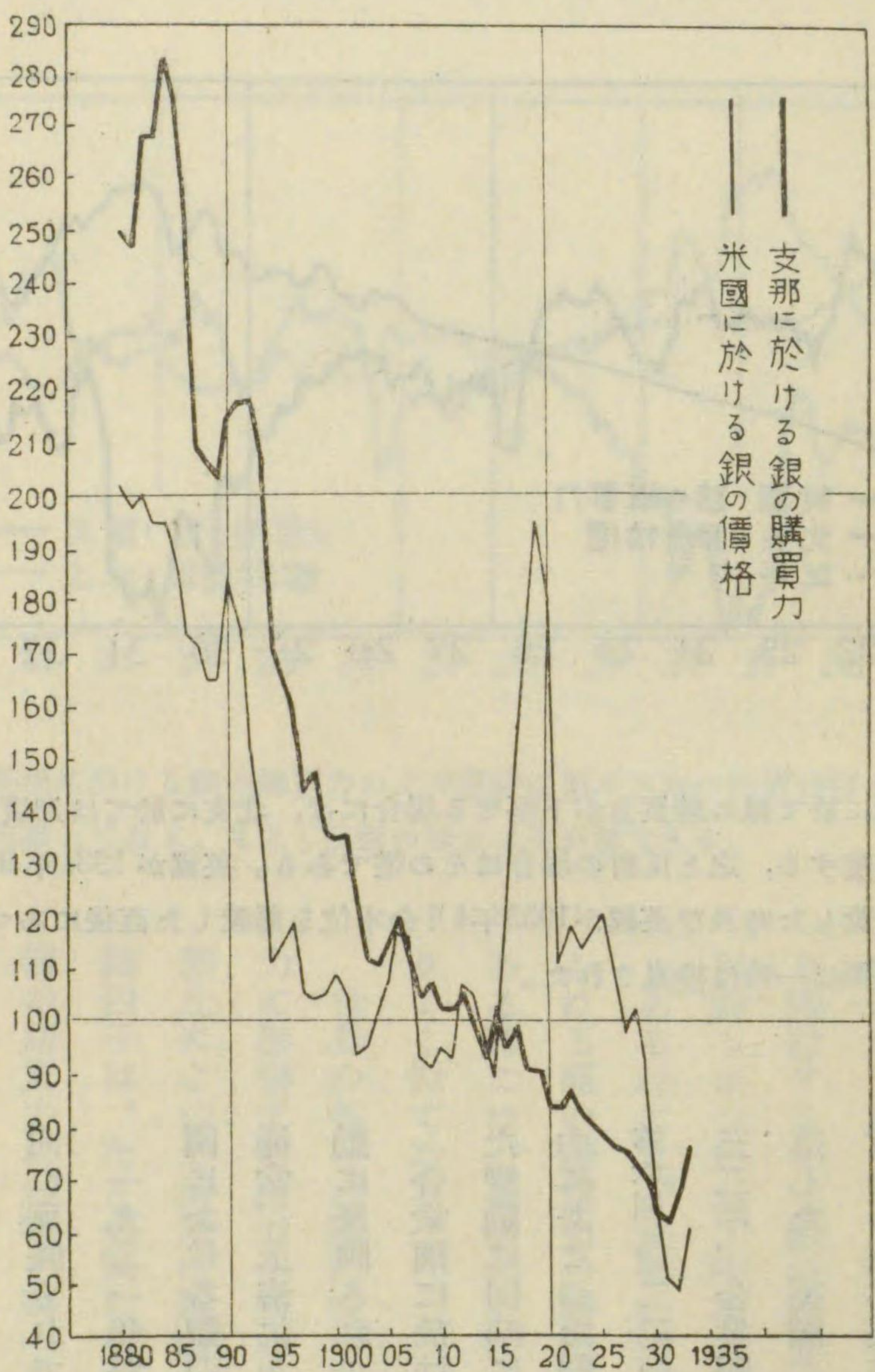
10月	5,100	80.5	95.1	84.6	23.03	80.3	91.9	88.2	87.4	91.0	111.9	106.0
11月	49.63	79.9	93.5	85.5	22.69	79.1	90.5	85.5	87.4	92.0	111.1	107.4
12月	49.00	78.9	93.3	84.6	22.44	78.2	89.4	86.2	87.5	90.7	110.7	105.5
1930	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	44.81	72.1	92.5	77.9	20.81	72.5	88.4	84.2	82.0	86.1	111.3	108.3
2月	43.56	70.1	91.4	76.7	20.00	69.7	86.3	82.9	80.8	84.1	114.5	111.3
3月	41.81	67.3	90.2	74.6	19.25	67.1	84.0	81.6	79.9	82.2	114.9	111.3
4月	42.50	68.4	90.0	76.0	19.56	68.2	83.5	80.3	81.7	84.9	114.1	111.2
5月	40.94	65.9	88.8	74.2	19.00	66.2	82.4	78.4	80.3	80.3	114.8	111.0
6月	34.13	54.9	86.8	74.2	15.91	55.5	80.5	75.7	68.1	75.5	118.6	117.5
7月	34.38	55.3	84.4	65.5	15.94	56.4	80.5	73.1	69.1	74.7	120.5	120.4
8月	35.25	56.7	84.3	67.3	16.19	56.4	79.5	74.4	70.9	77.2	120.2	119.6
9月	36.25	58.3	84.4	69.1	16.75	58.4	78.3	71.8	74.6	81.3	118.3	118.4
10月	35.81	57.6	83.0	69.4	16.56	57.7	76.3	71.2	75.6	81.0	116.0	115.4
11月	36.00	57.9	81.3	71.2	16.63	58.0	75.6	69.9	76.7	83.0	115.0	114.1
12月	32.38	52.1	79.6	65.5	15.19	52.9	73.5	68.6	72.0	77.1	114.5	113.6
1931	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	29.38	47.3	78.2	60.5	13.88	48.4	72.2	67.9	67.0	71.3	118.2	119.7
2月	26.88	43.3	76.8	56.4	12.44	43.4	71.7	67.9	60.5	63.9	122.2	127.4
3月	29.25	47.1	76.0	62.0	13.53	47.2	71.5	67.9	66.0	69.5	124.0	126.1
4月	28.38	45.7	74.8	61.1	13.19	46.0	71.3	66.6	64.5	69.1	124.5	126.2
5月	28.00	45.1	73.2	61.6	13.00	45.3	70.5	65.3	64.3	69.4	125.0	126.2
6月	26.63	42.9	72.1	59.5	12.38	43.2	69.7	65.3	62.0	66.4	124.8	129.2
7月	28.00	45.1	72.0	62.6	13.13	45.8	69.0	63.3	66.4	72.4	123.3	129.2
8月	27.50	44.3	72.1	62.6	12.81	44.6	67.2	62.7	66.4	71.1	123.8	130.3
9月	27.88	44.9	71.2	63.1	13.00	45.3	67.0	64.0	67.6	70.8	123.5	129.2
10月	29.75	47.9	70.3	68.1	17.25	60.1	70.2	65.3	85.6	92.0	121.3	126.9
11月	31.13	50.1	70.2	71.4	18.88	65.8	71.6	65.3	91.9	100.8	120.5	124.8
12月	30.25	48.7	68.6	71.0	20.00	69.7	71.6	67.3	97.3	103.6	119.4	121.8
1932	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	29.81	48.0	67.3	71.3	19.63	68.4	71.6	67.3	95.5	101.6	117.7	119.3
2月	30.13	48.5	66.3	73.2	19.63	68.4	70.9	68.6	96.5	99.7	119.9	—
3月	29.75	47.9	66.0	72.6	18.09	63.1	70.6	66.6	89.4	94.7	118.0	—
4月	28.25	45.5	65.5	69.5	16.88	58.8	69.1	65.3	85.1	90.0	118.8	116.7
5月	27.75	44.7	64.4	69.4	16.81	58.6	68.0	63.3	86.2	92.6	117.0	115.7
6月	27.63	44.5	63.9	69.6	16.88	58.8	66.2	60.7	88.8	96.9	115.0	113.6
7月	26.75	43.1	64.5	66.8	16.91	58.9	65.9	62.7	89.4	93.9	112.4	111.8
8月	28.00	45.1	65.2	66.8	17.93	62.5	67.2	64.0	93.0	97.7	111.3	109.8
9月	27.63	44.5	65.3	68.5	18.00	62.0	68.2	63.3	91.0	99.1	107.5	108.7
10月	27.38	44.1	64.4	68.5	17.78	62.0	68.2	61.4	90.9	101.0	107.5	108.7
11月	27.00	43.5	63.9	68.1	18.07	63.0	68.2	61.4	92.4	102.6	106.9	106.9
12月	25.13	40.4	62.6	64.5	17.10	59.6	68.2	61.4	87.4	107.1	107.1	107.5
1933	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	25.64	41.3	61.0	67.7	16.85	58.7	67.5	—	87.0	—	109.1	108.6
2月	26.43	42.5	59.8	71.1	16.91	58.9	66.8	—	88.2	—	108.5	107.6
3月	28.15	45.3	60.2	75.2	17.63	61.4	66.2	—	92.7	—	106.7	106.7
4月	30.58	49.2	60.4	81.5	18.22	63.5	65.5	—	96.9	—	103.0	104.6
5月	34.51	55.5	62.7	88.5	19.12	66.6	66.8	—	99.7	—	101.8	104.2
6月	36.19	58.2	65.0	89.5	19.12	66.6	68.9	—	96.7	—	103.1	104.5
7月	37.94	61.1	68.9	88.7	18.39	64.1	68.9	—	93.0	—	101.9	103.4
8月	36.01	57.9	69.5	83.3	17.90	62.4	69.5	—	89.8	—	98.5	101.7
9月	38.75	62.4	70.8	88.1	18.25	63.6	69.5	—	91.5	—	97.2	100.4
10月	38.62	62.2	71.2	87.4	18.32	63.5	69.5	—	91.4	—	95.2	100.3
11月	42.94	69.1	71.1	87.4	18.38	64.1	69.5	—	92.2	—	94.5	99.9
12月	43.53	70.0	70.8	98.9	18.62	64.9	69.5	—	93.4	—	93.1	98.4
1934	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月	44.25	71.2	—	—	19.38	67.5	—	—	—	—	92.0	97.2
2月	45.25	72.8	—	—	20.19	70.4	—	—	—	—	92.5	98.0

- (註1) 本表を基礎としたる第四圖及び第五圖にあつては、英國の銀の購買力は同國通商局の卸賣物價指數によるものである。
- (註2) 1921年より1925年迄は孫拯 支那譯 Bratter, Herbert, M. "The Price of Silver" 統計月報第二卷第六號、1930年6月。1926年より1932年迄は國定稅則委員會「上海貨價季刊」、1932年4—5月號及び10—12月號。1933年は天津南開大學經濟學院 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)
- (註3) 米國勞働統計局卸賣物價指數。
- (註4) 米國卸賣物價指數に對する銀價指數の百分比例。
- (註5) 1921年より1932年迄は國定稅則委員會「上海貨價季刊」、1932年10—12月號。1933年は天津南開大學經濟研究所 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)
- (註6) 英國通商局指數、1913年を100とするものより、1926年を100として換算せるもの、原本は支那實業部「中外物價指數」及び Federal Reserve Board, Washington, D. C. : "Federal Reserve Bulletin", 1933年7月。1921年より1923年迄は月別の數字は存在しない。從てこの月別の數字は、スタテイクス誌の月別指數がその各年の平均に對して同一割合にあるところからして、各月の指數はその年の平均に對して同一割合にあると假定して挿入せるものである。
- (註7) 英國スタテイクス誌サワーベツク卸賣物價指數にして1910—1914年を100とするものから、1926年を100として換算したるもの、原本は Warren, G. F. and Pearson, F. A. : "Wholesale Prices for 213 Years, 1720 to 1935", "Cornell University Agr, Exp. Stat, Mem. 142, Nov, 1932, p. 14
- (註8) 英國通商局卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。
- (註9) 英國スタテイクス誌卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。
- (註10) 實業部「中外物價指數」及び天津南開大學經濟學院 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)
- (註11) Sheng, T. 「修正物價指數」國定稅則委員會統計叢刊第六種。1933年7月米國勞働局「卸賣物價」



- ice.(南開統計週刊)
- (註3) 米國勞働統計局卸賣物價指數。
- (註4) 米國卸賣物價指數に對する銀價指數の百分比例。
- (註5) 1921年より1932年迄は國定稅則委員會「上海貨價季刊」1932年10—12月號。1933年は天津南開大學經濟研究所 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)
- (註6) 英國通商局指數, 1913年を100とするものより 1926年を100として換算せるもの, 原本は支那實業部「中外物價指數」及び Federal Reserve Board, Washington, D. C.: "Federal Reserve Bulletin", 1933年7月。1921年より1923年迄は月別の數字は存在しない。從てこの月別の數字は, スタテイスト誌の月別指數がその各年の平均に對して同一割合にあるところからして, 各月の指數はその年の平均に對して同一割合にあると假定して挿入せるものである。
- (註7) 英國スタテイスト誌サウアーベツク卸賣物價指數にして1910—1914年を100とするものから, 1926年を100として換算したるもの, 原本は Warren, G. F. and Pearson, F. A.: "Wholesale Prices for 213 Years, 1720 to 1935," Cornell University Agr, Exp. Stat, Mem. 142, Nov., 1932, p. 14
- (註8) 英國通商局卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。
- (註9) 英國スタテイスト誌卸賣物價指數に對する倫敦銀價指數の百分比例。
- (註10) 實業部「中外物價指數」及び天津南開大學經濟學院 Nankai Weekly Statistical Service.(南開統計週刊)
- (註11) Sheng, T. 「修正物價指數」國定稅則委員會統計叢刊第六種, 1933年7月米國勞働局「卸賣物價」

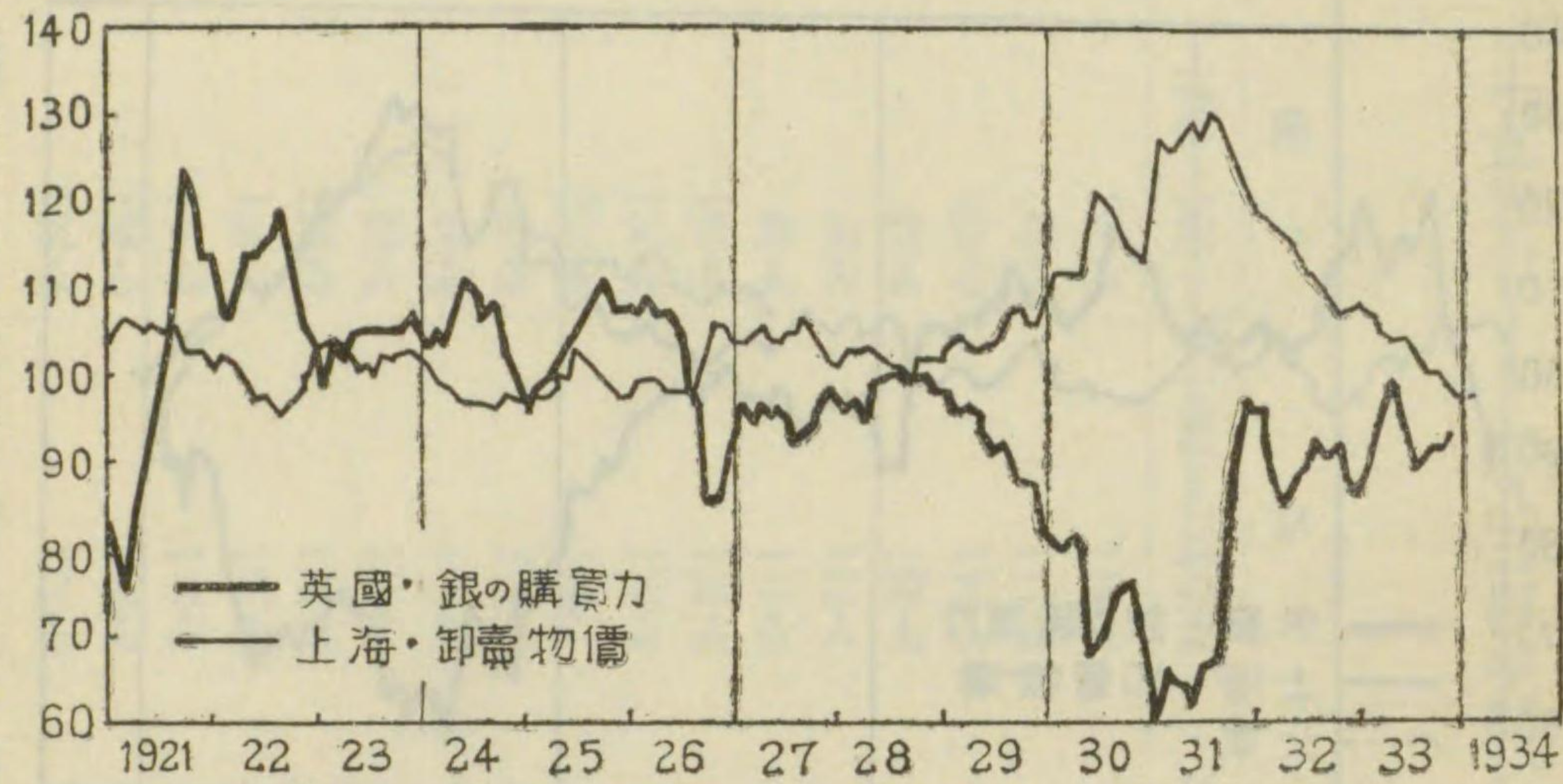
第3圖 米國に於ける銀價格指數及び支那に於ける銀の購買力指數 1910—1914=100(第二表による)



【註】 米國非にて表はせる銀價格は支那に於ける商品で表はせる銀の購買力と直接比較し得ない。例へば米國に於ける大部分の銀價格の變動は米國の金弗の購買力の變動によるものであつたし, 又銀の購買力の變動とは殆んど無關係であつた。



第5圖 1921—1934年英國に於ける銀の購買力指數及び上海に於ける卸賣物價指數  
1926=100(第三表による)



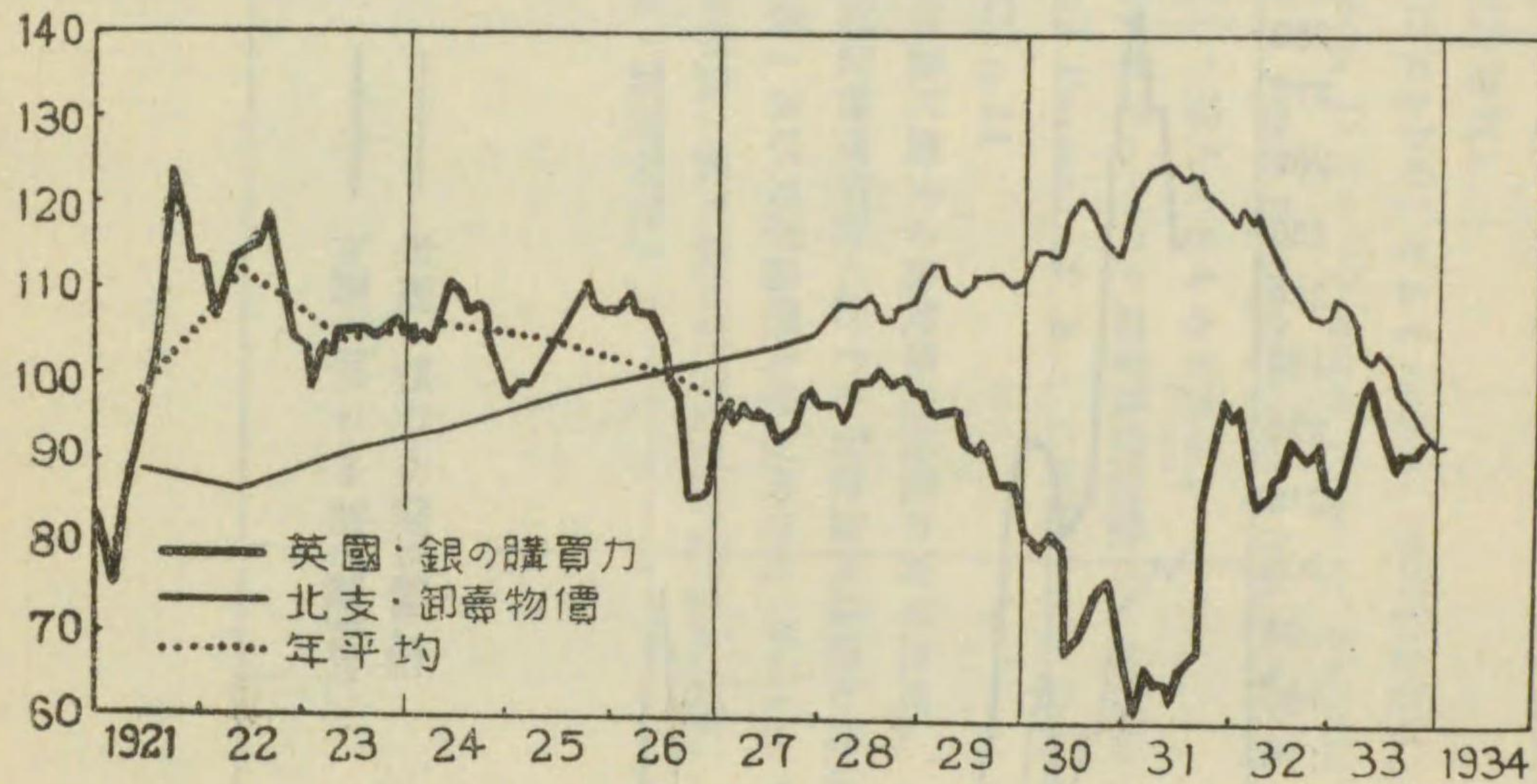
【註】英國に於ける銀の購買力の上向運動は屢々上海の卸賣物價の下向運動と相對してゐる。又之と反對の場合はその逆である。

て、一九三二年においては、合衆國における銀の購買力は、英國及び支那に於けるそれよりも遙かに低かつた。一九三三年の初め、合衆國が金本位を離脱するや、銀の購買力の急激な上昇があり、反動もあつたが、結局回復した。

ある時には、支那の卸賣物價水準は、合衆國における銀の購買力の變動をより忠實に反映し、又ある時には、英國における銀の購買力の變動によりよく似てゐる。

世界の各々の國には、その國における銀の購買力に影響する諸力が働いてゐる。銀の取引が輸出禁止によつて嚴重に制限されない限り、これらの諸因子は、たとへ強くなくとも、諸外國に於ける銀の購買力に影響を與へる。従つて任意の二ヶ國における銀の購買力の變動は、大體似通つてはゐるが、嚴密に同じではない。國を異にするに従つ

第4圖 1921—1934年英國に於ける銀の購買力指數及び北支に於ける卸賣物價指數  
1926=100(第三表による)



【註】英國に於て銀の購買力が下落せる場合には、北支に於ては卸賣物價は屢々上騰する、之と反對の場合はその逆である。英國が1931年9月金本位を離脱した時及び英國が1933年4月金本位を離脱した直後にあつては、この關係は一時は攪亂された。

つたが、銀の購買力の一般的な上昇傾向は、支那の物價水準の一般的下落傾向に反映されてゐる。

一九二一年から一九三三年の間、英國における銀の購買力の月々の變動は通常、上海における卸賣物價の逆の變動に反映されてゐる(第5圖)。

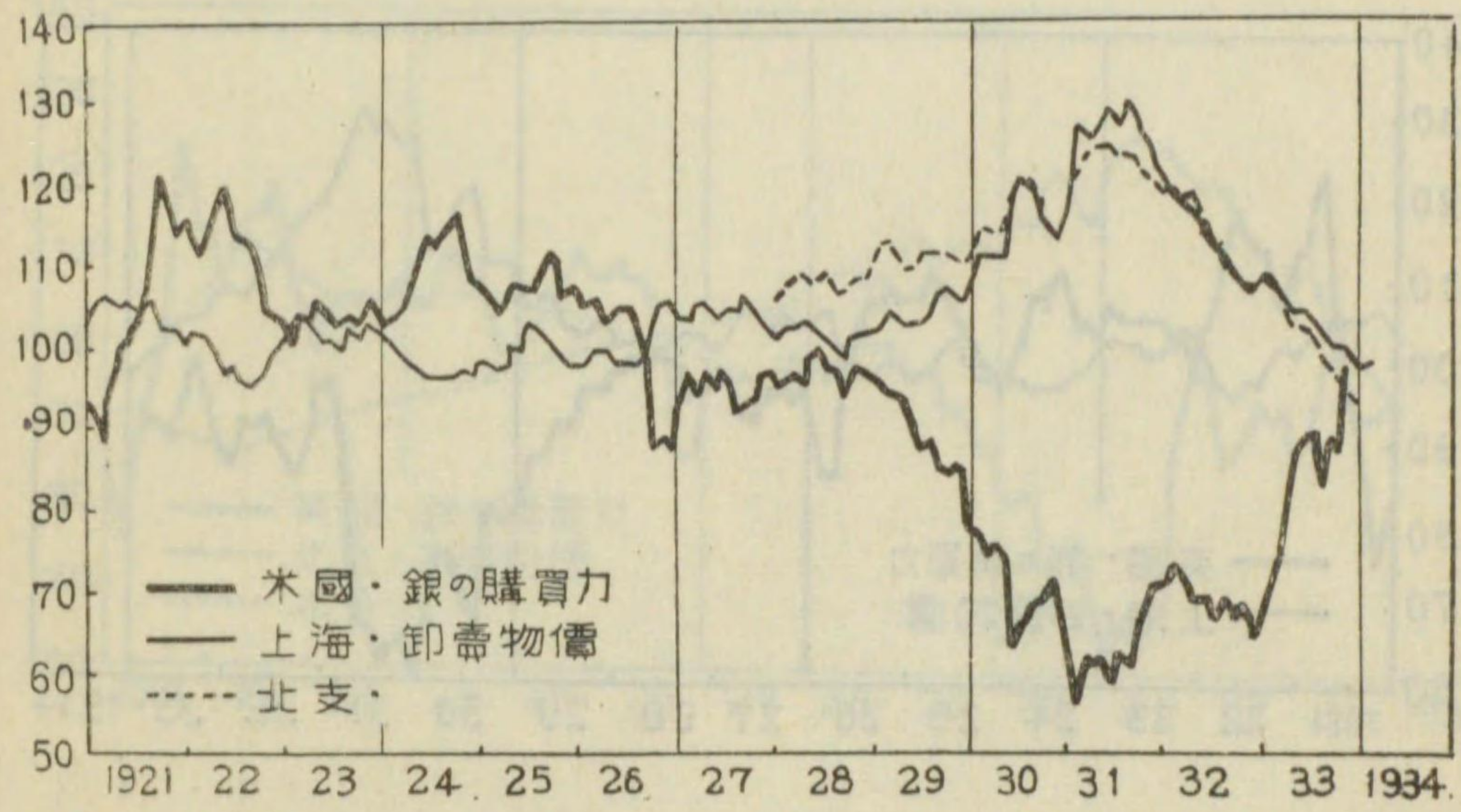
合衆國に於ける銀の購買力におこつた變動は同時に英國における銀の購買力におこつた變動に似てゐる(第5圖及第六圖)。二三の例外が目につく。一九三二年、合衆國の卸賣物價は急速に下落した。英國における同様な銀の購買力の上昇傾向は、基準商品たる銀の價格が他の物價より早く下落せんとする傾向によつて一部相殺された。従つ



年及び月	一九三〇年					一九三一年					一九三二年					一九三三年					一九三四年									
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
南	100.0	96.6	103.7	96.6	101.1	101.6	97.4	99.3	103.3	101.6	101.1	97.8	97.4	100.3	101.6	101.1	97.8	97.4	100.3	101.6	101.1	97.8	97.4	100.3	101.6	101.1	97.8	97.4	100.3	101.6
京	115.3	111.4	118.4	113.7	116.6	116.1	113.3	114.5	119.1	118.3	116.6	113.3	114.5	119.1	118.3	116.6	113.3	114.5	119.1	118.3	116.6	113.3	114.5	119.1	118.3	116.6	113.3	114.5	119.1	118.3
漢	100.0	93.0	107.3	91.7	102.3	103.6	97.9	97.2	103.3	103.7	102.3	97.8	97.2	103.3	103.7	102.3	97.8	97.2	103.3	103.7	102.3	97.8	97.2	103.3	103.7	102.3	97.8	97.2	103.3	103.7
口	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3	115.3	107.3	115.3	107.3	115.3
青	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0	100.0	96.0	104.0	96.0	100.0
島	115.3	110.7	108.8	111.7	114.7	114.7	111.7	114.7	111.7	114.7	114.7	111.7	114.7	111.7	114.7	114.7	111.7	114.7	111.7	114.7	114.7	111.7	114.7	111.7	114.7	114.7	111.7	114.7	111.7	114.7

第四表 一九三〇—一九三四年間、南京、漢口及び青島に於ける卸賣物價指數  
一九三〇を一〇〇及び一九三〇を一一五・三二五とす

第6圖 1921—1934年米國に於ける銀の購買力指數及び支那に於ける卸賣物價指數  
1926=100(第三表による)



【註】米國に於ける銀の購買力の變動は屢々支那に於ける卸賣物價の逆變動と相對してゐる。

て、卸賣物價指數の構成及び内容も異なるから、現實には存在しない銀の購買力も外面上異つてくることもある。交通運輸は敏速ではないが、支那は商業國である。一九三一年以來、世界の銀の購買力の増加は、南部四省を除いては——この省の資料が除外してゐる——全支那の物價下落に反映されてゐる。局部的の諸因子は、この勢力を變更はするが、相殺はしてゐない。一九三〇年及び一九三一年の初めの間は、漢口の卸賣物價は、上海及び天津の卸賣物價と殆んど同様の傾向を示した(第四表及第7圖)。一九三一年八月には、一九三二年の洪水のため、漢口の物價指數が利用出来ない。この洪水は



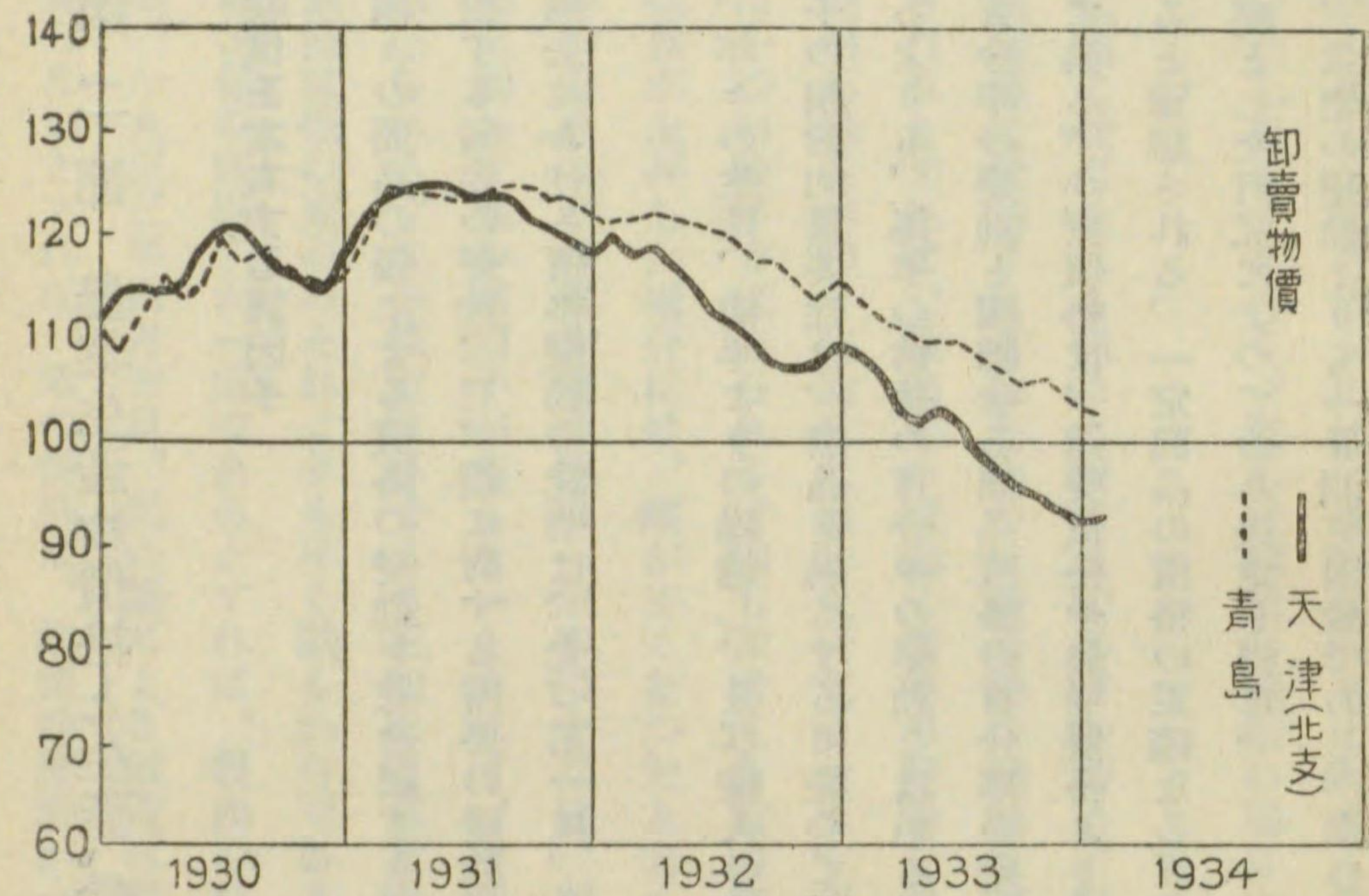




第8圖 1930—1934年天津(北支)及び青島に於ける卸賣物價指數

1926=100(第四表による)

第一節 銀の購買力と支那物價水準との關係



【註】 青島と天津に於ける卸賣物價は 1931 年中に最高點に達し、以來平行して下向してきた、然し乍ら青島に於ては天津に於ける程急激でなかつた。

九三一年後は平行して下落したが、それ程急速ではなかつた。

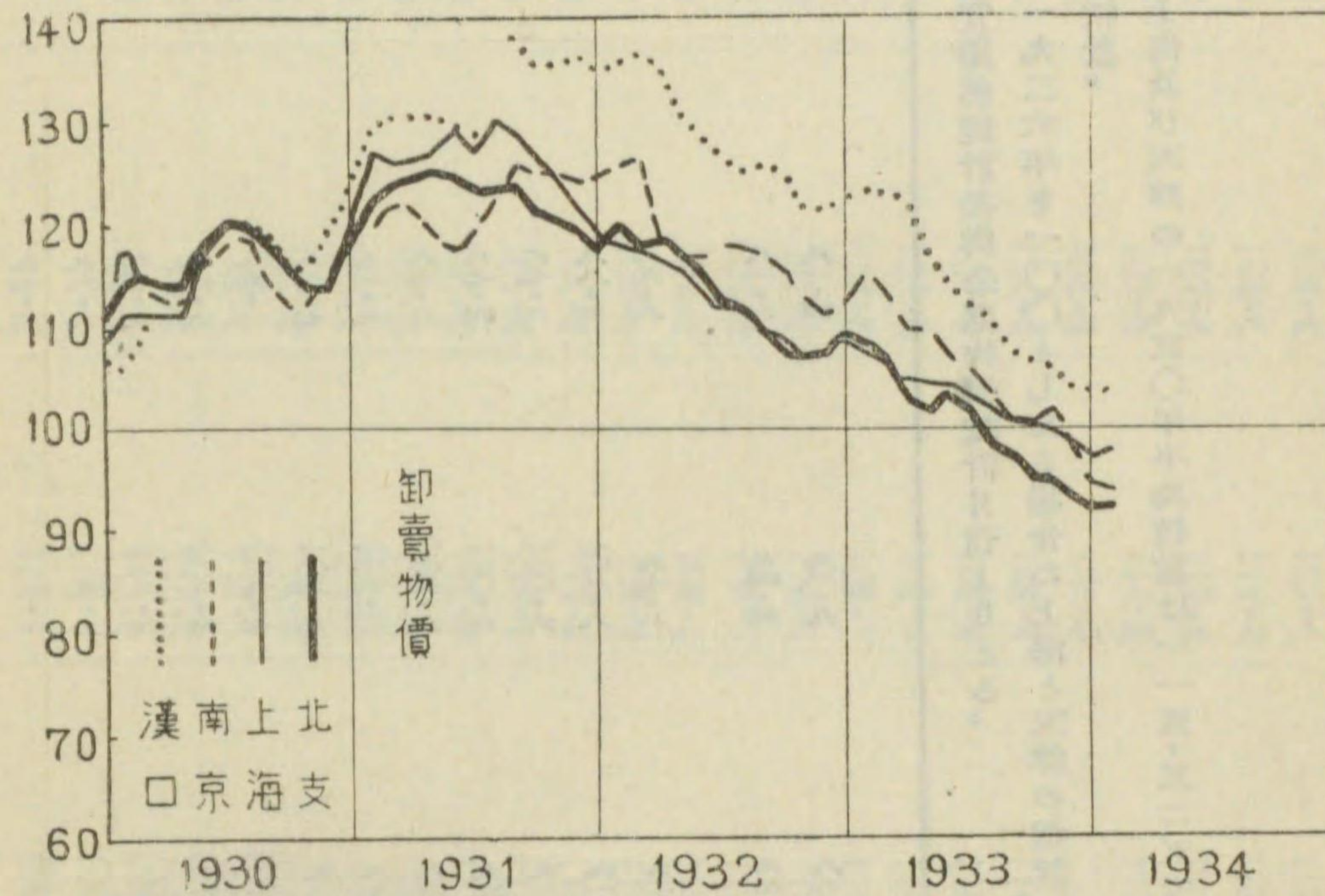
(第四表及第八圖)

\* 金陵大學農業經濟學院「中華民國二十年水災區域之經濟調查」金陵大學叢刊新號)第一號、民國二十一年四月出版

第7圖 1930—1934年漢口・上海・南京及び北支(天津)に於ける卸賣物價指數

1926=100 (第四表による)

第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響



【註】 漢口の卸賣物價は1931年8月の洪水による饑饉で非常に騰貴してゐた。南京も同様その影響を受けてゐた。さもなければ支那の各地方に於ける卸賣物價は1930年8月以来その歩調は相當密接に一致してゐたらう。

漢口から海岸に至る、揚子江及び淮河、流域約八千七百萬畝の地域に互る\*——漢口の物價を急激に上昇せしめ、長く上海及び天津のそれよりも高からしめた。洪水による饑饉がなくなるや漢口の物價は急速に下落し、上海及び天津のそれに近づく傾向を示した。漢口は支那の内部、上海から一六〇軒の揚子江沿岸にある。

南京に於ては、物價は、一九三一年の洪水による饑饉のため多少影響を受けたが、漢口におけるほどではなかつた。

上海の物價は、洪水のため、かすかに上昇したに過ぎなかつた。

青島の物價は、一九三一年には、天津のそれと同じ水準にまで昇つた。一



## 第二節 農業生産物價格と生産、輸入、輸出、物價水準との關係\*

## 支那に於ける物價を左右する諸因子

支那における個々の商品の銀による價格の變動を惹き起すと思はれる因子は五つある。それは、一、商品の供給の變動、二、商品に對する需要の變動、三、銀に對する需要の變動、四、銀の供給の變動、五、銀弗の形態における銀量の變動、である。過去における價格變動の説明は、先づ第一に、これらの五因子の變動の程度を測かるといふ問題に歸する。

商品の供給は、年々の生産、前年よりの繰越し、及び輸入の總和から輸出を差引いたものに等しい。供給におけるこれらの別々の因子の相對的重要性は、商品を異にするに従つて、著しく異なる。供給を測かるに當つては、供給の正確なる絶對量を知るよりも、毎年の供給の百分率の變動をはかる方が、より重要であり且つ遙かに容易である。

供給の一定の百分率の變動と關聯せる商品價格の百分率の變動は、商品を異にするに従ひ、又、如何なる地點の物價をとるかによつて異なる。小賣價格は、卸賣價格や農場價格よりも、供給によつて變動することが少ない。一定の供給の變動によつて起ると豫想される、一定商品の價格の正確なる百分率の變動は、數年の期間に互る、信用し得べき供給と價格の資料を基礎とした研究によつてのみ決定し得る。

需要の變動は、供給の變動よりも一層測定困難である。幸ひ、小麥、米の如き重要食料品に對する需要は年々大なる

變動はない。資料が利用し得る場合には、重要食料品に對する通常の需要は、過去五年に於ける該生産物の平均一人當り消費であると假定し得るであらう。僅か短期間の觀察の場合には、重要食料品に對する需要は變動のないものとみて差支へなからう。

棉花の如く製造業に使用される商品に對する需要の變動は、偶發的であり且つ大きい。従つてそれに相應せる影響を價格に及ぼす。製造業に使用される生産物の工場消費の變動は、需要の變動を示すものとして差支へない。もし一商品が廣範圍に輸出されるとすれば、輸出量の變動は需要の變動を示すものとみて差支へない。はげしい需要の變動をうける商品の價格を説明し得るが如き結論を見出した研究は今まで非常に少ない。

銀の需要供給は一つの數字ではかられる。即ち非常に多數の商品で示された銀の價値又は購買力である。多數の商品の平均卸賣物價指數が上昇した場合には、銀が安くなつたと考へる方が、その他凡ての商品の價値が異常に上昇したと考へるよりも合理的である。卸賣物價水準の一定率の上昇は、銀の購買力のそれだけの減少を示すと通常考へられる。従つて、もし價格を動かす他の諸因子が變らないとすれば、任意の一ケの商品の卸賣價格は平均卸賣物價と同じ率だけ上昇するものと考へられる。この假定は必ずしも正確には眞實でないかも知れぬ、何となれば價格が變動するといつても、ある商品の價格は他の商品のそれよりも早く動くからである。

もし價格を動かす他の四因子が一定であるとすれば、銀弗の形態における銀量の一定率の減少は、同率だけ、基準商品の價格を高める。一九三三年四月十日、元の銀による價値は純銀二三・九〇二五瓦から二三・四九三四瓦に動いた。もし他の諸因子が變らないとすれば、米の價格は、銀價の變動が一般的に影響を與へる様になるや否や、一・七%も上昇



したであらう。

この章の以下の節で述べられる價格の説明に於ても、資料が缺けてゐるため、種々の商品の價格を左右すると思はれる重要因子を、大體に於て述べるに過ぎない。

供給と價格との關係に關する今までの研究から、供給の適度の變動は通常、農産品の購買力の同率の變動を惹きおこすと云ふことが知られる。<sup>\*\*</sup> 正確な相互關係は、商品、國を異にするに従ひ、及び販賣過程において如何なる段階にある價格をとるかに従つて異なる。供給の極端なる變動は、供給の變動した率より驚く可きほど大なる、或は少なる影響を物價に與へる。以下の推定においては、購買力は供給の減少、或は需要の増加と同率だけ上昇するものと假定する。

次の推定に於ては、又、一つ商品の價格は平均卸賣物價と同率だけ上昇し、或は下落すると假定す。換言すれば、銀の價値の一定率の下落(上昇)は、同率だけ商品の價格を上昇(下落)せしめる。

上述の假定には弗の銀重量の小變動の結果が包含されてゐる、といふのはこの變動は、それが有効なだけ、平均卸賣物價に影響するからである。

以下の物價の推定を考察するに當つては、生産、輸入、輸出の推定に誤差の恐れのあることを考慮しなければならぬ。例へば、小麥の供給のかすかな増加を示す數字を示したからといつて、只今のところ、絶対に供給の減少がなかつたといはへない。結論をひつくり返す様な大きな誤謬は多分大抵の供給の數字の中にはないだらう。毎年の供給の相對的數字は多分いろ／＼の年における供給の實際の數量(擔)よりも正確である。物價を推定するに役立つのは、供給の相對的變化であつて、その現實の量ではない。

價格の統計的説明が正當であるか否かの最も重要な判斷標準の一つは、それが當てはまるか否かといふことである。今まで、利用し得る統計を使用し、前述の假定と結び付けて、比較的容易に分析される商品物價を可成り満足すべき程度に説明出來た。

一片の證明に基ける結論が信頼されていゝかどうかは、この資料が信用し得るや否や不安であるため、吟味さるべきである。もし第一の證明によつて主張された結論が、第二の證明によつて支持されるならば、結論は二倍以上も信頼するに足るものとなる。僅かの證明に基ける結論が何故必ずしも眞實でないかといふことは容易に分るが、互に支持し合つてゐる一群の資料に基ける結論が何故必ずしも固持されぬかは決定困難だ。

ある農産物の價格を左右する因子を分析するに當つて、一九三一年が基準期として使用される、といふのは生産及び農産品價格の資料が利用し得るのは一九三一年からであるからである。ある特定の年を一〇〇として使用するといふことは、必ずしも、その年の状態が正常であるといふことを意味しない。

もし商品の需要供給及び銀の價値の算出が信用し得るものであるならば、たとへ、諸因子の中の二三が、基準として選ばれた年に異常に高く或は低くあつても、基準年の選擇は、これらの諸因子が物價に及ぼす影響に關する結論には影響しないであらう。商品の需要供給を無限に大きな程度に左右する様な因子が働いた年だけは、論理的には基準年として使用し得ない。

## 小 麥



支那における小麦生産は、一九三一年から一九三三年に至る期間、實質的には變化しなかつた(第五表)。輸入は一九三一年の方がその後の年よりも多かつた。小麦粉の輸入を小麦に換算した數量は、一九三二年が最高、一九三三年が最

第五表 支那に於ける小麦の供給 (單位千擔)

年次	生産 <sup>註1</sup>	輸入 <sup>註2</sup>	輸出 <sup>註2</sup>	純供給	一九三一年度の供給を基準とせる増減百分比
一九三一年	三九、二八〇	二二、七三三	七	四四、九四四	〇・〇
一九三二年	四〇、七三〇	一五、〇八五	八三	四三、六三九	一・五
一九三三年	三九、二〇〇	一七、七二六	八七	四九、四四七	一・三
一九三四年	三七、四四五	六、八八七	一、〇五三	三九、〇四七	(-)(-)

【註1】 南京實業部中央農業實驗所農業經濟科未發表資料。廣東省の分は一九三三年が不明なる爲除外してある。

【註2】 上海、實業部貿易局未發表資料。一九三一年には滿洲國の貿易を含み、一九三二、一九三三、一九三四年にはそれを推定して包含せしめた。一九三二上半期の滿洲國貿易額と同額分を一九三二年の公表された數字に加へ、この額の二倍せるものを一九三三年及び一九三四年に加へた。小麦粉を小麦に換算するには一〇〇の小麥から七〇の小麥粉が生ずると假定した。

低であつた。小麦の輸出は重要ではないが、一九三一年よりも一九三二年及び一九三三年の方が多かつた。一九三二年の純小麦供給に比し、一九三二年のそれは一・五%高く、一九三三年のそれは一・三%低かつた。單に供給に關する因子のみを問題とするならば、支那の小麦價格が、一九三一年から一九三三年に至る間に、著しい程度に變動したと考へる

理由はない。

もし小麦の卸賣價格が輸入によつて影響される程度が、輸入が全支那の供給中に占むる率よりも大であるとすれば、小麦の價格は、一九三一年から一九三三年に至る期間内に、多少上昇したろうと想像される。何となれば小麦及び小麦製品の純輸入は、この期間内に、多少減少したからである。

第六表 一九三二、一九三三及び一九三四年十月—十二月平均の上海に於ける小麦の卸賣

物價に對する小麦供給量並びに一般物價水準の割合

一九三一年一〇—十二月平均を一〇〇とす

年次	小麦供給量指數 一九三二—一〇〇 <sup>註1</sup>	一〇—十二月の上海卸賣物價指數一九三一年同期を一〇〇とす <sup>註2</sup>	一〇—十二月の上海の小麦平均豫想價格(擔當り) <sup>註3</sup>	上同の實際價格(擔當り) <sup>註4</sup>
一九三一年	100.0	100.0	三・三三兩	三・六三兩
一九三二年	101.5	八六・五	三・三三兩	三・五二
一九三三年	九八・七	七九・九	三・〇二	二・九〇三
一九三四年	八九・九	七八・六	三・〇七	三・二九四

【註1】 第五表による。

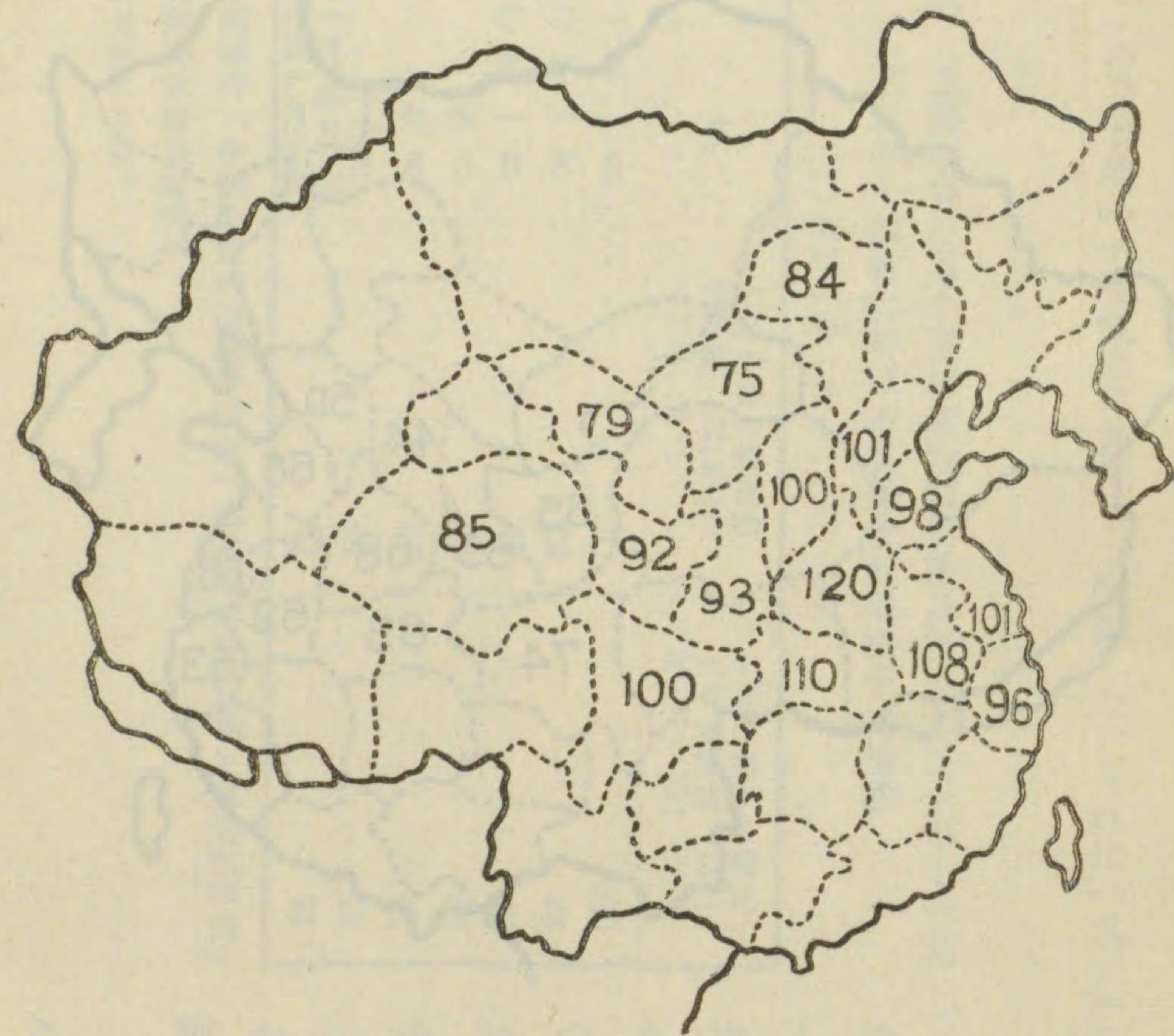
【註2】 國定稅則委員會、一九三五年を一〇〇とせる上海卸賣物價指數から換算。

【註3】 一九三一年の實際價格に卸賣物價指數を乗じ且つ、供給指數で除したるもの。

【註4】 中國銀行「中國最近物價統計圖表」及び國定稅則委員會「上海貨價季刊」一九三三年一〇—十二月號。弗價格は一・三九八にて除し兩に換算した。



第9圖 1934年1月各省の小麥に對する農民の受取價格指數 1931年1月=100(第七表による)



【註】 1931年の水災を被つた諸省に於ては小麥價格は1932年一月は高かつた。

一九三一年から一九三三年の間における、供給の因子は、小麥價格の安定、或は、恐らくは上昇を示してゐるに拘らず、上海における支那小麥の卸賣價格は、實際には、一九三一年十月——十二月間の一擔當り三・七八三兩から、一九三二年の三・五二兩、一九三三年の二・九〇三兩に下落してゐる。  
この下落は明白に、大部分は銀價の上昇に負ふてゐる。銀價上昇の結果、一九三二年の最後の三ヶ月に於ける平均卸賣價格を、一九三一年同期のそれの八六・五%に、一九三二年の

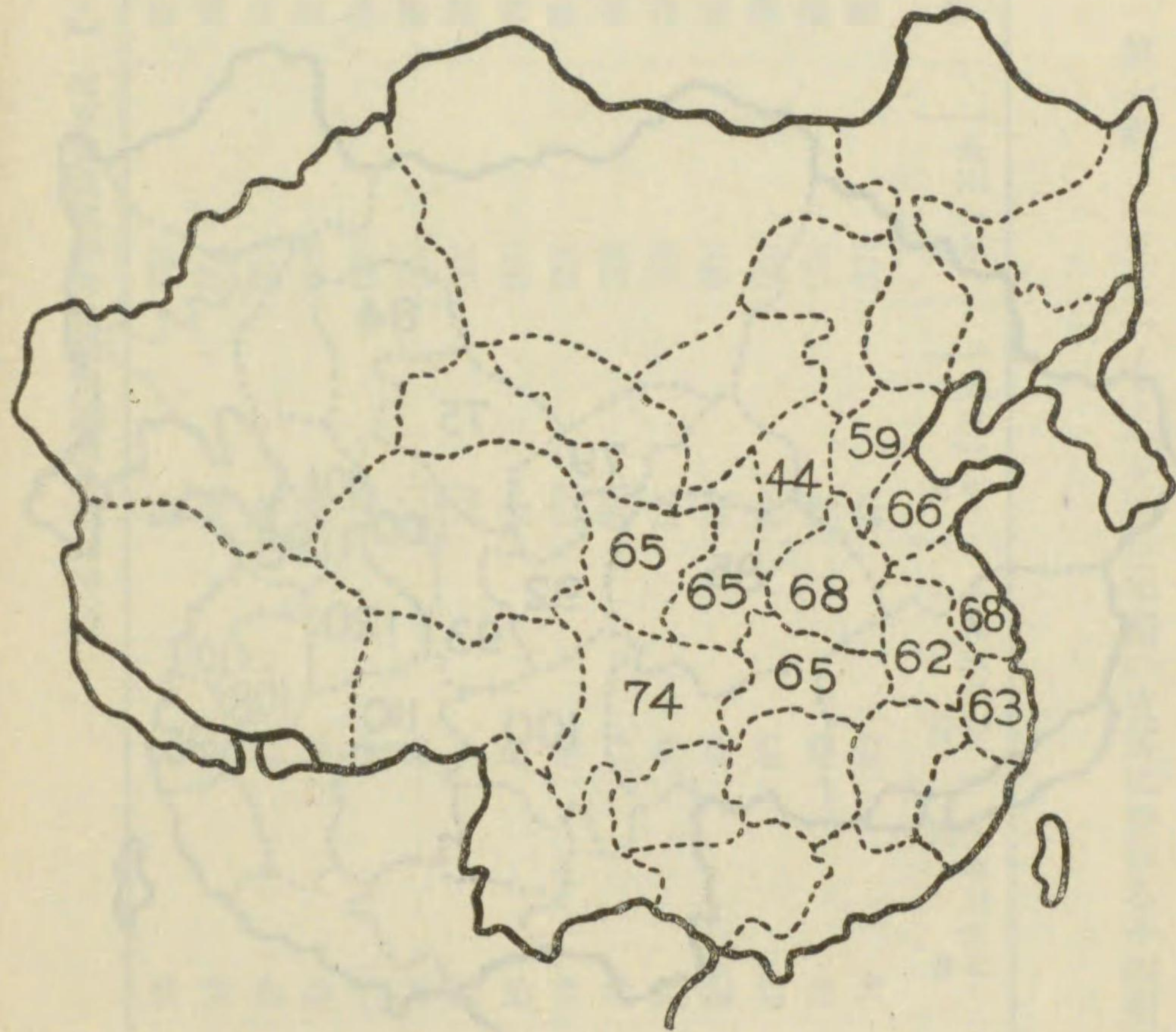
【註】 南京實業部中央農業實驗所農學經濟科。

省名	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三三年三月	一九三三年七月	一九三三年十月	一九三三年四月平均
平	100	100	100	100	100	100	100
寧	100	100	100	100	100	100	100
浙	100	100	100	100	100	100	100
四	100	100	100	100	100	100	100
湖	100	100	100	100	100	100	100
安	100	100	100	100	100	100	100
江	100	100	100	100	100	100	100
山	100	100	100	100	100	100	100
河	100	100	100	100	100	100	100
山	100	100	100	100	100	100	100
陝	100	100	100	100	100	100	100
甘	100	100	100	100	100	100	100
青	100	100	100	100	100	100	100
綏	100	100	100	100	100	100	100
察	100	100	100	100	100	100	100
哈	100	100	100	100	100	100	100
均	100	100	100	100	100	100	100
夏	100	100	100	100	100	100	100
江	100	100	100	100	100	100	100
川	100	100	100	100	100	100	100
北	100	100	100	100	100	100	100
徽	100	100	100	100	100	100	100
蘇	100	100	100	100	100	100	100
東	100	100	100	100	100	100	100
北	100	100	100	100	100	100	100
西	100	100	100	100	100	100	100
西	100	100	100	100	100	100	100
肅	100	100	100	100	100	100	100
海	100	100	100	100	100	100	100
遠	100	100	100	100	100	100	100
爾	100	100	100	100	100	100	100

第七章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響  
第七表 一九三二——一九三三年間の支那に於ける十四省の小麥に對する農民の受取價格指數  
一九三一年一月を100とす (註1)



第10圖 1933年1月各省の小麥に對する農民の受取價格指數 1931年1月=100(第七表による)



【註】 1933年10月には農民の受取價格は1931年1月に於けるものの約三分の二であつた。諸事情は小麥地帯を通じて可成り不均一であつた。

三〇

それを七九・九%に低落せしめた(第六表)。

これらの指數に、一九三一年第四半期の小麥價格を乗じ、それを供給の指數(實際的には一〇〇)で除せば、現實の價格に可成り接近した近似數が得られる(第六表)。

小麥價格の下落の如く思はれたものは、より正確に記述すれば、小麥で表はされた銀價値の上昇である。農民の小麥に對する受取價格は、一九三一年一月より一九三三年九月の間に、

非常に下落した(第七表、第9及10圖)。  
一九三二年一月、下地の小麥價格は甚だしく變動した。それは一九三二年下半年に起つた大洪水の結果である(第九圖)。

第八表 上海に於ける小麥卸賣物價指數及び一九三一年—一九三三年十四省に於ける農民受取價格平均指數 (一九三一年一月を一〇〇とす)

年	月	上海小麥の卸賣物價指數 一九三一年一月=100 (註一)	小麥に對する農民の受取價格 一九三一年一月=100 (註二)
一九三一年	一月	100	100
一九三二年	一月	83	94
一九三三年	一月	77	83
	四月	77	83
	七月	76	83
	一〇月	74	83
	一九三三年一月、四月、七月、一〇月の四ヶ月平均	74	83

【註一】 中國銀行「中國最近物價統計圖表」、國定稅則委員會「上海貨價季刊」實業部未發表資料。

【註二】 第七表による。

第二節 農業生産物價格と生産、輸入、輸出、物價水準との關係

安徽、河南、湖北の諸省における小麥價格は洪水による饑饉のため、驚くべきほど上昇したが、四川及び揚子江、淮河流域のすぐ北方に位せる諸省の價格はそれほど強い影響をうけなかつた。江蘇省は洪水の被害は甚しかつたが、價格の上昇は異常ではなかつた、といふのは他の地方から容易に供給をうけることが出来たからである。

一九三三年十月には、小麥價格の状態は、かゝる大地域に豫期し得る限り支那を通じて齊一であつた(第10圖)。

一九三二年一月は、一九三一年の洪水による奥地の饑饉のため、小麥の農場價格は上海



に於けるほど平均してゐなかつた。一九三三年には、奥地の小麦價格は上海におけると同程度に下落した(第八表)。ある人は次の如き意見を表明してゐる、即ち、上海及び類似の大都市は經濟的に奥地と隔離されてゐる、と。支那の奥地は屢々一つの非商業的自給的地區、若くは一聯のかゝる地區であり、外界の價格を支配する諸力から全く切り離されてゐるものであるといはれる。

價格に關する資料は、これらの想像が決定的に事實に反してゐることを示してゐる。支那の奥地における物價は、明白に、支那の他の部分の物價を支配する諸力に敏感である。一九三一年の洪水による局地的及び一時的變化を措いて問はないとすれば、一九三一年から一九三三年に至る期間において、支那を通じて小麦價格を支配せる最も強力なる力は明白に銀價値の上昇であつた。

米

一九三一年から一九三三年に至る間、上海における米價を左右する因子は、一九三一年八月に始まり、上海に對する米の供給源として重要な地域を襲つた、洪水の影響を考慮に入れるとき、多少錯綜してゐる。この洪水による饑饉が如何に重要な意味を有するかといふことは、常熟長粒米の價格は一九三一年七月、九・八八三兩であつたものが、一九三一年八月には、一二・六四七兩に上昇し、且つ、約一年間高價格を維持するかの如くみえた、といふ事實によつて示されてゐる。<sup>\*\*\*</sup>

一九三二年には、米の純供給が一九三一年より一五・一%多く(第九表)、一九三三年のそれは、一九三一年より一七・

第九表 米の供給 (單位千擔)

年次	全支那生産額(註1)	全支那輸入額(註2)	全支那輸出額(註3)	全支那供給額	一九三一年供給額を基準とせる増減百分比
一九三一年	八〇,七六〇	一〇,七四一	三〇	八二,二九一	〇
一九三二年	九〇,九三〇	三,五二七	四	九三,四〇三	十一・五
一九三三年	九三,九〇〇	三,四八〇	一〇	九五四,三三〇	十七・六
一九三四年	六一四,〇一五	二〇,七六六	二九	六四二,七二〇	一三三・〇

【註1】 實業部中央農業實驗所「民國二十二年農情報告彙編」及び「農情報告」一九三八年一月。

【註2】 稅關報告。滿洲國の非常に少量の米の輸出入に對する斟酌は第五表脚註「2」に説明せる方法を以てした。

六%多かつた。

一九三四年には二三%少かつた。この減少は大部分干魃に負ふものであるが、輸入も亦少かつた。

一九三二年、三三年、三四年の各々の十月から十二月に至る期間の米價を説明するには、米の供給と、銀價値の變動が考慮に入れられねばならぬ。一九三二年の米の供給は一九三一年のその一一・一%であつた。一九三二年十月—十二月間の米價は従つて、他の事情が同一であるとすれば、それだけ一九三一年よりも低くなければならぬ筈である。しかし銀そのもの、價値が上昇したことは、平均卸賣物が一九三一年の水準の八六・五%に下落したことによつても明らかである。他の事情を同一とすれば、米價は一九三一年の八六・五%に下落してゐなければならぬ筈である。この二因子を考慮に入れると、一九三二年十月—十二月間の常熟米の推定價格は、一九三一年の價格一〇・五四四兩の

86.5  
115.1



第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響

を乗じたもの、即ち七・九二四兩である。實際の價格は七・四二三兩であつた(第十表)。

第十表 一九三二年及び一九三三年十二月、上海に於ける米の卸賣物價に對する米の供給量  
並びに卸賣物價水準の割合 (一九三一年十二月を100とす)

年次	米の供給 一九三一年十二月 (註1)	十一月十二月の上海 卸賣物價平均指數 一九三一年十二月 (註2)	十一月の上海米 の豫想價格(二〇〇 封度當り)(註3)	十一月の上海米 の實際價格(二〇〇 封度當り)(註4)
一九三一年	100.0	100.0	1	10.544
一九三二年	115.1	86.5	7.94	7.433
一九三三年	127.6	79.9	7.14	6.879
一九三四年	177.0	76.6	10.73	10.548

【註1】 第九表

【註2】 一九二六年を100とせる國定稅則委員會の上海に於ける卸賣物價指數より換算。

【註3】 一九三一年十一月十二月の價格に卸賣物價指數を乗じ、供給指數で除したるもの。

【註4】 國定稅則委員會「上海貨價季刊」一九三一・一九三二・一九三三年十一月十二月號及び「上海物價月報」一九三四年十月及び十二月號。

同様の方法によつて、一九三三年十月—十二月間の常熟米の推定價格、七・一六四兩が得られる。而して實際の價格は六・八七九兩である。米の輸入は國內生産に比して、重要性は少なく、米價に對する影響は少ない。

一九三二年一月、農民の米に對する受取價格は一九三三年一月の諸省における米價に對して何ら規則正しい關係をも

第十一表 一九三一—一九三三年間、米に對する農民の受取價格指數

(一九三一年一月を100とす)

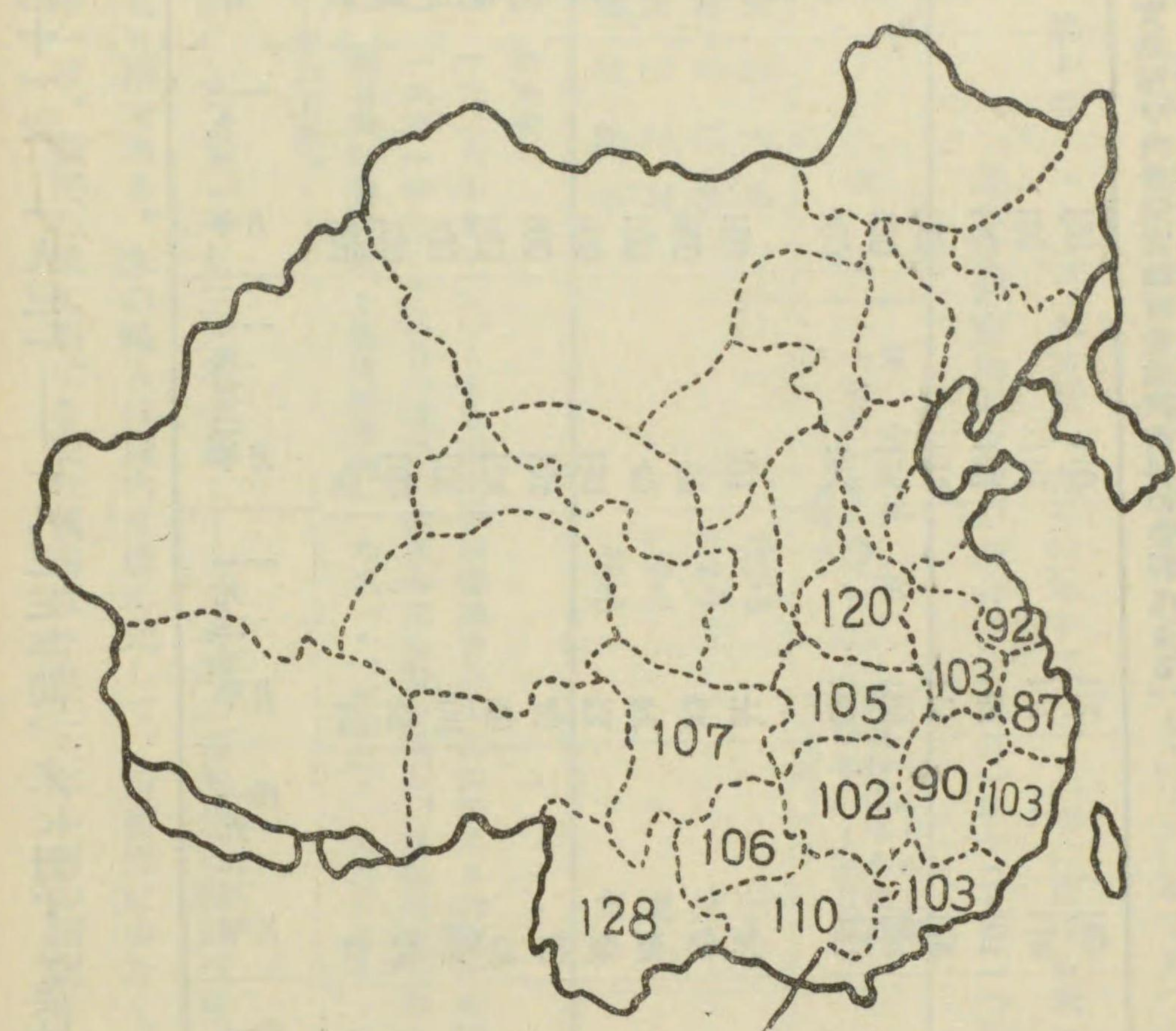
省名	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三三年 四月	一九三三年 七月	一九三三年 十月	一九三三年 四ヶ月平均
江蘇	100	121	133	133	133	133	133
安徽	100	110	133	133	133	133	133
河南	100	110	133	133	133	133	133
湖北	100	110	133	133	133	133	133
四川	100	110	133	133	133	133	133
湖南	100	110	133	133	133	133	133
江西	100	110	133	133	133	133	133
浙江	100	110	133	133	133	133	133
福建	100	110	133	133	133	133	133
廣東	100	110	133	133	133	133	133
廣西	100	110	133	133	133	133	133
平均	100	110	133	133	133	133	133

【註】 實業部中央農業實驗所農業經濟科の資料による。

第二節 農業生産物價格と生産、輸入、輸出、物價水準との關係



第11圖 1932年1月各省に於ける、米に對する農民の受取價格指數 1931=100

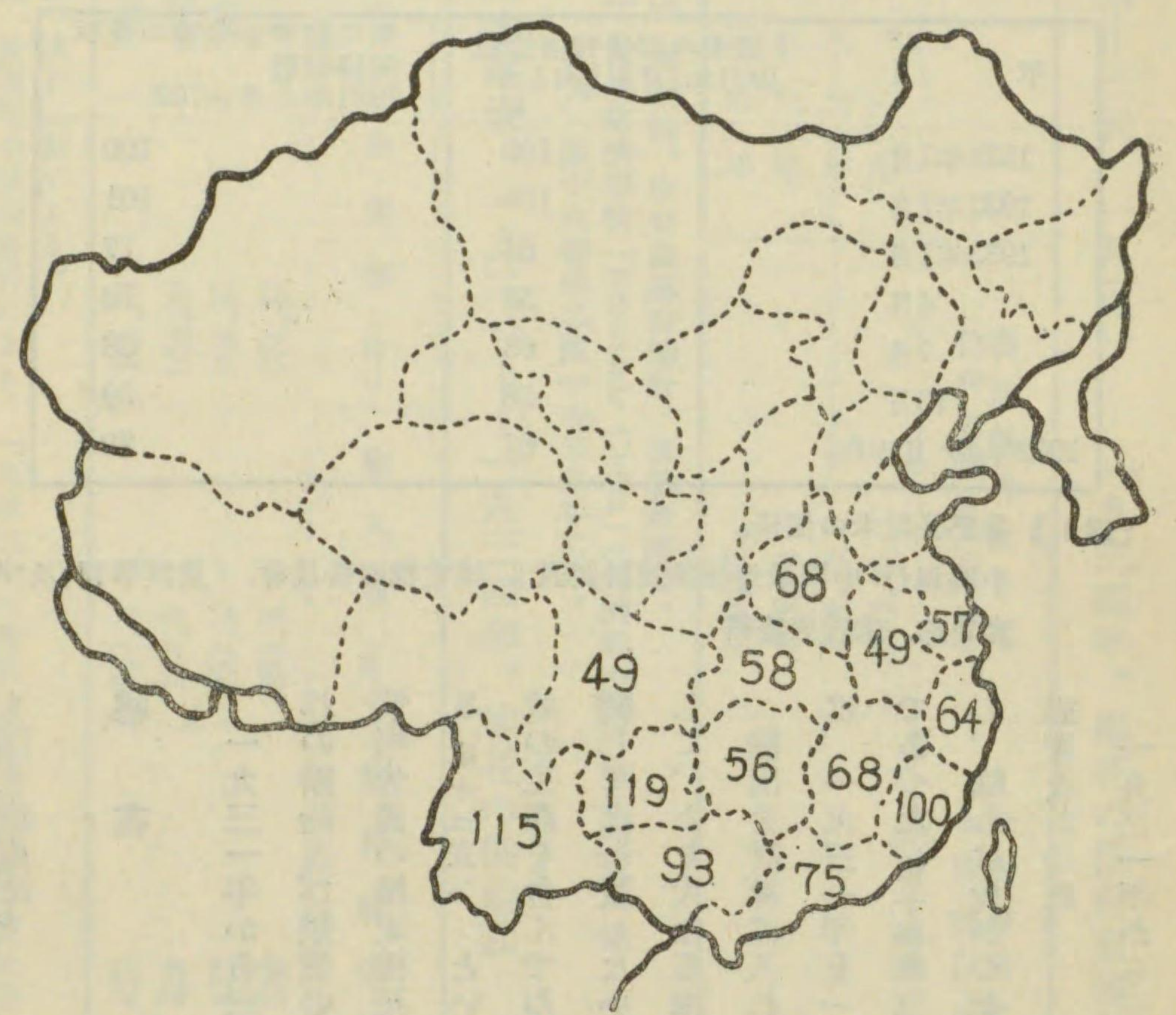


1932年2月には、米の農場價格は中支に於ては水害の爲に比較的高かつた。又南支に於て高かつたのは恐らく貨幣減價の爲であらう。

【註】 實業部中央農業實驗所，農業經濟科の資料による。

つておらぬ(第十一表及第11圖)。この規則性の缺如は揚子江、淮河流域の洪水による饑饉、及び南支に於ける通貨價值下落によるものである。  
一九三三年九月までに洪水の影響は消滅した。各地方の物價が價值下落せる通貨で報ぜられてゐる南支を除いては、各省の米價は、一九三一年の價格に比較して非常に下落した(第12圖)。平均して、南支以外の農民の米に對する受取價格は十月において、一九三一年一月

第12圖 1933年10月、各省に於ける米に對する農民の受取價格指數 (1931=100)



1933年10月には、支那の大部分の米作地方の農民は、1931年1月より遙かに低い價格を受取つてゐた。南支に於けるより高い受取價格は恐らく貨幣減價の爲であらう。

【註】 實業部中央農業實驗所，農業經濟科の資料による。

の五九%であつた。  
上海における十月の卸賣價格は、一九三一年一月の數字の五八%であつた(第十二表)。かくの如く、奥地における米價は、上海のそれと同程度に下落した。同じ關係が小麦價格に於てもみられた。  
支那奥地の物價は、沿岸の物價を左右する因子に依存しないといふ意見には何らの根據もない。米の充分なる供給、銀價の高騰が共に一九三三年の米價に影響した。而も奥地へも上海へ



第十二表 1931—1933, 江蘇・安徽・河南・湖北・四川・湖南・江西及び浙江諸省に於ける米に對する農民の受取價格平均指數及び上海に於ける米の卸賣物價指數 1931年1月=100

年 月	上海米の卸賣物價指數 1931年1月を100とす 註1	米に對する農民の受取 價格指數 1931年1月=100
1931年1月	100	100
1932年1月	100	101
1933年1月	66	77
4月	58	78
7月	63	68
10月	58	59
1933年4ヶ月平均	61	70

【註1】 常熟長粒米の價格。  
中國銀行「中國最近物價統計圖表」、國定稅則委員會、「貨價季刊」及び實業部、未發表資料

棉花

一九三一年から三三年に至る期間において、棉花の價格は、その需給及び銀價の大きな變動によつて影響された。實業部の農情報告員の推定棉花生産は棉業聯合會のそれを遙かに凌駕してゐる(第十三表)。といふのは前者は聯合會の推定に入つてゐない地域の生産を含んでゐるからである。兩報告は最近における報告に關しては一致しない。何となれば、農情報告中の推定は、慣習として、より大なる地域を包含してゐるからである。

輸出を計算に入れると、一九三二年及び三三年の棉花の純供給は、一九三一年を一〇〇とすると、夫々九八・五、及び一一三・一であつた(第十四表)。一九三四年には國內生産が干魃によつて減少し、輸入は少かつた。従つて純供給は一九三一年の八五・九%に過ぎなかつた。

一九三一年から三三年に至る期間における供給は増加したが、

第十三表 一九三一—一九三四年、棉花の作付面積及び生産額

年 次	農情報告による 作付面積(註1)(千畝)	農情報告による 生産額(註1)(千擔)	棉業統計會調査による 生産額(註2)(千擔)
一九三一年	六一、六三四	一四、一〇〇	六、四〇〇
一九三二年	五九、三二五	一四、五〇〇	八、一〇%
一九三三年	六七、五〇七	一八、七六〇	九、七七四
一九三四年	六二、二五三	一三、七〇%	二、一七三

【註1】 實業部、中央農業實驗所、農業經濟科。  
【註2】 南開經濟學院「Economic China」(經濟的中國)第七卷第一號二八頁。貿易局 Chinese Economic Journal (中國經濟月刊)第十六卷第二號一九三五年二月。

第十四表 一九三一—一九三四年、棉花の供給額

年 次	生産額(註1)	輸入額(註2)	輸出額(註3)	推定純供給額	一九三二年供給額を基準とせる百分比
一九三一年	一四、一〇〇	四、六三三	七九〇	一七、六六三	100.0
一九三二年	一四、五二〇	三、八五九	六六三	一七、六九六	九六・五
一九三三年	一八、七六〇	二、二六六	七四	一〇、三三三	一三・一
一九三四年	一三、七〇%	二、〇六四	三四七	一五、四三三	八五・九

【註1】 第十三表による。  
【註2】 實業部未發表資料による、一九三三年は推定せる滿洲國貿易額を含む、第五表脚註「2」を参照。

第二節 農業生産物價格と生産 輸入、輸出、物價水準との關係



第十五表 1931—1934年、棉花の消費<sup>(註1)</sup>

年次	全消費額(千俵)	百分比 百 1931=100
1931年	1,168	100.0
1932年	1,266	108.4
1933年	1,697	145.2
1934年	1,942	166.3

【註1】 實業部統計長辦公室「實業統計」第10卷第314號，貿易局 Chinese Economic Bulletin, (中國經濟週刊) 第24卷第10號及び Semimonthly Economic Journal (工商半月刊) 1935年4月1日號。

紡績工場における支那棉の消費はより速かに増加した(第十五表)。棉花の需給の變動が棉花價格に與へた影響を示す統計は利用出来ない。しかしながら他の事情を同一とすれば、供給の増加は價格を低落せしめ、需要の増加はこれを維持する傾向にあることは確かである。銀價の上昇は平均價格を低下せしめる傾向にある。

一九三二年の最後の三ヶ月に於ては、上海の卸賣物價は、一九三一年同期の平均の八六・五%であつた(第十六表)。もし棉花の需給に變動がなかつたならば、棉花の推定價格は一九三一年のその八六・五%であつた筈である。しかし棉花の供給は一九三一年の數字の九八・五%であつた。棉花の推定價格は、從つて、三一・七〇八兩の  $\frac{86.5}{98.5}$  即ち二七・八四五であつた。一九三二年最後の三ヶ月における實際の平均棉花價格は二九・三七五兩であつた。同様に一九三四年の推定價格は二九・〇一三兩、實際價格は二九・二七三兩であつた。一九三三年においては關係はそんなに密接ではなかつた。この相違は多分需要の變動に基くものであらう。

もし、平均卸賣物價で示される銀價値が等式に包含されてゐないとすると

第十六表 一九三二—一九三四年一〇—十二月平均の支那棉花豫想及び實際價格

一九三一年十月—十二月平均を一〇〇とす

年次	十一—十二月上海卸賣物價平均指數の一九三一年同期指數に對する百分比	一九三一年を一〇〇とする供給量百分比	豫想價格(擔當り)(註1)	上海に於ける實際價格(擔當り)(註2)
一九三一年	100.0	100.0	—	三・七〇八兩
一九三二年	八六・五	九六・五	二七・八四五兩	二九・三七五
一九三三年	七九・九	一一三・一	三三・四〇〇	二六・八八三
一九三四年	七六・六	八五・九	三九・〇三三	二九・二七三

【註1】 卸賣物價指數を供給量指數で除し、一九三一年の實際價格を乗じたもの。

【註2】 國定稅則委員會「上海商品價格之分析」及び「上海物價及物價指數」による。

らば、棉花の蓋然的な價格すらも推定することは出来ぬであらう。同じことが供給を測る數字についてもいへる。物價を明かにするためには、商品の供給、(出來うるならば) 需要、及び貨幣の價値が測定されねばならぬ。

一九三二年一月には、異なる省の農民の棉花に對する受取價格は、一九三一年一月を基準とすると可なり齊一してゐた。只一九三一年の洪水の被害を受けた諸省では、棉花の農場價格は比較的高くて、上の例外をなしてゐた(第13圖及び第十七表)。一九三三年十月迄は、棉花の價格は、かゝる大地域で豫期し得る限り、一九三一年一月を基準とすると全支那を通じて齊一してゐた(第14圖)。湖北、殊に四川に於ては、棉花價格は、一九三一年一月を基準とすると、他の諸省より高かつた。



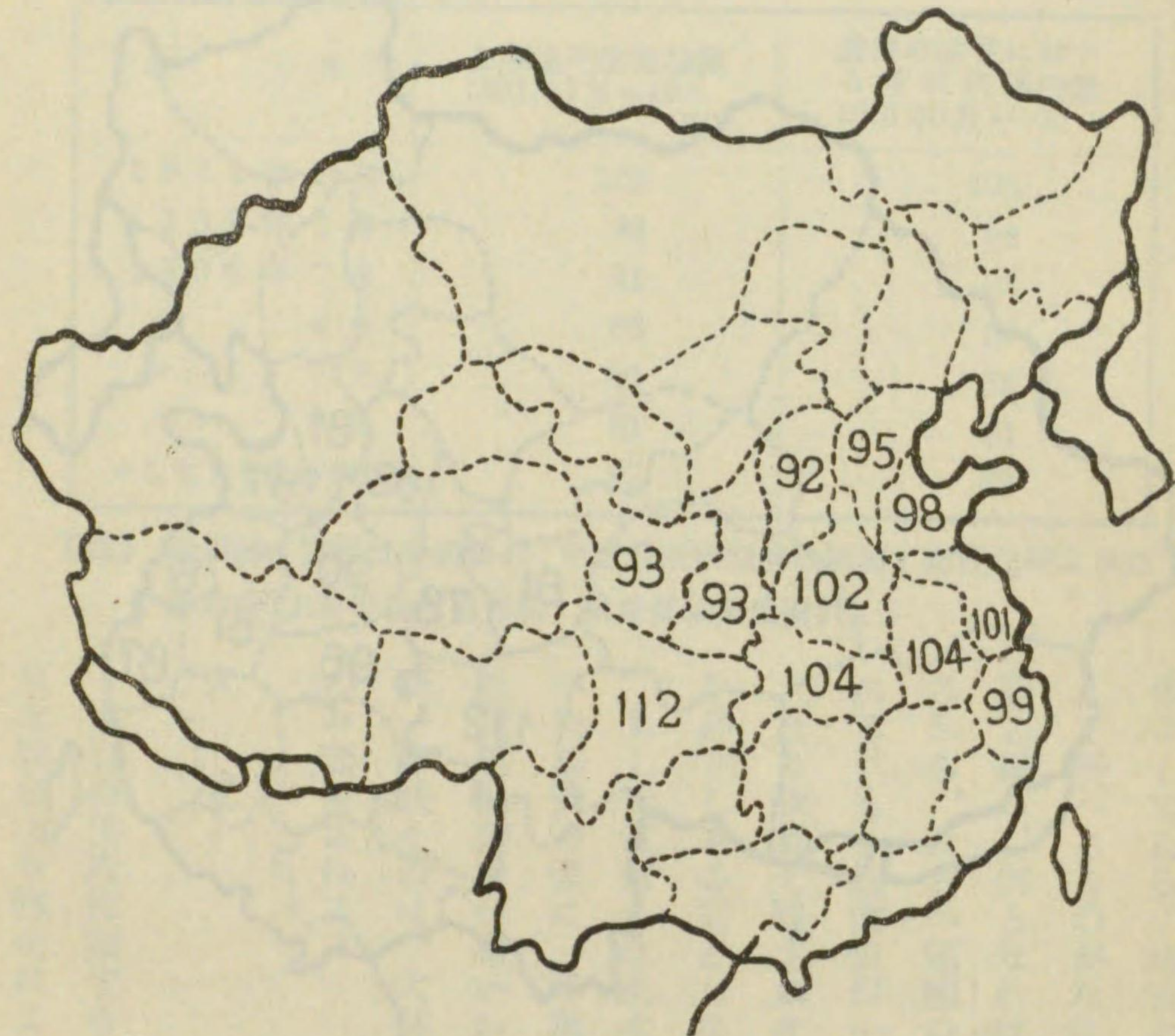
第十七表 一九三一年——一九三三年、農民が棉花の代價として受取る價格指數

一九三一年一月を一〇〇とす (註一)

省別	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三三年四月	一九三三年七月	一九三三年九月	一九三三年四月平均
甘肅	100	93	87	83	86	86	83
陝西	100	93	86	87	86	86	83
山西	100	93	86	87	86	86	83
河北	100	93	86	87	86	86	83
山東	100	93	86	87	86	86	83
安徽	100	93	86	87	86	86	83
河南	100	93	86	87	86	86	83
湖北	100	93	86	87	86	86	83
四川	100	93	86	87	86	86	83
浙江	100	93	86	87	86	86	83
平均	100	93	86	87	86	86	83

【註一】 實業部中央農業實驗所農業經濟科の資料による。  
 【註二】 他の何れと比較しても異常に高い四川省の指數を省く。

第13圖 1932年1月、諸省の農民が棉花の代價として受取る價格指數 1931年1月=100 (註)



中支那における棉花價格は1931年の洪水による饑饉によつて多少上昇した。

【註】 中央農業實驗所農業經濟科の資料による。

四川の指數を除くと、十省における農民の棉花に對する受取價格は、一九三一年から一九三三年に至る期間、上海における棉花の卸賣價格と實際上同じコースをとつた(第十八表)。同様に密接な關係が、小麥及米の上海卸賣價格と、農場價格との間に見られる。支那奥地における物價は、沿岸における物價と同様、商品の供給及び銀價値に對して敏感である。ある人にとつては、運輸組織が極端に貧弱であるにも拘らず、支那の



第十八表 1931—1933年上海における通州棉價格指數及び十省における農民の棉花に對する受取價格指數 1931年1月=100

年 月	上海棉花價格指數 1931年1月=100 (註)	農民の棉花に對する 受取價格指數 1931年1月=100
1931年1月	100	100
1932年1月	92	98
1933年1月	91	93
〃 4月	86	90
〃 7月	91	89
〃 9月	81	84
〃 1, 4, 7, 9月の平均	87	89

【註】 通州棉、資料は中國銀行「中國最近物價統計圖表」財政部國定稅則委員會「上海市場價格報告」實業部未發表資料。

大豆の供給に關する完全なる資料は利用し得ない、といふのは東北諸省より鐵道によつて支那の他の諸地方に輸送される量が不

大豆

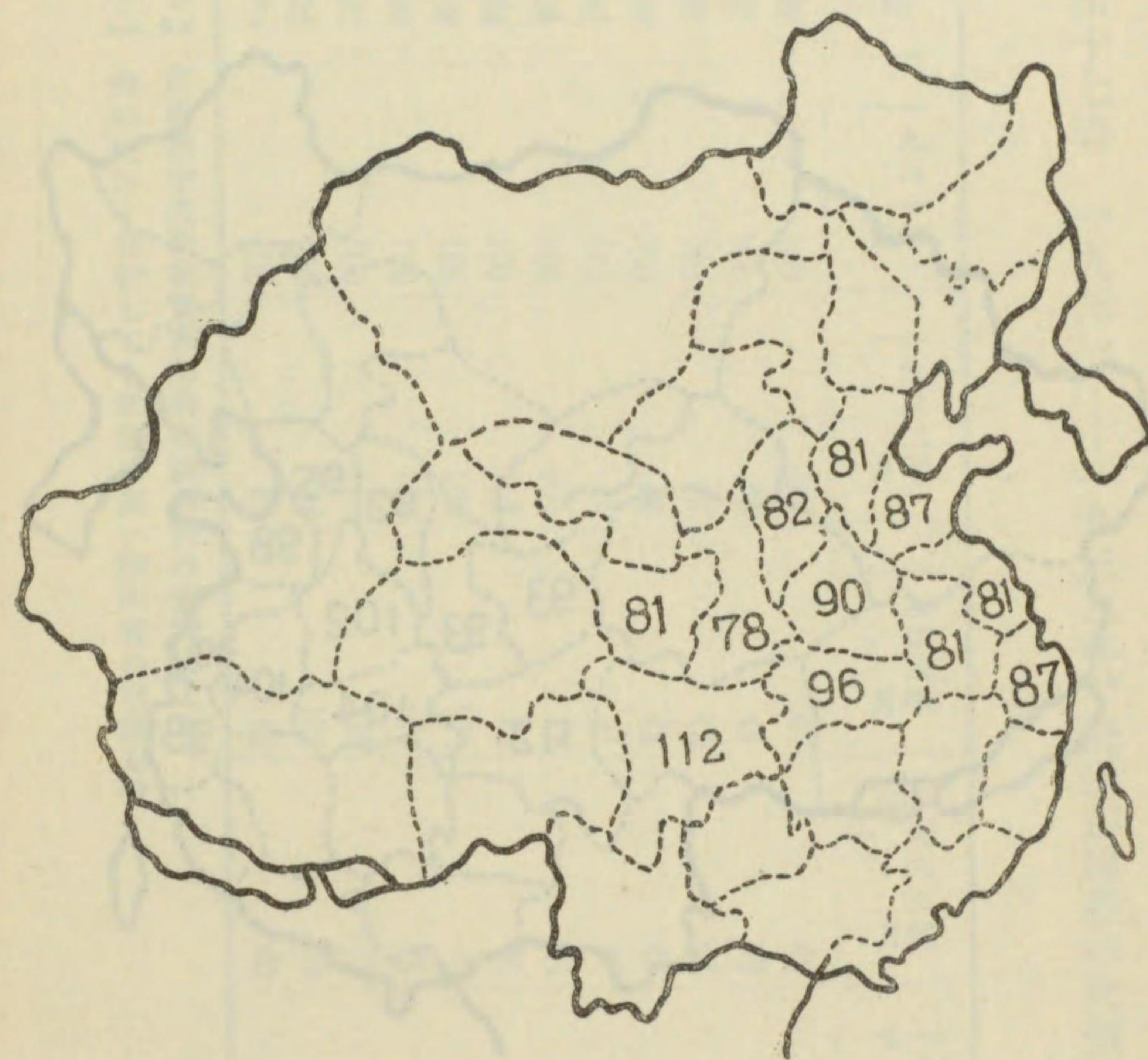
のみ豫定される。

財貨運輸費用が高いからである。支那において物價狀態が合理的のみに豫定される。

を必ずしも必要としない。

もし干魃若くは洪水の如き原因で饑饉が生ずると、被害地域の平均卸賣物價は、周圍の地域よりも遙かに上昇する。饑饉地域の平均卸賣物價は、周圍の地域よりも遙かに上昇する。饑饉地域の財貨運輸費用が高いからである。支那において物價狀態が合理的のみに豫定される。

第14圖 1933年1月、諸省の農民が棉花の代價として受取る價格指數 1931年1月=100 (註)



四川、湖北以外に於ては、1933年1月の棉花價格は、1931年1月よりも10乃至20%低かつた、支那西端における棉花價格は沿岸地方と同じ位下落した。

【註】 中央農業實驗所農業經濟科の資料による。

物價狀態が國內を通じて可

なり齊一してゐるのは奇異

に思はれるであらう。この

一見矛盾の如くみゆるもの

を解決するものは次の二つ

である。

一、支那の運輸組織は、

多分、屢々書かれてゐる程

悪くはない。大きな航行可

能な河川運河、及び二三の

鐵道が多くの奥地方面にま

で入り込んでゐる。

二、國內を通じて平均卸

賣物價が齊一に動くといふ

ことは、諸商品の移動性と

同様、交換手段の移動性に



明であるからである。(東北の諸省を除いた)大豆の生産とこれらの諸省からの海關輸入との和は、一九三一年から三三年に至る期間内に二五・五%の増加を示した(第十九表)。この供給と銀價値のみを考慮にいと、一九三二年及び三三年の最後の三ヶ月間の上海の大豆卸賣價格は、各々三・二六七兩及び二・七六八兩となる筈である。

第十九表 一九三二—一九三三年黃大豆作付面積、生産及び東北諸省よりの輸入

年次	作付面積(1000畝) (註1)	生産(1000擔) (註2)	國內輸入擔數 (1000擔) (註3)	總計 (1000擔)	一九三一年に對する百分率
一九三一年	114,740	126,190	8,457	134,647	100.0
一九三二年	117,107	128,010	7,002	135,012	115.1
一九三三年	117,699	126,310	2,590	128,900	115.5

【註1】 實業部中央農業實驗所農業經濟科資料による。資料は東北諸省の生産を含まず。

【註2】 東北諸省より支那の他の諸港への輸入が殆んど大部分である。鐵道輸送は含まず。

第二十表 一九三二—一九三三年黃大豆の推定價格及び實際價格 一九三一年を100とす

年次	一九三一年を基準とする上海平均卸賣物價指數 (註1)	一九三一年を基準とする大豆の供給 (註2)	推定價格 (擔當り) (註3)	實際價格 (擔當り) (註4)	一九三一年を基準とする大豆の國內海關輸入 (註5)
一九三一年	100.0	100.0	—	4.347	100.0
一九三二年	86.5	115.1	3.267	4.153	81.8
一九三三年	79.9	115.5	2.768	3.183	73.6

【註1】 財政部國定稅則委員會卸賣物價指數。一九二六年(100)を基準とせるものより換算。

【註2】 第十九表。東北諸省よりの鐵道輸送の資料が缺けてゐるから不完全。

【註3】 一九三一年の實際價格に卸賣物價指數を乗じ、大豆の供給指數にて除したるもの。

【註4】 中國銀行「中國最近物價統計圖表」、財政部國定稅則委員會一九三三年九月—十二月「上海貨價季刊」

【註5】 第二十一表。

實際には、大豆の價格は、一九三二年の第四四半期において四・一五二兩、一九三三年同期には三・一八三兩であり、従つて銀價値と供給に關する不完全な資料に基ける推定よりも高かつた。

この矛盾は多分、分離の結果としての東北よりの輸入の減少によつて説明される。海關輸入は殆んど七〇%減少したことが分る(第二十一表)。もし鐵路による輸入の數字が利用出來得たならば、大豆の供給と銀價値を基礎として大豆價格の近似數が得られたであらう。

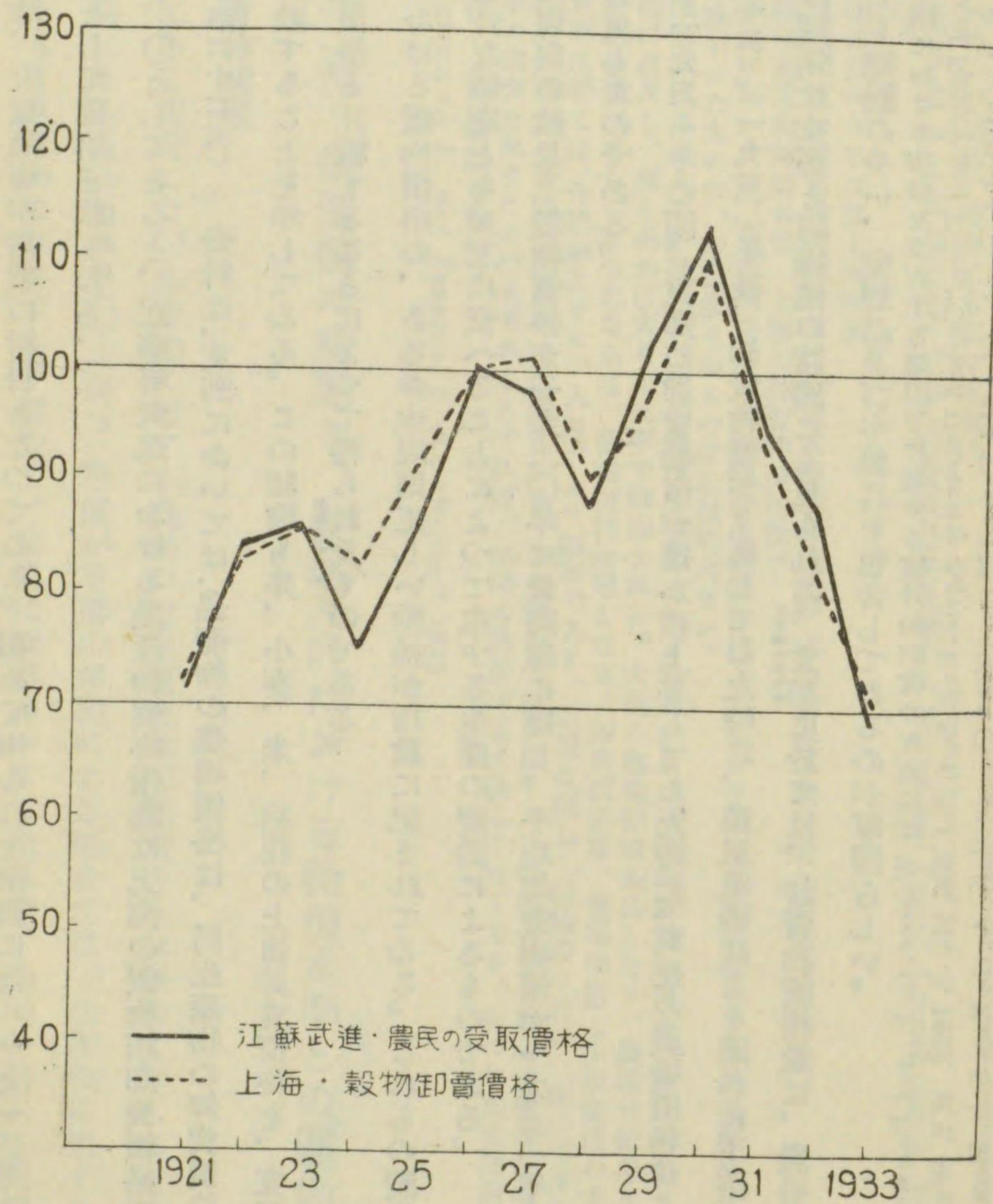
分離せる諸省の生産物が、大豆の如くに、支那の他の地方の生産物と競争する限り、分離せる諸省よりの輸入の減少は、かゝる生産物の價格の下落を防止して、分離しなかつた場合程には至らしめぬだらう。

平均農產物價格

江蘇省武進に於て、農民の生産物に對する受取價格指數は張履鸞氏<sup>\*\*\*</sup>によつて計算されてゐる。これは種々の生産物量が、資料の源泉たる數字中に占むる比重によつて作られた總指數である。この指數では穀物類の價格が重量性を帯びてゐることは、他の支那農產物價格指數がそうであるのと變りはない。精白米、精糯米、穀付晚稻、小麥、裸麥、黃大豆、



第15圖 1921—1933年、江蘇武進に於ける農民の穀物に對する受取價格指數及び上海穀物卸賣物價指數  
1926=100, (第二十二表に基づく)



江蘇武進の農民は大部分穀物類を販賣してゐる。農場價格は、従つて上海の穀物卸賣價格と密接に一致してゐる。農場價格が卸賣價格よりより甚しく動搖するといふ様な傾向は非常に少ない。

第二十一表 1931—1933年支那港より支那港への黄大豆の純輸入<sup>(註)</sup>

年次	輸入量(1000擔)	1931年に對する比率
1931年	8,457	100.0
1932年	7,004	82.8
1933年	2,590	30.6

【註】海關統計より編輯、これらは殆んど大部、分離せる諸省(滿洲國)より支那の他の諸港への輸入である。

第二十二表 1921—1933年、江蘇武進における農場價格指數及び上海における穀物卸賣價格指數  
(1926年=100)

年次	江蘇武進における農場價格指數 <sup>(註1)</sup>	上海における穀物卸賣價格指數 <sup>(註2)</sup>
1921	71	72
1922	84	83
1923	86	86
1924	75	83
1925	86	91
1926	100	100
1927	98	101
1928	88	90
1929	102	97
1930	113	110
1931	95	94
1932	88	82
1933	86	70

【註1】張履鸞「江蘇武進物價之研究」金陵大學叢刊第8號

【註2】財政部國定稅則委員會「上海物價月報」10卷2號1934年2月



豌豆、蠶豆、棉實油、大豆油等が指數の材料となつてゐる。初めて作られた指數には、一九一〇年より一九一四年に至る期間が基準期間として使用されてゐる。

一九二六年を一〇〇としてとると、江蘇省武進における農産物價格指數は上海の穀物類卸賣價格指數と緊密に對應してゐる（第15圖及び第二十二表）。資料は、支那においては、農産物の農場價格は、同生産物の卸賣價格と同じ方向に、そして同じ速度で變動することを示してゐる。この結論も亦、小麦、米、棉花の上海卸賣價格を、支那奥地におけるこれらの生産物の農場價格と比較することによつて得られたものである。

上海及び農家における穀物價格の、ある多少規則正しい動搖が指數に記されてゐる。これらの變動は多分、天候の好都合な時期と不都合な時期とを交互に交へることによつて生ずる生産の變動によるものである。

指數のこの動搖傾向の結果、穀物價格が一九三〇年に最高點に達し、平均卸賣價格が一九三二年に最高點に達してゐるといふ事實が発生したのである。

一八九四年より一九三一年の間、支那の卸賣物價が速かに上昇してゐた時に、武進の農場價格はより速かに上昇した（第16圖及び第二十三表）。一九三一年後、卸賣物價が下落してゐた時に、農家價格はより速かに下落した。農場及び卸賣物價指數間のこの關係は支那と同様の諸國にも見られる。支那に於ては、卸賣物價指數は、農場價格指數を構成せる基準商品價格よりも變動の少い、完製品及び半製品を包含してゐるのが原因らしい。

合衆國における物價を左右する諸因子に關する統計的研究のためには Warren, G. F., and Pearson F. A. "Interrelationship of Supply and Price," Cornell University Agric. Exp. Stat. Bul. 466, March 1923. 及び Warren, G. F., and Pearson, F. A. "Whole sale prices for 213 Years 1720 to 1932." Cornell Univ. Agric. Exp. Stat. Mem. 142, November 1932.

資料のより豊富な合衆國における物價に關するこれらの、及び同様な研究によつて打樹てられた一般原則は、必ずしもとはくなくが通常、支那にも當はまる。

\* Warren, G. F., and Pearson F. A. "Interrelationship of Supply and Price," Cornell Agric. Exp. Stat., Bul 403. を參照せよ。

中國銀行一九三二年上海物價

張履鸞「江蘇武進物價之研究」金陵大學叢刊（新號 第八號）及び張履鸞氏の未發表資料。

財政部國定稅則委員會 上海の卸賣物價指數。

合衆國においては、農場價格は、同生産物の卸賣價格よりもよりはげしく動搖する。農場價格は小賣價格から配給費を差引いたもので、配給費そのものは比較的大きい。

配給費は主として手数料及び運送費から構成されてゐるから、比較的變動しない。小賣價格の僅かの低落でも、農場價格に波及し、而も遙かに大きな比率で轉嫁される。大抵の收穫物は商品となり、農場で使用されぬから、もし小賣價格が配給費に等しくなつたならば、農場價格は零となる。卸賣價格は、農場價格と小賣價格の中間に位する。

支那に於ては、合衆國よりも、人口がより稠密であり、市場は概して供給源に近い。従つて平均配給費は少い。加之、比較的大部分の食料品は農場で消費される。もし販賣價格が低く、比較的僅かな農場消費量の増加さへも、市場向農産物量の減少を來すことが大であるとすれば、價格の低落はより甚しくなくなる。従つて農場價格は合衆國におけるほどはげしくは變動しない。

\*\* Warren, G. F., and Pearson, F. A. "Prices," 1933

### 第三節 銀價値の變動と、農家々計における物價水準との關係

#### 武進における農場價格關係

物價が上昇傾向にある場合には、生産物に對する農民の受取價格は、購買された商品に對して支拂ふ價格よりもより速かに上昇する傾向にある（第17圖及第二十三表）。物價が下落の傾向にある場合には、生産物に對する受取價格は、購買商品の支拂價格よりもより速かに下落する。従つて、支出は依然多いにも拘らず、農民の収入は減少する。

#### 第三節 銀價値の變動と、農家々計における物價水準との關係



年次	支那輸出入商品の卸賣物價指數 (註1)	江蘇武進農民の受取價格指數 (註2)	江蘇武進農民の購買商品に對する支拂價格指數 (註3)	江蘇武進における年労働の賃銀指數 (註4)	江蘇武進の農民の支拂ふ租稅の指數 (註5)
一九一一年	九七・八	一〇八	一〇四	一〇五	九七
一九一二年	九五・二	九五	九六	一〇五	一〇七
一九一三年	一〇〇・九	九六	一〇一	一〇五	一〇七
一九一四年	一〇八・一	九八	一〇三	一〇五	一〇七
一九一五年	九八・〇	一〇六	一〇三	一〇五	一〇七
一九一六年	一〇六・三	一〇四	一〇三	一〇五	一〇七
一九一七年	一〇〇・五	一〇三	一〇二	一〇五	一〇七
一九一八年	一〇七	九八	一〇二	一〇五	一〇七
一九一九年	一〇〇・六	九四	一〇二	一〇五	一〇七
一九二〇年	一一〇・二	九八	一〇二	一〇五	一〇七
一九二一年	一一九・六	一〇〇	一〇二	一〇五	一〇七
一九二二年	一一五・六	一〇三	一〇二	一〇五	一〇七
一九二三年	一二・六	一〇五	一〇二	一〇五	一〇七
一九二四年	一二・一	一〇六	一〇二	一〇五	一〇七
一九二五年	一二・三	一〇六	一〇二	一〇五	一〇七
一九二六年	一二・七	一〇八	一〇二	一〇五	一〇七
一九二七年	一三・六	一〇九	一〇二	一〇五	一〇七
一九二八年	一四・五	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九二九年	一四・九	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九三〇年	一五・九	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九三一年	一六・四	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九三二年	一六・二	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九三三年	一三・一	一一一	一〇二	一〇五	一〇七
一九三四年	一〇・〇	一一一	一〇二	一〇五	一〇七

年次	支那輸出入商品の卸賣物價指數 (註1)	江蘇武進農民の受取價格指數 (註2)	江蘇武進農民の購買商品に對する支拂價格指數 (註3)	江蘇武進における年労働の賃銀指數 (註4)	江蘇武進の農民の支拂ふ租稅の指數 (註5)
一九一四年	五八・三	四七	---	---	---
一九一五年	六〇・三	四七	---	---	---
一九一六年	六三・〇	四七	---	---	---
一九一七年	六九・五	四七	---	---	---
一九一八年	六七・七	四七	---	---	---
一九一九年	七三・三	四七	---	---	---
一九二〇年	七四・一	四七	---	---	---
一九二一年	七三・六	四七	---	---	---
一九二二年	八〇・六	四七	---	---	---
一九二三年	八九・四	四七	---	---	---
一九二四年	九〇・八	四七	---	---	---
一九二五年	八六・六	四七	---	---	---
一九二六年	八三・七	四七	---	---	---
一九二七年	九〇・八	四七	---	---	---
一九二八年	九五・六	四七	---	---	---
一九二九年	八三・六	四七	---	---	---
一九三〇年	九三・六	四七	---	---	---
一九三一年	九八・〇	四七	---	---	---
一九三二年	九三・六	四七	---	---	---
一九三三年	九八・〇	四七	---	---	---
一九三四年	九八・〇	四七	---	---	---

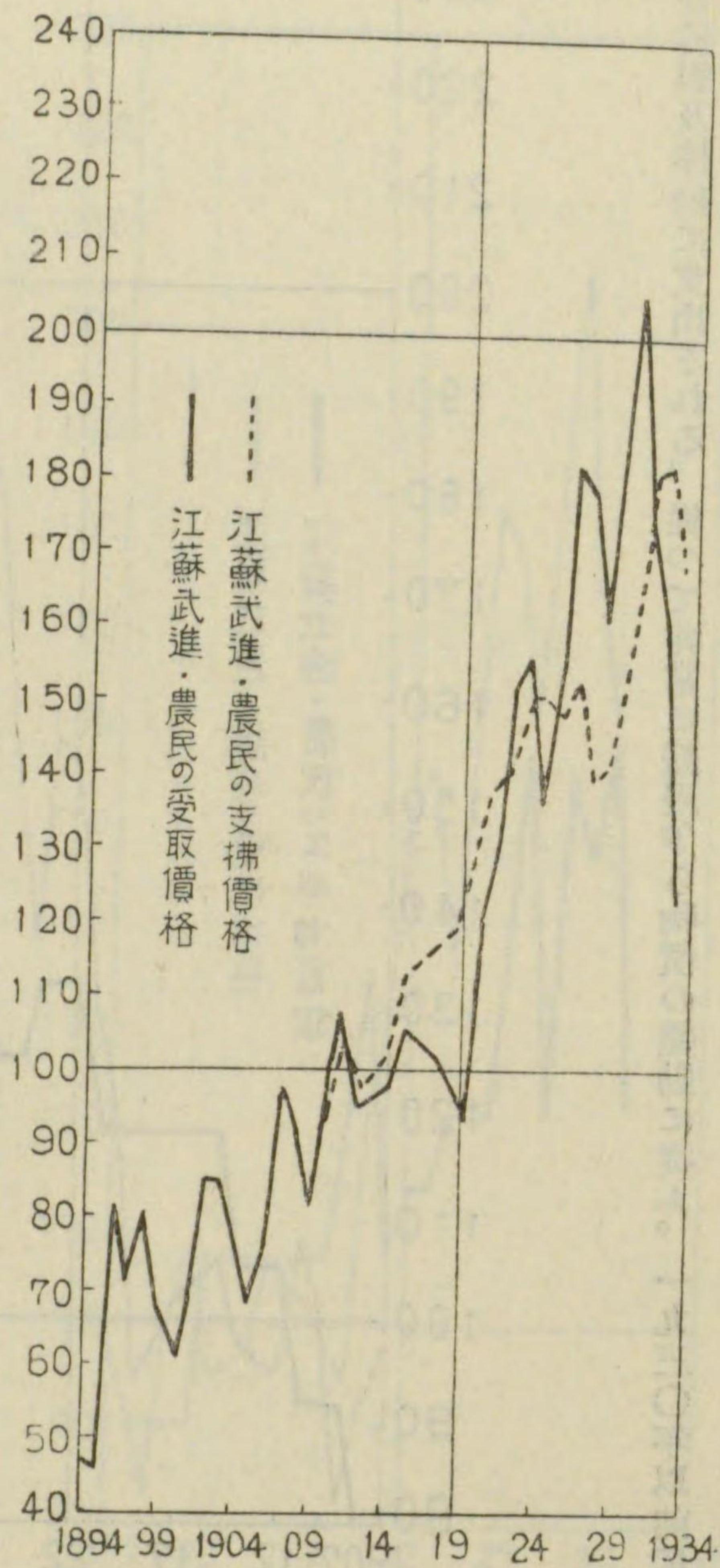
第二十三表 江蘇武進における農場價格、農家賃銀、農家賦課、購買商品に對する農民の支拂價格及び支那輸出入商品の卸賣物價指數 一九一〇—一九一四年を一〇〇とす



賃銀の上下は物價よりも遙かに緩慢である。武進に於ては、農業生産物價格が上昇してゐる時には、農民の支拂ふ賃銀は、じり／＼上昇するが物價ほど急速ではない(第18圖)。武進においては、三年間も農場價格が下落してゐたが賃銀は上昇し續けた。

第17圖 1894—1933年、江蘇武進、販賣生産物に對する農民の受取價格指數及び購買財貨に對する支拂價格指數

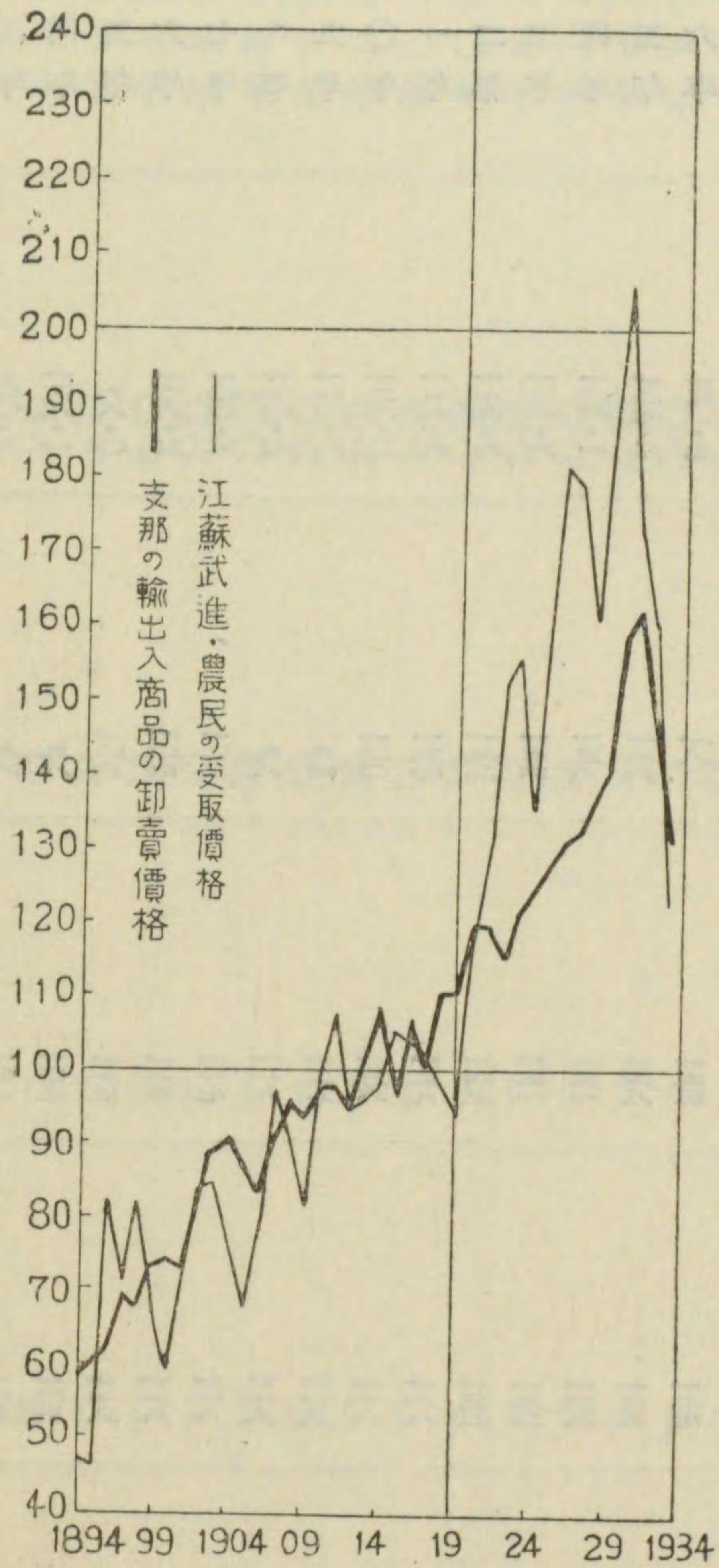
1910—1914=100 (第二十三表による)



物價上昇の場合には農民の受取價格は支拂價格より速かに上昇する。1930年以來武進の農場價格は殆んど1920年の水準にまで下落したが、農民の支拂價格は依然1930年の水準以上にある。

第16圖 1894—1933年、江蘇武進における農民の受取價格指數及び支那の卸賣物價指數

1910—1914=100 (第二十三表に依る)



江蘇武進の農場價格は物價上昇の場合には卸賣物價より速かに上昇する。1931年以來農場價格は卸賣價格より速かに下落してゐる。

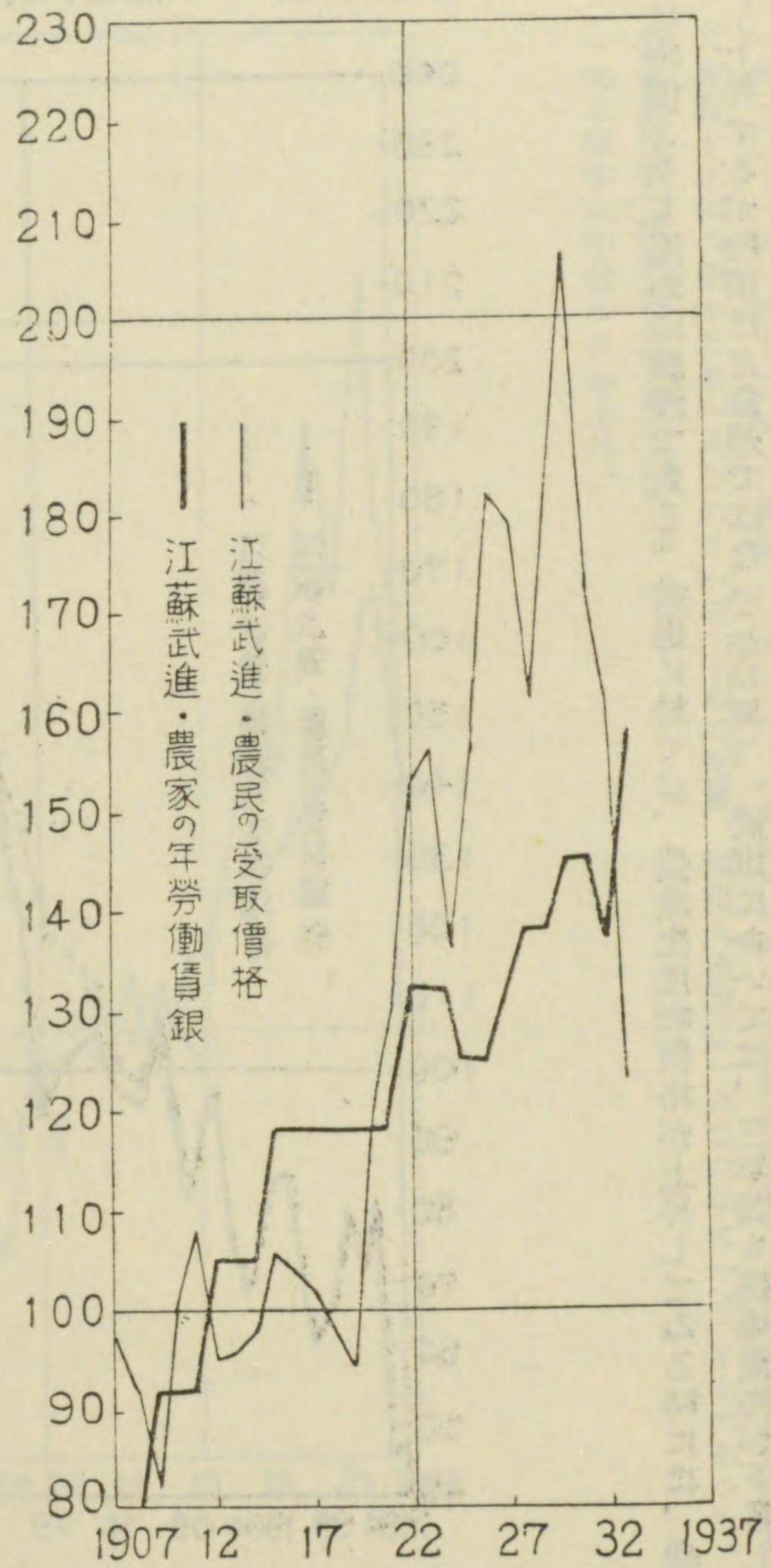
【註1】 一八九四—一九三一年間は天津南開大學南開經濟學院編纂のもの。一八六七—一八七一—一〇〇を基準とせるものより一九一〇—一九一四—一〇〇に換算。一九三二—一九三三年間の北支那卸賣物價指數は南開經濟學院編纂のもの。輸出入指數と比較の便のため一九二六—一三〇・七に換算、輸出入指數は一九二六年に一三〇・七であつた。

【註2】 前掲張履鸞「江蘇武進物價之研究」。

【註3】 一九三四年の干魃のため上昇。



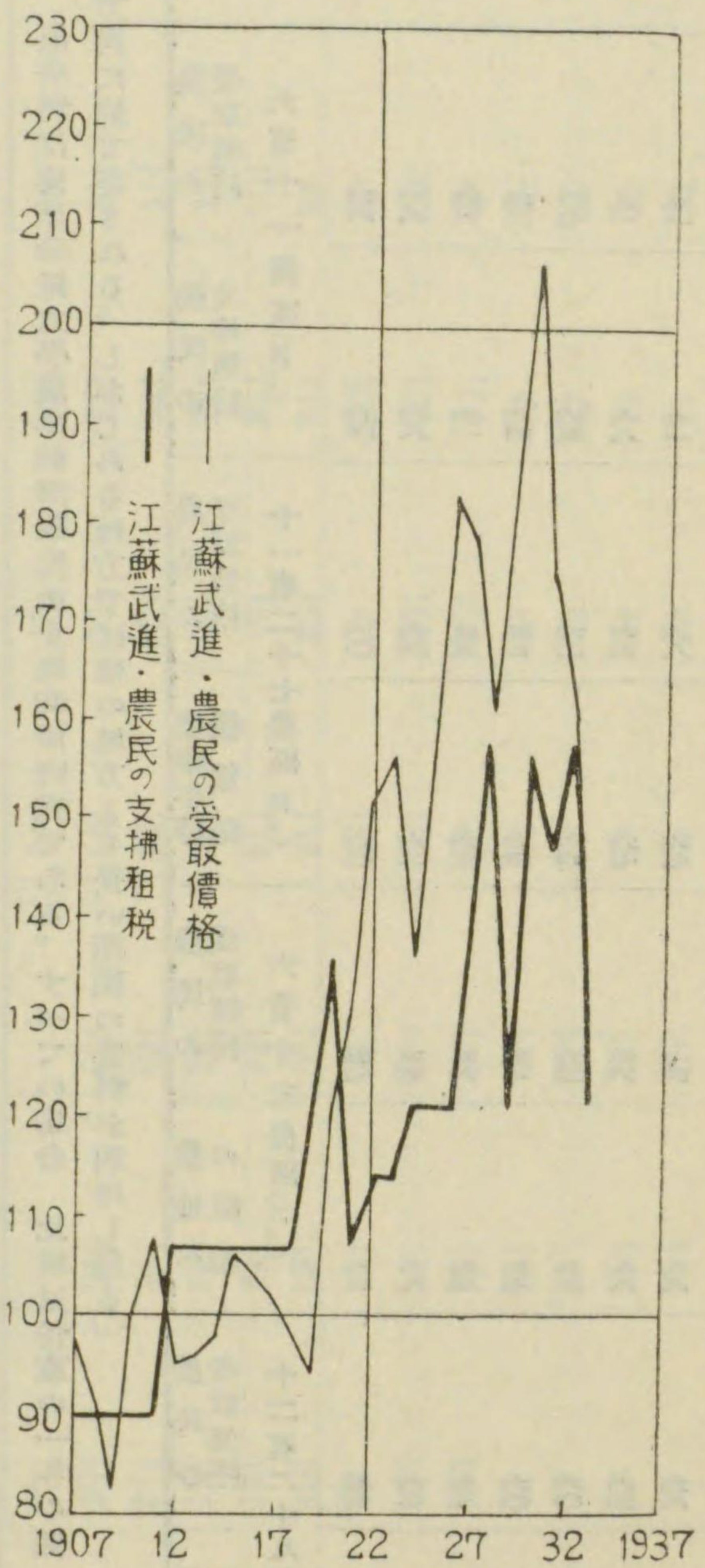
第18圖 1907—1933年、江蘇武進の農民の受取價格指數及び農家の年勞働賃銀指數  
1910—1914=100 (第二十三表による)



物價上昇の場合には武進の農場價格は賃銀より速かに上昇する。1930年以來農場價格は急轉直下的に下落したが賃銀は上昇を續けてゐる。

租税は大部分賃銀及棒給に支出される。従つて非常に緩慢乍ら物價の變動に従ふ。一九三〇年以前には、武進の農民の支拂つた租税は農場價格の様に速く上昇しなかつた(第19圖)。一九三一年及一九三二年には、農場價格が非常に下落したのに租税は低くならなかつた。一九三三年には武進における農民の租税は低くなつた。しかしこの状態は典型的の

第19圖 1907—1933年、江蘇武進、農民の受取價格指數及び支拂地租指數  
1910—1914=100 (第二十三表による)



武進に於て物價が上昇してゐる時には租税は増加した。しかし物價ほど急速ではなかつた。1930年以來農産物價格は租税よりも遙かに速かに下落した。

ものではない。一般に、農民の支拂ふ租税は下落しなかつたか、或は上昇しさへした(第四十九表)(後出)。  
農場價格關係、諸農區の平均







農區、一九二一—一九二九年は十三農區、一九三〇年は十農區、一九三一年は七農區、一九三二年は二農區が含まれてゐる。

【註4】 一九一〇—一九一一年は十六農區、一九二二年は二十一農區、一九一三年は二十三農區、一九一四—一九二〇年は二十四農區、一九二一年は二十七農區、一九二二—一九二六年は二十八農區、一九二七—一九二八年は二十七農區、一九二九年は二十六農區、一九三〇年は二十五農區、一九三一年は二十農區、一九三二年は十二農區、一九三三年は一農區が含まれてゐる。

賃銀の資料が利用し得る、より大きな一群の農區においては、農業賃銀は農民の受取價格よりも緩漫に上昇したが、農場價格が下落し始めた後も上昇し続けてゐた。

一九三〇及び三一年には、農民の租税は農場價格に比して高かつた。過去においては、農民の租税の上昇は農場價格よりも緩漫であつた。

農地價値は農民の受取價格と密接に關聯してゐる。しかし乍ら一九二九年及び三〇年には、土地價値は農場價格ほど急速に上昇しなかつた。又一九三〇年後は農場價格より下落が緩漫であつた。農場價格と農地價値とのこの關係は他國におけると共通である。

農場價格が下落する場合には、前金にて契約された負債は、債權者が農民の債務の一部を免除してやらうと思はない限り——そんな事はないが——全く變動しない。

物價が下落する場合には、農民は生活程度を引き下げ、雇傭労働を少くし、負債と租税を怠らねばならなくなる。彼等は租税を支拂ふために金を借りるかもしれないが、もし價格が下落し続けると、かゝる借金はとて返せない。

農民の立場からすれば、望ましいのは價格水準の安定若くは徐々の上昇である。

上海における銀の集積

一九三一年に至る迄の期間、支那の物價水準は上昇してゐた。農民の販賣する如き原料品價格は、奥地の農民その他が小賣り買ひする如き加工品價格よりも速かに上昇してゐた。従つて奥地から上海へ輸送されるよりより以上の銀が上海から奥地へ輸送された(第二十四表A)。

第二十四表A 1929—1934年, 上海奥地間の銀の移動(註)

年 月	京滬鐵道、滬杭甬鐵道經由及奥地より上海への銀の輸送	京滬鐵道、滬杭甬鐵道經由及奥地より上海への銀の輸送
1929年	123,795,999	181,906,052
30	109,061,649	141,177,643
31	111,404,330	164,446,006
32	162,843,805	19,949,372
33	99,507,342	17,618,582
33.1	1,636,413	3,252,931
2	4,941,092	291,925
3	15,604,042	2,519,256
4	13,992,054	2,423,410
5	17,967,756	297,976
6	21,649,903	1,159,900
7	7,011,608	494,800
8	2,542,677	504,400
9	2,068,114	419,000
10	2,816,586	831,900
11	3,864,934	1,684,900
12	5,412,123	3,738,184
1934.1	1,683,611	1,477,747
2	483,217	375,200
3	4,015,407	581,500
4	14,097,099	2,020,610
5	5,237,341	115,271
6	5,992,400	315,000

【註】 國民政府主計處統計局「上海現銀移動狀況」統計期訊金融第1號4頁5頁1934年8月25日



一九三二、三三、三四年には支那の物價は、銀の價値が上昇したので、下落した。農民の生産物に對する受取價格が急速に下落したのに、農民の購買する商品の價格は依然比較的高かつた。従つて、上海から奥地へ輸送されるよりより以上の銀が奥地の諸地方から上海へ輸送された。従つて銀は上海に蓄積される傾向にあつた。

奥地の匪賊は銀移動の方向の變化には何らの關係もない。特に一九三三年に匪賊が突然増加したわけでもない。反對に、數年匪賊は確實に減少しつゝある。

支那の農民は自給にあらず

支那奥地の農民は大部分自給自足で、實際に何も賣買しないと屢々推定されてゐる。この推定は支持され得ない。といふのは人口の四分の一は農民ではないから、食料品及び燃料の供給を先づ第一に農民から受けねばならぬ。農輸出貿易を計算外とすると、全食料品の大約二十五%(重量で)が農民によつて販賣されねばならぬ勘定となる。農民が原料品——それを彼等は後に加工品の形態で購買するのであるが——を販賣する限り、及び農業生産物の地方的分

化が存在する限り、農業生産物の多くの部分が販賣されねばならぬ。

又農民は共通して租税及び負債を銀で支拂はねばならず、それを得るために生産物を販賣せねばならぬことも明かだ。支那二十三省における百十五農區の各百農家から集められた材料に基づく豫備的圖表が經濟資料として作られてゐる。<sup>\*\*</sup>各地方の資料は一年の農業經營を含んでゐるが、ある地方の調査は一九二九年、他の地方は一九三〇、三一、三二、三三年に行はれた。

各地方の、生産された主要收穫物總量と販賣された主要收穫物總量は、個々の農家の各々の數字を加へることによつて決せられる。販賣された主要收穫物の(重量による)各區の比率が得られた。それによると約半數の農區においては、農民は生産された主要收穫物の(重量による)四分の一或はそれ以上を販賣してゐる(第二十五表)。

平均して、百十五農區における農民はその主要收穫物の(重量で)二三・一%を販賣してゐる。

支那の農民は亦葉、莖の如き收穫副産物及び雑多の小收穫物の可なりを量販賣する。しかし勿論販賣されるのはかゝる收穫物の一部分(重量で)に過ぎない。販賣される主要收穫物、少收穫物、副産物の總量は、生産されたこれらの産物の總量の平均一七・二%である。

販賣される收穫物の價値が全收穫物の價値中に占むる比率は重量のそれよりも大きい。何となれば、農民は通常、より價値ある生産物を販賣し、價値の少きものを家庭の消費に保持するからである。支那農家經濟研究においてJ・L・バック氏は農業生産物價値の五四%が現金で販賣されることを發見した。

第二十五表 支那農民販賣主要收穫物(重量による)比率(23省115農區11,500農家)<sup>註</sup>

販賣主要收穫物(重量)比率	農區數(各農區當一百農家)	農區比率
10以下	22	19
10—19.9	37	32
20—29.9	24	21
30—39.9	20	17
40以上	12	11
	115	100

總地方平均23.1%  
範圍 0.4%—86.9%

【註】原資料は南京金陵大學農業經濟學院「土地利用研究」

\* 張心一氏は、支那の農業人口は全體の七三%であると推定した。同氏著「中國農家及作物之估計」



\*\* 丁・レバック著「支那農家經濟研究」

### 第四節 一九三二—三三年、支那における農地價格

農業生産物の價格が下落する場合には、農家収入は減じ、耕地に對する需要は減少する。貧窮せる人々は土地を賣つて負債や租税を支拂はうとする。賣手が多く、買手が少い、従つて土地價格は下落する。二十省における農情報告者からの資料に従へば、一九三三年における農地の價值は、十五省においては一九三二年より低く、六省では上昇した、或は少くとも下落しなかつた(第二十六表、第20圖)。

土地の價值が下落しなかつた六省の中には、相當程度の通貨價值下落のあつた南部四省が含まれてゐる。河南では、一九三二年におこつた廣範圍に互る軍事的活動のために土地の價值が特に低かつたといはれてゐる、綏遠では只二三の農區で代表されてゐるに過ぎぬ。

土地の價值が低落したと報告されてゐる十五省では、灌漑地價值平均指數は、一九三一年を一〇〇とすると、一九三二年が九〇、一九三三年が八一であつた。未灌漑地の價值は少しよけいに低落した。比較のために示せば、上海の平均卸賣物價は一九三一年を一〇〇とすれば、一九三二年が八九、一九三三年が八二であつた。

支那に於ては、農地の價值は卸賣物價と同じ程度に下落した。換言すれば、土地で表した銀價值の増加は、卸賣商品で示したそれと同程度であつた。

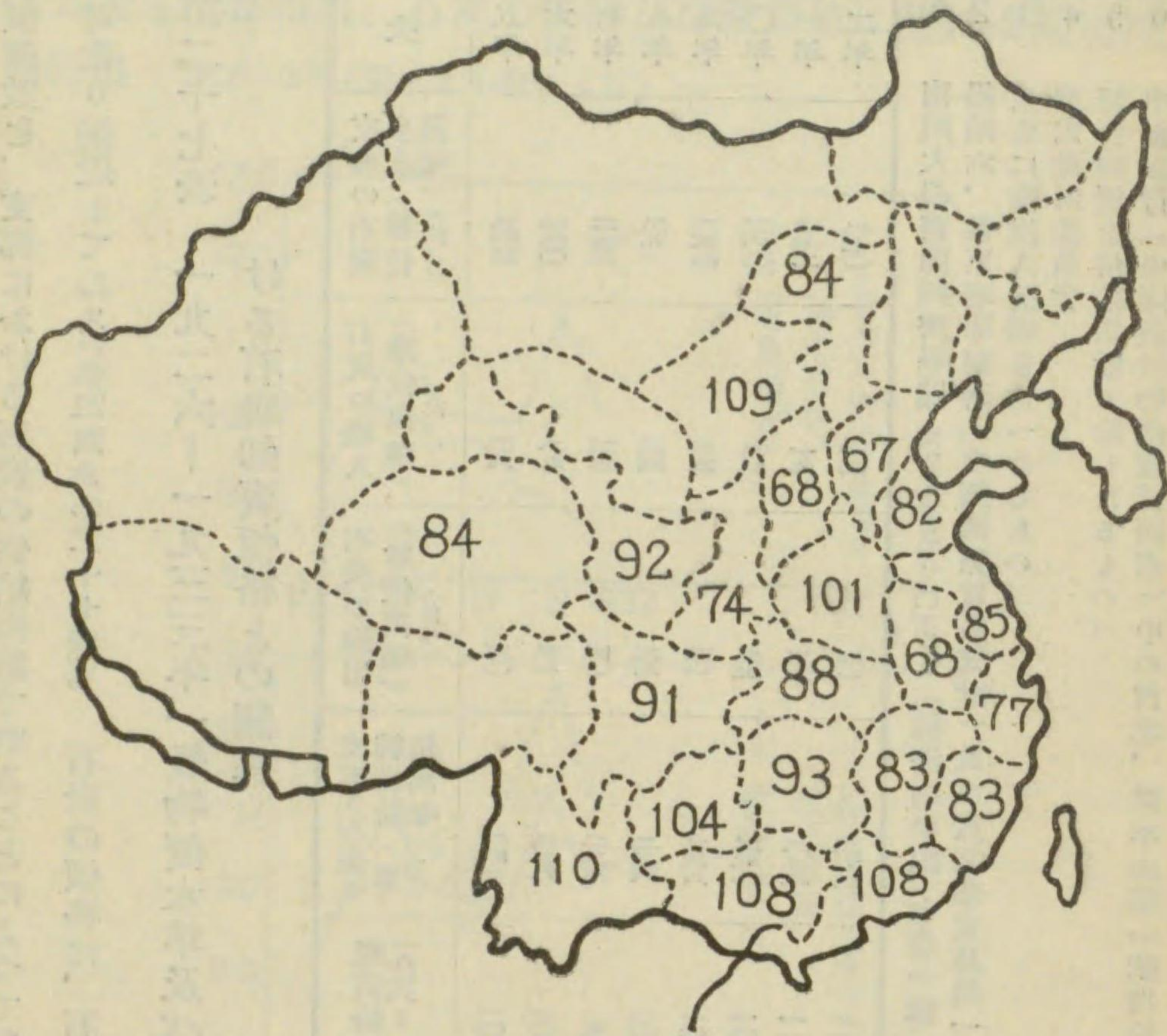
第二十六表 一九三二—三三年諸省における土地價值指數 一九三一年を一〇〇とす(註)

省名	灌漑地價值指數(一九三二—三三年)				非灌漑地價值指數(一九三二—三三年)			
	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三一年	一九三二年	一九三三年		
察哈爾	100	89	86	100	86	82		
青海	100	82	84	100	85	81		
甘肅	100	100	92	100	83	86		
陝西	100	87	84	100	82	80		
山西	100	88	86	100	82	79		
山東	100	88	86	100	85	80		
江蘇	100	89	85	100	89	85		
安徽	100	76	86	100	88	84		
湖北	100	82	86	100	80	84		
四川	100	97	88	100	94	89		
江西	100	101	89	100	95	94		
浙江	100	87	83	100	94	91		
福建	100	84	83	100	95	92		
平遠	100	85	87	100	94	91		
綏遠	100	113	109	100	119	110		
河南	100	92	101	100	100	101		

第四節 一九三二—三三年、支那における農地價格



第20圖 1933年支那灌漑地價值指數  
1931=100(註)



南支那、河南及び綏遠を除けば、土地價值は1933年の方が1931年より遙かに低かつたと收穫報告者は示してゐる。平均して土地價值は上海における同期卸賣價格と同じ位下落した。

【註】 第二十六表農情報告に基く。

石炭

一九二五年から一九三三年に至る期間における支那の石炭の純供給の推定は、生産と輸入を加へ、輸出を差引くことによつてなされた(第二十七表)。この推定がそれから、一九二六年を一〇〇とする指數として示されてゐる。石炭の供給が比較的に大なる場合には、その價格は當然、他の商品の平均價格に比して、低いと豫定される。石炭の豫想價格指數の凡その推定は、上

第五節 支那の石炭及び生糸の卸賣價格と銀價值その他の因子との關係

第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響

雲南	貴州	廣東	廣西	平均
100	100	100	100	100
106	103	108	108	106
110	104	108	108	107
100	100	100	100	100
106	107	108	108	106
116	109	109	108	111

【註】 原資料は實業部中央農業實驗所農業經濟科の農情報告に出版されてゐる。農情報告資料に基く。

農情報告の資料は、土地價值の低落を充分に示してゐない、といふのは、大多數の農民はどんな價格でも自分自身で土地を賣ることが出来ぬから、といはれる。尤も農情報告者のいふ價值は、買手が支拂はうとする價值よりも寧ろ、土地所有者が賣ろうとする價值を示すといふのが本當であらう。物價が下落してゐる場合には、買手の望む價值は賣手の望む價值を遙か下廻つてゐるから、正常の取引は殆んどおこらない。

物價下落の場合には、土地は貸付の擔保としては極めて不安なものとなる、といふのはその價值が貸付の額面價格以下に低落するからである。恐らく如何なる價格でも土地を賣ることは出来ぬであらう。そうすると、債權者は彼の貸付から何ものも得ることが出来なくなる。

第五節 支那の石炭及び生糸の卸賣價格と銀價值その他の因子との關係



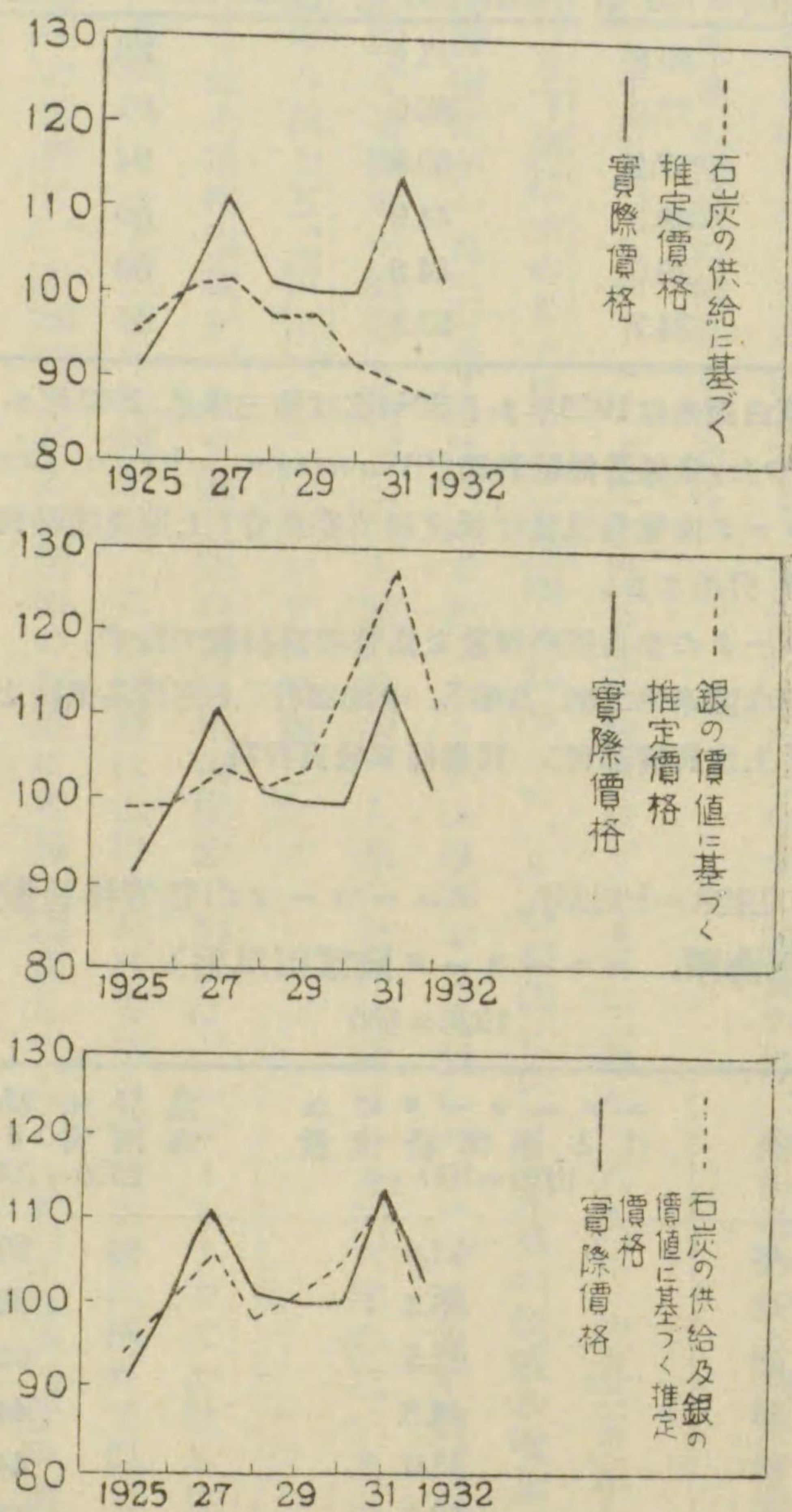
海の卸賣物價指數を、支那における石炭の供給指數で割ることによつてなされる。この推定は上海における石炭の實際價格指數に可なり接近してゐる(第21圖及第二十七表)。石炭の價格は、石炭の供給、石炭に對する需要(この計算では考

第二十七表 一九二六—一九三三年一般物價水準及び石炭の供給と上海における石炭卸賣價格との關係

年次	支那の石炭生産(單位萬噸)(註1)	石炭の輸入(單位萬噸)(註2)	石炭の輸出(單位萬噸)(註3)	支那の石炭の純供給(單位萬噸)(註4)	純供給指數(一九二六=100)	上海の卸賣物價指數(一九二六=100)(註5)	上海の石炭卸賣價格指數(註6)	上海の石炭卸賣實際價格指數(註7)
一九二五年	二四三	二六	三〇	二四一	一〇五・二	九三・三	四九	九一
一九二六年	三〇	元	三三	二三八	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇	一〇〇
一九二七年	二四三	三三	四〇	三三五	九八・七	一〇四・四	一〇六	一一一
一九二八年	二五一	二四	元	三三三	一〇三・五	一〇一・七	九八	一〇一
一九二九年	二五四	三三	四一	三三六	一〇三・五	一〇四・五	一〇一	一〇〇
一九三〇年	二六〇	三五	三五	三三〇	一〇九・六	一〇四・八	一〇五	一〇〇
一九三一年	二七三	二九	三五	三三五	一一一・八	一〇六・七	一一三	一〇〇
一九三二年	二七〇	二四	二二	二六三	一一五・四	一一二・四	九七	一〇一

(註1) 南開大學南開經濟學院 Economic China (經濟的中國)七卷一號一九三四年一月。  
 (註2) 楊端六、候原培等編著「中國國際貿易統計」及び實業部貿易局一九二九—一九三二年の未發表資料による。  
 (註3) 生産に輸出入差額を加へたるもの。  
 (註4) 國定稅則委員會。  
 (註5) 卸賣物價を供給指數で除したるもの。  
 (註6) 中國銀行「中國最近物價統計圖表」中の河北、開平產第一號塊炭の價格。

第21圖 1925—1932年、上海における石炭の卸賣價格指數、石炭の供給のみに基ける推定價格指數、銀の價值のみに基ける推定價格指數、石炭の供給及び銀價值に基ける推定價格指數 1926=100 (第二十七表による)



1925年から1932年に至る期間においては銀價值の變動には石炭の供給の變動よりも寧ろ石炭價格の變動に密接に關聯してゐる、兩因子を考慮に入れると石炭價格のかなり近似的推定が得られる。



第二十八表 1928—1933年、ニューヨークにおける生産價格指數、米貨の支那弗に對する爲替相場指數及び上海における生糸價格指數  
1926=100

年次	ニューヨークにおける支那生糸價格指數 1926=100 註1	爲替相場指數—上海兩當り米貨 1926=100 註2	ニューヨークにおける支那生糸の銀價格指數 1926=100 註3	上海における生糸價格指數 1926=100 註4
1928年	80.8	93.6	86	89
1929年	77.0	85.0	91	89
1930年	57.2	60.8	94	92
1931年	38.5	44.9	86	87
1932年	26.0	44.8	58	59
1933年	24.7	53.3	46	56

- (註1) 支那の滬白廠糸は1928年から30年迄は第三等品、1931年から33年までは第四等品であつた。米國勞働統計局“Wholesale prices of Commodities,”  
 (註2) ニューヨーク向電信爲替は國定稅則委員會「上海貨價季刊」及び「上海物價月報」から引用さる。  
 (註3) ニューヨークの生糸價格指數を爲替相場指數で除す。  
 (註4) 上海の滬白廠糸第二號(高等)。中國銀行「上海商品價格之分析」及び國定稅則委員會「上海貨價季刊」實業部未發表資料。

第二十九表 1928—1933年、ニューヨークの銀價格指數、爲替相場指數(米貨と上海兩、ニューヨーク向電信爲替)  
1926=100

年次	ニューヨークにおける銀價格指數 1926=100 註1	爲替相場指數—上海兩當り米貨 1926=100 註2
1928年	93.6	93.6
1929年	85.3	85.0
1930年	61.5	60.8
1931年	46.8	44.9
1932年	45.0	44.8
1933年	56.0	53.3
1934年	77.6	69.3

- (註1) 第二表より作る。  
 (註2) 第二十八表。

生糸 慮されてゐない) 及び一般物價水準と結び付いてゐる。前述の如く、物價水準は銀の價値によつて決定される。

生糸は銀と同様、世界市場を有する商品である。支那における生糸の購買力は、輸出等の如き測定可能な國內的因子よりも寧ろ、世界の、生糸の需給に依存してゐる。

一九二六年を一〇〇とすると、ニューヨークにおける生糸價格は、一九三二年が二六・〇、一九三三年が二四・七に過ぎなかつた。この驚く可き下落は次のことによつて説明される。一、この期間における米弗の價値の増加。それは一九二六年を一〇〇とした卸賣價格が一九三三年には六六であつたといふ事實でも明かだ。二、事業不振。そのため比較的高價な織物たる絹布に對する需要が減退した。三、人絹の競争。人絹の世界生産は一九二六年の二一九、〇八〇、〇〇〇ポンドから、一九三二年の四七五、四〇〇、〇〇〇ポンドに増加した。

ニューヨークにおける生糸價格指數を、米支通貨間の爲替相場指數で割れば、ニューヨークにおける生糸の支那通貨價格が得られる(第二十八表)。一九三三年を除けば、この指數は上海における生糸價格指數に極めて似てゐる。

米支通貨間の爲替相場の變動は、米國における銀價格の變動に密接に係してゐる(第二十九表)。合衆國における銀價格の變動は世界の銀需給及び合衆國通貨の購買力の變動によつて影響をうける。

明かに、合衆國の銀價値の上昇があつて、合衆國における生糸價格が、それと平行して上昇しない場合には、支那における生糸價格は更に下落する。諸外國における經濟回復が續行すれば、需要の増加によつて生糸價格は上昇する。



支那において生糸價格が異常に低いので、工業は相當不振に陥つた。一九三二年には、上海、無錫、宿州、鎮江、吳江における製糸工場は操業を停止してゐた。

### 第六節 貨幣としての銀と銅との相對的重要性、及び銀價格の諸變化の銅價格に對する影響

南京金陵大學農業經濟學院の行つた土地利用の研究に於ては、練達せる研究者達が支那の幾多の諸地方の農區を個々に觀察したのである。その大部分の農區に於て、農民の支拂價格と受取價格の報告が得られた。これらの價格はその取引に最も多く用ひられてゐる通貨によつて記録された。

研究せる農區の約五分の四にあつては、銀が農民の賣買に對する交換手段であつた(第三十一表)。約二割の農區に於ては銅が穀物販賣の代價として受取られてゐた。農區の約三割に於ては、銅が購買された商品の代價として支拂はれてゐた。二、三の農區では、銅及び銀の兩者が共に使用されてゐた故、異なる貨幣を使用する農區の比率は一〇〇以上になる。銅は實際、河南、江西、湖北、及び山東諸省の調査せる農區に於ては、賣買の爲の重要な貨幣であつた(第三十表)。農區の約九五%に於ては、銀は農民にとつては債務支拂の爲に必要とせられた。銅がこの目的の爲に使用されてゐたのは農區の約七%丈けに過ぎなかつたが、排他的に銅のみが使用されたのは唯四%に過ぎない(第三十一表)。銅が賣買の爲の普通の交換手段となつてゐる湖北に於ては、銀は大抵の場合債務支拂の爲に必要とされると云はれて

第三十表 一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二年及び一九三三年、二十二省百五十七農區に於ける農業生産物販賣により受取る、購買商品に對して支拂ふ、及び債務支拂に要する通貨(註)

省別	販賣商品に對し受取る通貨				購買商品に對し支拂ふ通貨			
	報告農區數	銀	銅	地方的紙幣	報告農區數	銀	銅	地方的紙幣
甘肅	四	四	二	一	四	四	二	一
山西	九	九	一	一	九	九	一	一
河南	二	二	一	一	二	二	一	一
陝西	七	七	一	一	七	七	一	一
寧夏	一	一	一	一	一	一	一	一
山東	八	八	一	一	八	八	一	一
安徽	三	三	一	一	三	三	一	一
遼寧	〇	〇	一	一	〇	〇	一	一
湖北	六	六	一	一	六	六	一	一
四川	五	五	一	一	五	五	一	一
江西	三	三	一	一	三	三	一	一
浙江	六	六	一	一	六	六	一	一
蘇南	三	三	一	一	三	三	一	一
江蘇	六	六	一	一	六	六	一	一
湖南	二	二	一	一	二	二	一	一
廣東	三	三	一	一	三	三	一	一
福建	六	六	一	一	六	六	一	一



廣西	貴州	雲南	青海	綏遠	合計
四	五	六	二	一	二二
四	五	二	二	一	九五
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	二二

【註】豫備資料は南京大學農業經濟學院「土地利用之研究」(未發表)による。  
×印は二種の通貨が用ひられてゐる農區のあることを示す。

第三十一表 一九二九、一九三〇、一九三一、一九三二及び一九三三年二十二省百五十七農區に於ける農民が賣買及び債務支拂に使用する通貨(銀・銅及び地方的紙幣)別農區の割合(註)

農場生産物に對して受取る通貨 買入品に對して支拂通貨 債務支拂に要する通貨	報告農區數	使用通貨割合	
		銀	銅
	三三	七九	一九
	三四	八〇	二九
	二八	六六	七
			四
			四
			〇

【註】三十表の要約。

ゐる。或る農民達は、最初その農産物を銅と交換に賣る場合でさへ、彼等は後になつて、その銅の幾何かを銀に兌換しなければならぬ。

貨幣としての銀と銅との相對的重要性に就いての、これ以上の説明は實業部中央農業實驗所に對する農情報告の提供する價格資料から得られる。一九三三年十月の資料がある。この資料は、使用されてゐる貨幣に關しては、さほど信頼し得ない。と云ふのは報告者達は價格を銀で表すやうに要求されてゐたからである。然し乍ら、このやうな要求があるにも不拘、報告者達は或程度まで自己の便宜を考へた結果か、屢々銀で表すのではなく、銅やその他の地方的通貨で報告してきた。若しも非が周知の、廣く使用されてゐる交換手段でないならば、收穫報告者達は價格をそれで容易に報告し得ないだらうし、従つてそうしなかつたのであらうと云つておけば間違ひないわけである。

雲南及び四川を除いた二十省では、殆んど全地方の報告者は、農民の販賣する生産物の價格を銀で表示した(第三十二表)。或る縣では、銅で表示された報告もあつた。小取引で販賣される商品——雄鷄や鷄卵——の價格は、大量取引で販賣される商品の價格より銅で報告されてゐるのが屢々多つたことは注目すべきことである。

農民が購買する商品の價格は、販賣する商品の價格より、銅で表はされてゐる場合が稍々多いが、然し乍ら銀で表はされた價格の方が遙かに支配的である。農民達は彼等が購買する量より以上に販賣するのが普通である。大抵の農區では、銅は唯少量取引の通貨に過ぎない。注意すべきは、牛や驢馬のやうな大きい商品の價格は、殆んど常に銀で表されてゐた。

四川では大部分の他の諸省より遙かに普通に銅が使用されてゐる證據がある。報告があつた殆んど總ての縣は、或る



第三十二表 一九三三年一〇月、二十省に於ける農民販賣商品價格の報告に用ひられた通貨の割合(註1)

販賣商品	二十省に於ける報告縣數	銀による價格を報告せるもの割合(註2)	銅による價格を報告せるもの割合(註3)
白米	三七五	九九	八八
玄米	三六七	九九	七八
大豆	七四〇	九九	五五
小麥	一三三	一〇一	五五
棉花	一五	九九	五五
雄雞	四七九	一〇〇	六六
鷄卵	五〇七	九九	六六
粟	五五五	九九	一九
羊	三七八	一〇〇	四四
高粱	三五九	一〇〇	四四
麥	三七五	一〇〇	六四
草	二九	一〇〇	六四
煙	六三	一〇〇	二
雌	五七	一〇〇	二
稷	五七	一〇〇	二

【註1】 二十省とは、江西、察哈爾、青海、甘肅、貴州、寧夏、湖南、福建、綏遠、山東、浙江、湖北、廣西、河北、安徽、山西、陝西、河南、廣東及び江蘇である。實業部中央農業實驗所の資料による。

【註2】 廣東及び廣西では、廣東の小銀貨で報告されるものが一番多かつた。

【註3】 各縣に數人の報告者がおり、又、或縣では報告毎に異つた通貨で報告してきたから、比率が一〇〇%以上になる。

第三十三表 一九三三年一〇月、二十省に於ける農民購買商品價格の報告に用ひられたる通貨の割合(註1)

買入商品	二十省に於ける報告縣數	銀による價格を報告せるもの割合(註2)	銅による價格を報告せるもの割合(註3)
衣類	八二七	九	一五八
鋤	八二九	六	一四四
鐵	八三四	七	一四四
燈	八二二	七	一八
胡椒	六七〇	七	一六
水	三七三	一〇〇	四
黃	二七五	一〇〇	三
植	五九	一〇〇	二
驢	四三三	一〇〇	一
騾	六	一〇〇	一
牛	二八三	一〇〇	一
豆	五五七	九七	三一



【註1、註2及び註3】は第三十二表に同じ。

【註4】黄牛であれ、水牛であれ、労働用の牛である。

相場は銀で表はされてゐたけれども、その縣の約三分の一に於ける報告者達からは、銅で表された報告を受取つた(第三十四表)。小取引で賣られる雄鶏や鶏卵は、銅や其他の通貨で報告される方が多かつた。購買される商品の價格は、九〇%以上の縣の報告者達からは銀で表はされてゐた、が然し四〇乃至五〇%の縣の報告者は此等の價格を銅或は地方的通貨で表示した。水牛や牛の價格が銅や地方的通貨で報告されることは殆んどなかつた。

銅が賣買の爲の普通の通貨であるが、負債や租税の支拂には銀が必要とされる四川省のやうな地方では、農民達には若し銅が銀で測つて價值が下落した場合、換言すれば、銀が銅で測つて騰貴した場合は、非常な困難が生ずるであらう。李明亮氏は「四川農禍之原因」に於て次のやうに書いてゐる。「銅は農家生産物の交換に於て受取られる本位貨幣である。

が然し銀非は租税支拂に對する本位貨幣である」と。租税が課される場合には、銀の價格は農村では増加するが、都會では減退する。かゝる複雑せる金融状態にあつては、銀の價格を操縱する投機的なブローカーがある。銀の價格が突然増加したり、減退したりすることがある。結局に於て、この損失は農民に降りかゝつてくる。銀と銅との交換比率が不確定であるから、利子契約に就いて多くの争ひがある。李氏によれば屢々地主は小作料取立の爲法律に訴へるとの事である。

貨幣制度が恐らく他のいづれの省よりも混亂してゐる雲南省に於ては、農區の六〇%以上は、農民が賣買する商品の價格を銀非で建て、報告した(第三十四表)更に一〇%以上の農區に於ては、報告者は價格を地方の五〇仙銀で建て、雲南の通貨は全縣の約二十五%で使用されてゐた。ニッケル貨及び所謂法定貨幣では報告されることは、それより

少かつた。種々な通貨で價格が建てられる農區の總數及び比率は、一〇〇%を遙かに越える。何となれば、同一農區の別な報告者は異つた通貨で價格を報告したから。

第三十四表 一九三三年一〇月、四川及び雲南省に於ける農民の賣買商品價格の報告に用ひられたる通貨の割合<sup>(註)</sup>

農民の賣買商品	四川			雲南		
	報告農區數	價格を報告せる農區の割合	其他	報告農區數	價格を報告せる農區の割合	法貨
白米	六	六	二〇	五	三	五
玄米	六	四	三	三	三	五
大豆	六	六	三	三	三	五
繭	六	六	三	三	三	五
小絹	六	六	三	三	三	五
棉花	六	六	三	三	三	五
雄雞	六	六	三	三	三	五
雞卵	六	六	三	三	三	五
農民の購買商品類	六	六	三	三	三	五



豆	黄	水	胡	燈	鉄	鋤
			麻			
油	牛	牛	油	油		
	六	七	六	七	七	六
	七	七	九	九	九	六
	八	三	元	元	三	元
	九	三	三	〇	〇	三
	元	元	元	元	元	元
	五	六	六	六	六	六
	五	一	五	五	六	一
	六	〇	八	二	八	〇
	三	六	六	二	六	六
	五	五	三	五	三	五

【註】 實業部中央農業實驗所の資料による

銀が實際には全支那に亙つて、本位的な交換手段であることは證據が示すところである。屢々云はれてゐるやうに、支那人が使用する通貨は、銅を基礎とすると云ふことは眞實ではない。銅は現在大部分の地方では、唯補助貨幣で小取引に用ひられるに過ぎない。

銅が賣買に普通用ひられてゐる地方に於てさへ、銀は負債、及び、亦疑ひもなく租税の爲に必要とされる。従つて銀價値が騰貴する場合は、負債や租税は減じない。この事實は農民全般に亙る苦惱を説明する上に非常に重要である。

銀は屢々地金の形態で及び各種の品位や重量の鑄貨にて流通してゐるから、支那の通貨は實際には銀を基礎とするものでないと云はれてゐた。かゝる結論は、事實からは論理的に引き出し得ない。各種の銀鑄貨や兩が、相互にその地金内容を基礎として交換されるから、通貨の價値は、その中に含まれてゐる、或はそれと交換される銀の價値に依存してゐることは非常に明白である。通貨の價値が銀に依存してゐるが故に、通貨は眞實銀本位であると云はれ得るのである。

金屬本位そのものが流通してゐる支那に於ては、通貨の價値は少く共銀の價値に密接に依存する、恰も米弗の價値が流通してゐない金に依存すると同様であると云ふことは論理的に正しい。

銅で示された物價

補助貨としての支那の銅貨は、銀銅の比率が一定してゐないといふ點で特異なものである。従つて銅貨で示された物價は、銀貨で示された物價と歩調を合はせて動かない。種々の銅貨で示された物價も相互に一致して動くのではない。過去に於ては、銅貨は通常過剩に鑄造され、價値の下落を來してゐた。

一九三一年一月から一九三三年一月に至る期間における河南省の銀で示された米、棉花の農場價格は殆んど安定してゐた。尤も米は洪水のため一九三二年には高かつたが(第三十五表)。銅で示した物價が利用し得るところの限られたる農區に於ては、銅で示された小麥、米、棉花の價格は、一九三三年一月の方が一九三一年一月よりも二割五分位高かつた。明かに、河南のこれらの農區における銅貨は、この二ヶ年間に著るしく價値の下落を來したのである。

江蘇武進における、農民の生産物に對する受取價格及び購買商品に對する支拂價格指數は、張履鸞氏によつて、銀及び銅で計算されてゐる。一九一〇年から一九二六年に至る期間中における農民の受取價格及び支拂價格は銅でも、銀でも上昇の傾向にあつた(第三十六表及び第22圖、第23圖)。銀も銅も共に商品ではその價値が下落したが、銅は銀よりもより急速に下落した。銀弗を買ふに要する銅貨數は、一九二〇年以後急速に増加した。

物價上昇の場合には、農民の受取價格の支拂價格に對する比率は、通常、農民に有利であつた(第三十六表及第34圖)。銀



も銅もその價値が下落した、そして販賣生産物價格は購買商品價格に對して、銅でも銀でも、同じ關係を保持してゐた。

武進における交換手段としての銅が重要性を失つた結果、銅による物價指數が最近になつては計算されてゐない。農業商品(農家賃銀を含む)物價は、一八九四年から一九三三年の間に、河北鹽山に於て、銅で示すと非常に速かに上昇した(第三十七表)。明かに、銅貨の價値が著しく下落したのである。それは又、爲替相場の上昇によつても分る様に

第三十五表 一九三二年一月及び一九三三年一月の河南省に於ける銅及び銀による小麥、米及び棉花の價格指數 一九三二年一月を100とす (註1)

年次	小麥價格		米價格		棉花價格	
	銅(註2)	銀	銅(註3)	銀	銅(註4)	銀
一九三一年一月	100	100	100	100	100	100
一九三二年一月	141	114	114	110	111	101
一九三三年一月	119	116	101	101	113	101

【註1】 實業部中央農業實驗所收穫報告(未發表)による。

【註2】 一一報告の平均。

【註3】 四報告の平均。

【註4】 一五報告の平均。

第三十六表 一九一〇—一九二六年江蘇武進に於ける銅及び銀による農民の受取價格對支拂價格の割合(註)

一九一〇—一九一四を100とす

年次	一銀非に對する銅の交換比率指數	農民の販賣商品に對する受取價格指數		農民の買入商品に對する支拂價格指數		受取價格對支拂價格の比率	
		銅	銀	銅	銀	銅	銀
一九一〇年	101	101	101	101	101	101	101
一九一一年	99	106	107	101	104	103	103
一九一二年	101	96	98	100	99	99	100
一九一三年	98	95	97	99	100	99	97
一九一四年	101	100	105	105	103	96	96
一九一五年	107	113	115	118	113	96	93
一九一六年	104	109	105	109	115	92	91
一九一七年	96	100	103	115	117	87	88
一九一八年	99	100	103	115	117	87	88
一九一九年	103	96	99	118	119	81	82
一九二〇年	104	99	101	126	126	77	76
一九二一年	112	149	141	136	136	89	89
一九二二年	112	149	141	136	136	89	89
一九二三年	117	130	125	131	131	94	95
一九二四年	145	117	109	111	111	106	106
一九二五年	116	113	111	111	111	109	108

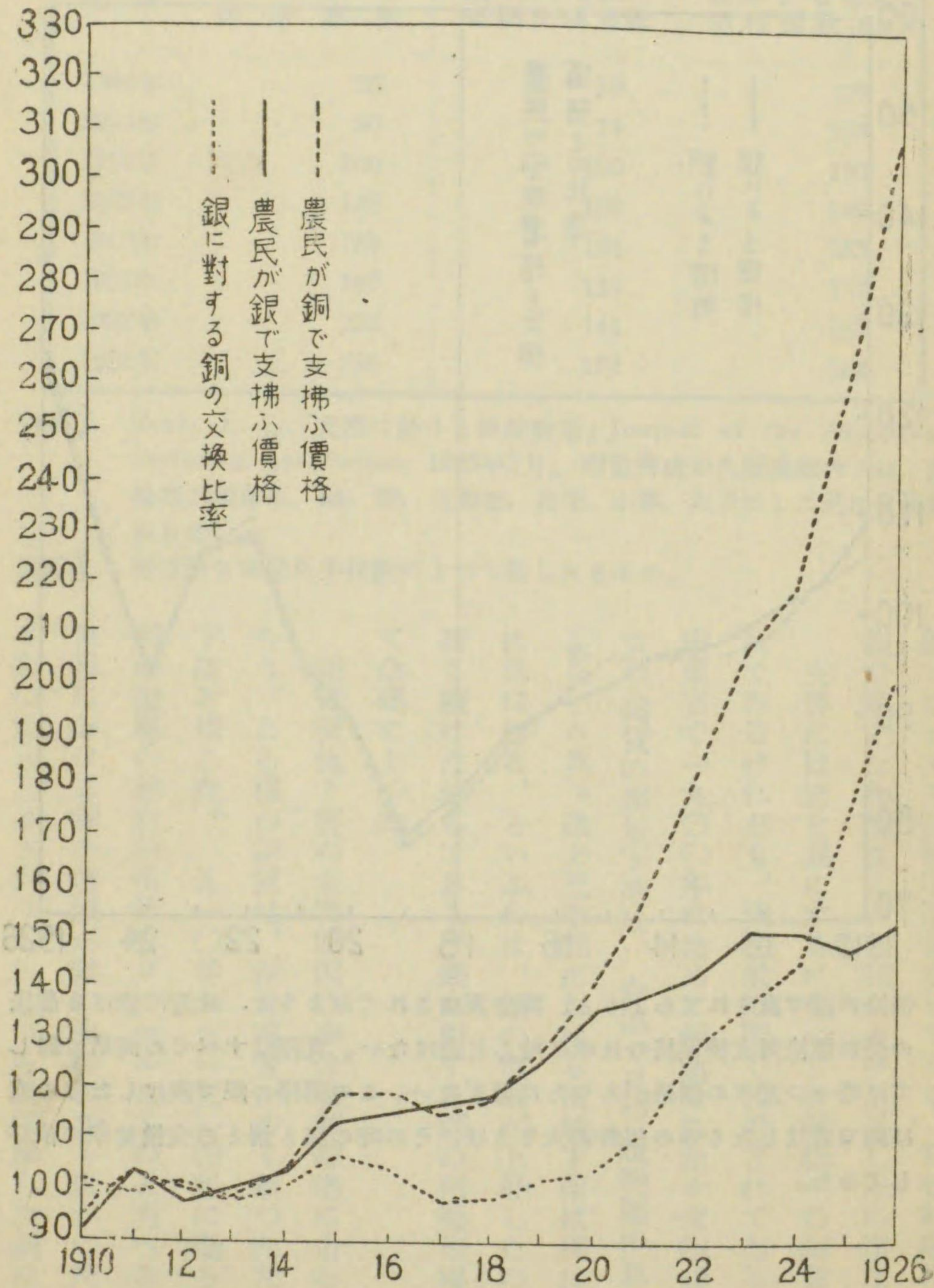


第23圖 1910—1926年江蘇武進に於ける銅による及び銀による  
 購買商品支拂價格指數並びに銀に對する銅の  
 交換比率

1910—1914=100(第三十六表による)

第六節 貨幣としての銀と銅との相對的重要性

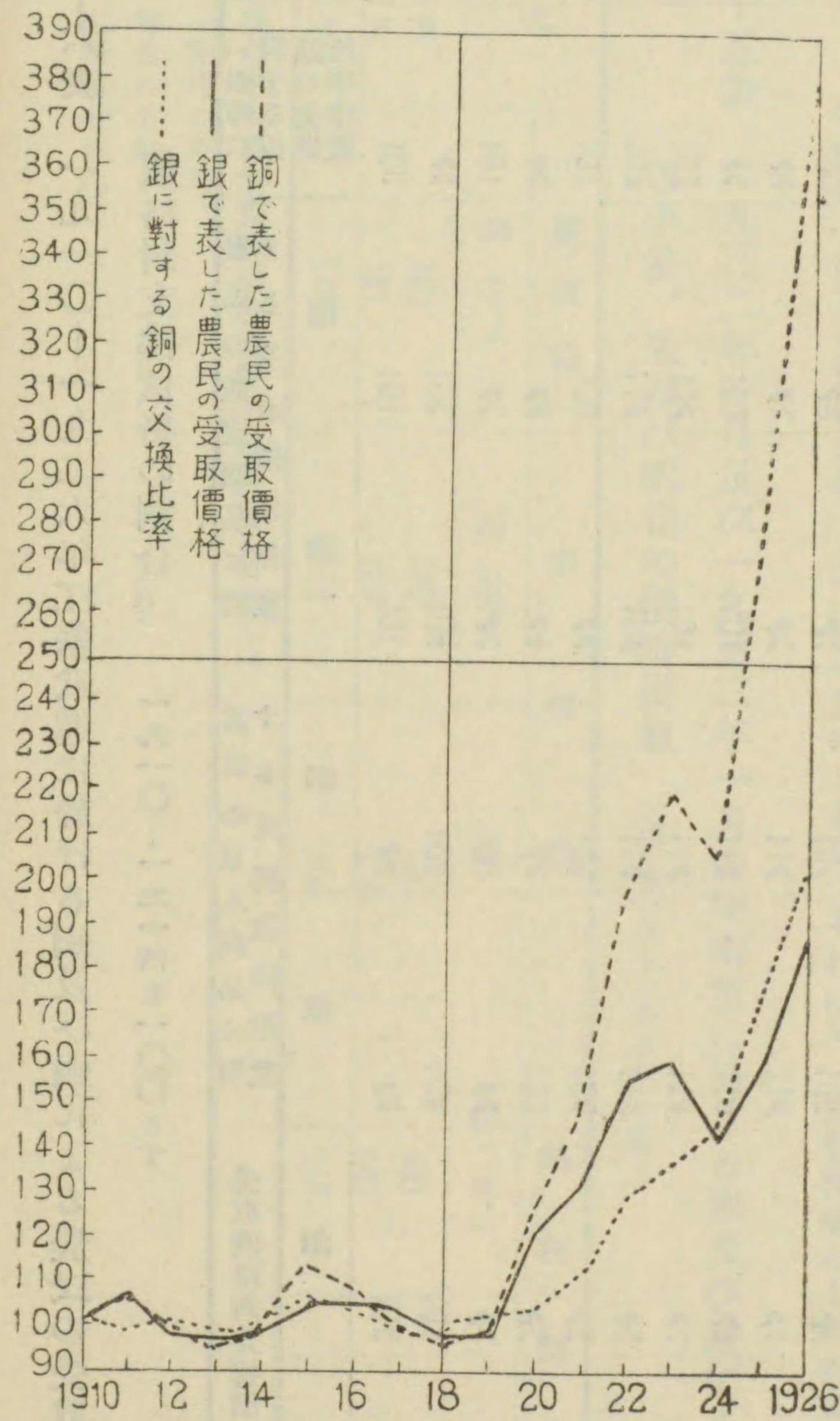
八五



1910年から1926年迄は農民の購買商品の支拂價格は非常に騰貴した。銅も銀も共に價值は下落しつゝあつたが、銅はより急速に減價しつゝあつた。

第22圖 1910—1926年、江蘇武進に於ける銅による及び銀による販賣商品受取價格指數並びに銀に對する銅の交換比率指數

1910—1914=100 (第三十六表による)



1919年後武進に於ては農場價格は騰貴した。銀で表はした銅貨は價值下落し、銅で表はした諸價格は急速に騰貴した。

【註】張履鸞「南京大學農學院」江蘇武進物價之研究「實業部貿易局叢刊第十九號」

一九二六年	二〇三
一九二七年	二一七
一九二八年	三五
一九二六年	三六四
一九二七年	一八九
一九二八年	三〇八
一九二六年	一五
一九二七年	三五
一九二八年	二四

第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響

八四



第三十七表 河北省鹽山に於ける八種農産物の銅價格指數、銀と銅との交換比率及び銀による推定價格 (1914=100) (註1)

年次	銅價格指數	銀に對する銅の交換比率指數	銀による推定價格指數 (註2)
1894年	55	59	93
1904年	80	74	103
1914年	100	100	100
1919年	145	100	145
1920年	159	104	153
1921年	187	119	157
1922年	235	141	167
1923年	280	152	184

【註1】 Buck, J. L. 「支那に於ける物價變動」 Journal of the American Statistical Association, 1925年7月。指數構成の八種農産物とは、農場用二輪馬車、鋤、耙、玉蜀黍、高粱、小麥、大豆にして更に農場賃銀を含む。

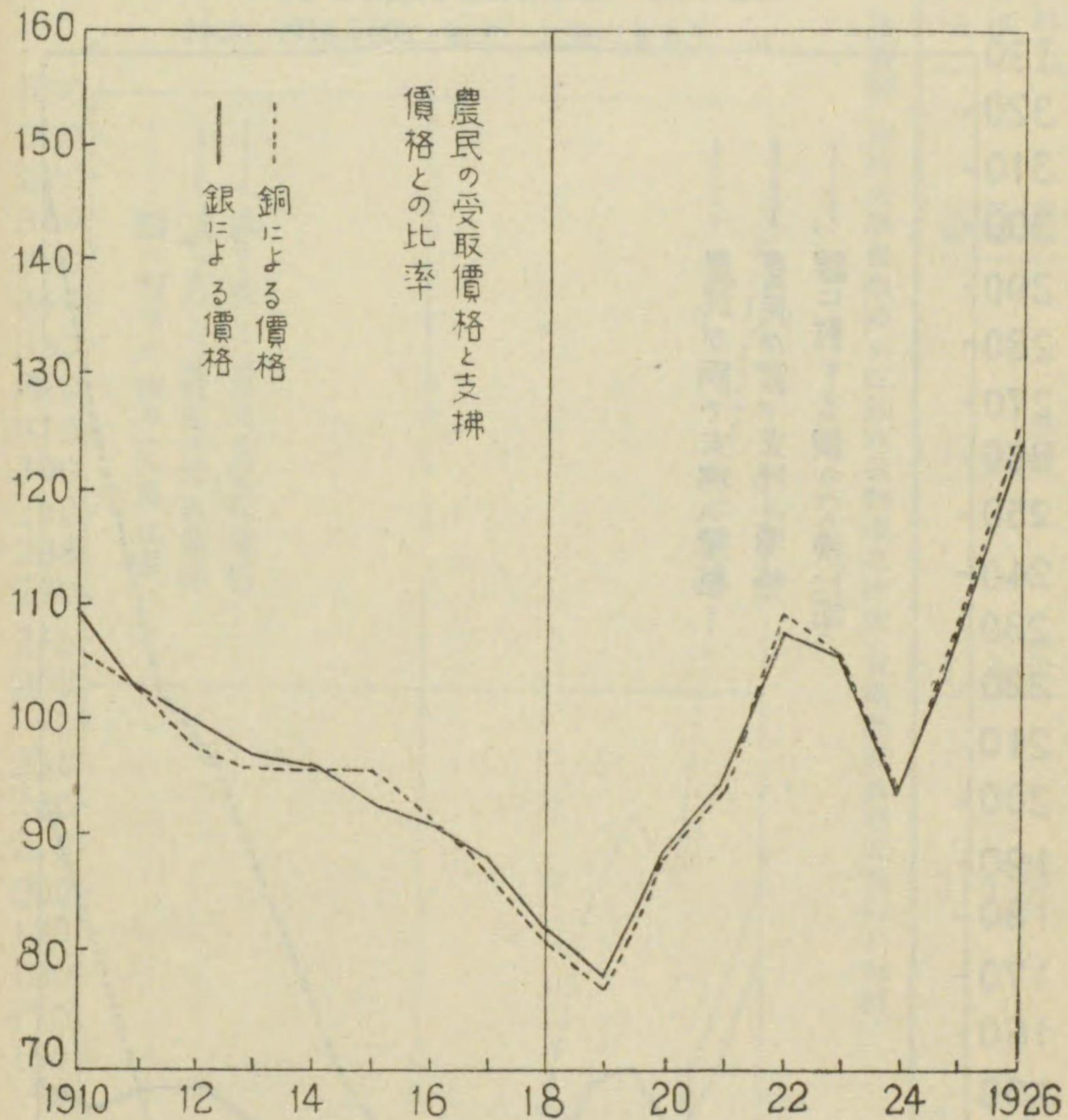
【註2】 銅指數を交換比率指數によつて除したるもの。

銀で示しても價值下落を來してゐる。<sup>\*</sup>爲替相場に従へば、銀で示した物價はこの期間に多少上昇したに違ない。支那には處を異にするに従つて各種様々の銅貨が使用されてゐるけれども、現在最も廣く使用されてゐる銅貨は、廣東省で一九〇〇年に始めて鑄造された十文銅貨である。この鑄貨の價值下落は、急速で且つ廣範圍に亘つてゐた(第三十八表)。過去三年間における價值下落は殊に著しい様に思はれる、といふのは、銀の價值が上昇したのに銅は下落し續けたからである。銀に對する銅の兩替相場は、従つて急速に上つた。

銅貨價值下落の主要原因は多分過剩鑄造に由るものであらう。ある種の銅貨は、銅含有量が少なくなつたために價值下落を生じた。一九一〇年から一九一四年に至る期間の銀銅兩金屬の相對的價值をノーマルなものと考えらば、世界における銅の價值が銀のそれよりも低かつたことが屢々あつた(第三十九表)。しかし乍ら銀で示した銅の價值下落

第六節 貨幣としての銀と銅との相對的重要性

第24圖 1910—1926年、江蘇武進に於ける銅及び銀による農民の受取價格と支拂價格との比率 (第三十六表による) 1910—1914=100



價格が銅で表されてゐようと、銀で表はされてゐようと、武進に於ける農民の受取價格對支拂價格の比率は殆んど違はない。實際はすべての商品に對しては唯一つだけの價格があつたに過ぎない。この價格の銀で表はしたものと或は銅で表はしたものの相對的の大きさは、その時の銀と銅との交換比率に依存してゐた。

第一章 貨幣及びその他の因子が物價に及ぼす影響



第三十八表 一九一八—一九三四年、支那の各金融中心地に於ける一銀弗に對する十錢銅貨の交換數

都市	一九一八年三月	一九二二年二月	一九三三年六月	一九三五年三月	一九三三年三月	一九三四年三月
上海市	一三三	一四四	一七一	二七七	二六六	三一九
芝罘	一三五	一四六	一五七	二四七		
鎮江	一三四	一四四	一五五	二四七		
杭州	一三三	一四三	一八〇	二七一		
漢口	一三二	一四二	一八〇	二六四		
南京	一三一	一四一	一八〇	二六四		
寧波	一三一	一四一	一七〇	二六四		
蘇州	一三一	一四一	一七〇	二六四		
天津	一三〇	一四〇	一七〇	二六四		

【註】E. Kann, 「支那通貨論」國定稅則委員會「上海貨價季刊」及び「上海物價月報」による。

は、次第くゝに絶え間なく、或は急速に行はれたのであるから、支那の銅貨の相對的價値下落も肯かれる。従つて銅貨價値下落は多分、先づ第一に無統制な鑄造發行に由來したのであらう、又屢々そう唱へられてゐる。

銅貨に關する結論

銅ではなくて銀が支那における價値の一般的標準である。それは負債、租稅の支拂、特定地域及び小取引を除いた賣

第三十九表 一九一〇—一九三三年、倫敦に於ける銀及び銅の價格指數 (一九一〇—一九一四=100)

年次	銅價格 (註一)	銅價格指數 (一九一〇—一九一四=100)	銀價格指數 (一九一〇—一九一四=100) (註二)
一九一〇年	五七・二磅	九一	九五
一九一一年	五六・一	八九	九四
一九一二年	七三・一	一〇六	一〇八
一九一三年	六八・三	一〇九	一〇六
一九一四年	五九・六	九五	九七
一九一五年	七三・六	一〇六	九
一九一六年	二一六・一	一八五	二〇
一九一七年	二五・一	一九九	一五七
一九一八年	一五・六	一八四	一八三
一九一九年	九一・〇	一四五	二二九
一九二〇年	九七・六	一五五	二二六
一九二一年	六九・四	一一一	一四二
一九二二年	六三・二	九九	一三三
一九二三年	六五・九	一〇五	一三三
一九二四年	六三・二	一〇一	一三一
一九二五年	六三・二	九九	一三一
一九二六年	五八・〇	九九	一三〇
一九二七年	五五・七	八九	一〇〇



一	九	二	八	年	六三・七	101	103
一	九	二	九	年	七五・五	110	104
一	九	三	〇	年	五四・七	117	106
一	九	三	一	年	三八・四	126	105
一	九	三	二	年	三三・七	135	106
一	九	三	三	年	三三・六	145	106

【註1】 Metal Statistics 1934, 「米國金屬市場」

【註2】 路易士及張履鸞「銀價與中國物價水準之關係」金陵大學叢刊(新號)第十一號

買に、殆んど一般的に用ひられてゐる。

銅貨の價値は急速に下落してゐる。殊に一九二〇年以來。商品を賣つて銅を受け取り、後で負債及び租税の支拂に銀を以てしなくてはならぬ人々は、この價値下落のため困つてゐる。この困窮は過去三年間に激しくなつた。といふのは銀の價値が上昇するのに銅は下落し、その開きが急速に著しくなつたためである。

銀は負債、租税の支拂及び重要取引に要求されるから、銅の價値下落は取引毎に銀若くはそれの等價物を要求する慣行を生ぜしめたいらしい。もし租税及負債支拂の價値がもと／＼銅で定められ(従つて政府官吏及び軍隊の俸給が銅で支拂はれる)てゐたならば、銅の價値下落は銀を流通場裡から追出すであらう。しかし現在の狀況の下に於ては、銀價値の相對的上昇は、銀貨退藏の要求を増加せしめ、更に商品で示した銀の價値を上昇せしめてゐる。貨幣制度の中に價値下落しつゝある補助貨の存在することは甚だしく望ましからぬことである。補助貨と本位貨との間の兩替比率の動搖は除かる可きである。

しかし乍ら、補助貨の相對的價値下落の害悪は今始つたことではない。従つて一九三一年に始まつた異常な經濟不況の原因と看做すことは出来ぬ。前述の諸商品で示された銀價値の上昇が、銀による物價下落の根本原因であり、支那では銀による物價の方が銅で示された物價より遙かに重要である。

たとへ銅による害悪が除かれたとしても、商品による銀貨の價値を低下せしめる方策が講ぜられざる限り、現在の經濟不況は依然續くであらう。

統一せる鑄貨制度——それは望ましいには違ないが——は不況に對する防衛たり得ない。鑄貨の統一が問題とならぬい合衆國や英國も破壊的な不況に遭つたのである。

\* Eカン著『支那通貨論』附録第六を見よ。

### 第七節 支那の商品にて示されたる金の購買力と金本位制下の合衆國の卸賣物價水準との關係

合衆國に於ける銀の購買力を知つて、可成り正確に支那における銀の購買力を推定出來た。従つて又、支那の一般物價水準を推定出來た(第一章第一節第2圖を見よ)。

同様に、支那商品で示された金の推定購買力によつて、合衆國における基準商品の卸賣物價水準を可成り正確に推定出來た。ロンドン及びニューヨークに於ける金銀の取引比率が、支那における銀で示された金價格の近似値として採用



第四十表 一九〇〇—一九三二年、支那商品及び米國商品による金の購買力指數

(一九一〇—一九一四を二〇〇とす)

年次	金に對する銀の價值率(註1)	銀による金の價值指數(註2)	支那輸出入商品卸賣物價(註3)	支那の商品による金の推定購買力(註4)	米國、卅種基準商品の物價指數(註5)	米國卅種基準商品の物價指數(註6)
一九〇〇年	三三・三三	九三	七四・一	二四・二	八六	一一六・三
一九〇一年	三四・六八	九五	七三・六	一九・一	八二	一一三・〇
一九〇二年	三九・一五	一〇八	八〇・六	一三四・〇	八九	一一六・三
一九〇三年	三八・一〇	一〇五	八九・四	二七・五	八八	一一三・六
一九〇四年	三五・七〇	九八	九〇・八	一〇七・九	八五	一一七・六
一九〇五年	三三・八七	九三	八六・六	一〇七・四	八九	一一二・四
一九〇六年	三〇・五四	八四	八三・七	一〇〇・四	九二	一〇八・七
一九〇七年	三二・三四	八六	九〇・八	九四・七	九九	一〇一・〇
一九〇八年	三六・六四	一〇六	九五・六	一一〇・九	九一	一〇九・九
一九〇九年	三九・七四	一〇九	九三・六	一一六・五	九七	一〇三・一
一九一〇年	三八・三三	一〇五	九八・〇	一〇七・一	一〇三	九八・〇
一九一一年	三六・三三	一〇五	九七・八	一〇七・四	九五	一〇五・三
一九一二年	三三・六二	九三	九三・二	九七・七	一〇〇	一〇〇・〇
一九一三年	三四・一九	九四	一〇〇・九	九三・二	一〇三	九八・〇
一九一四年	三七・七〇	一〇三	一〇八・一	九五・三	九八	一〇三・〇
一九一五年	四〇・四八	一一一	九八・〇	一三三・三	一〇三	九七・一
一九一六年	三〇・七八	八五	一〇六・三	八〇・〇	一三二	七六・三

年次	金に對する銀の價值率(註1)	銀による金の價值指數(註2)	支那輸出入商品卸賣物價(註3)	支那の商品による金の推定購買力(註4)	米國、卅種基準商品の物價指數(註5)	米國卅種基準商品の物價指數(註6)
一九一七年	二四・六一	六八	一〇〇・五	六七・七	一〇一	四九・八
一九一八年	二二・〇〇	五八	一〇〇・七	五二・四	二二四	四六・七
一九一九年	一八・四四	五一	一〇〇・六	四六・一	二二七	四六・一
一九二〇年	二〇・二八	五五	一一〇・二	四六・六	二二一	四三・三
一九二一年	三三・七六	九〇	一一九・六	七五・三	一三六	七九・四
一九二二年	三〇・四三	八四	一一五・六	七三・七	一四六	六八・五
一九二三年	三三・六九	八七	一二一・六	七一・五	一五八	六三・三
一九二四年	三〇・八〇	八五	一二四・一	六八・五	一五一	六六・二
一九二五年	二九・七八	八二	一二七・三	六四・四	一五七	六三・七
一九二六年	三三・二一	九一	一三〇・七	六九・六	一四六	六八・五
一九二七年	三六・四七	一〇〇	一三三・六	七五・四	一三九	七二・九
一九二八年	三五・三四	九七	一三六・五	七二・一	一四三	六九・九
一九二九年	三八・七八	一〇七	一四一・九	七五・四	一四一	七〇・九
一九三〇年	五三・七四	一四八	一五七・九	九三・七	一八	八四・七
一九三一年	七一・三五	一六	一六三・四	一一〇・七	九〇	一一一・一
一九三二年	七三・二九	二〇三	一四八・二	一三三・三	七四	一三三・一
一九三三年	五九・〇六	一六三	一三〇・〇	一三三・〇	八五	一五〇・五

【註1】 Metal Statistics 一九三四年、四七〇頁「米國金屬市場」一九〇〇—一九一四年の倫敦相場及び一九一五—一九三三年

紐育相場を基礎とす。

【註2】 第一欄の比率に基く指數。

【註3】 路易士、張履鸞「銀價與中國物價水準之關係」金陵大學叢書第十一號。

【註4】 金の價格指數の支那の輸出入商品卸賣物價指數に對する百分比。

第七節 支那の商品にて示されたる金の購買力



【註5】 Warren, G. F. 及び Pearson, F. A. 「一七九七—一九三二年米國に於ける卸賣物價」 Cornell Univ. Agr. Exp. Stat. Mem. 142, 一九三二年十一月。

【註6】 右欄數字の逆數。

【註7】 弗磅で表はした金の平均價格は先の價格の一七・九%であつた。金の購買力 =  $\frac{85}{100} \times 127.9 = 150.5$ 。これは數種の價格が未だ平價切下の反應を示してゐなかつたから高いのである。

された(第四十表)。金の銀による推定價格が計算された。支那における輸出入商品の卸賣物價指數と比較すれば、金の價格指數は時々——例へば一九〇八年から一九一一年に至る期間——高く、又、時々——例へば一九一八年より一九二〇年に至る期間——低かつた。

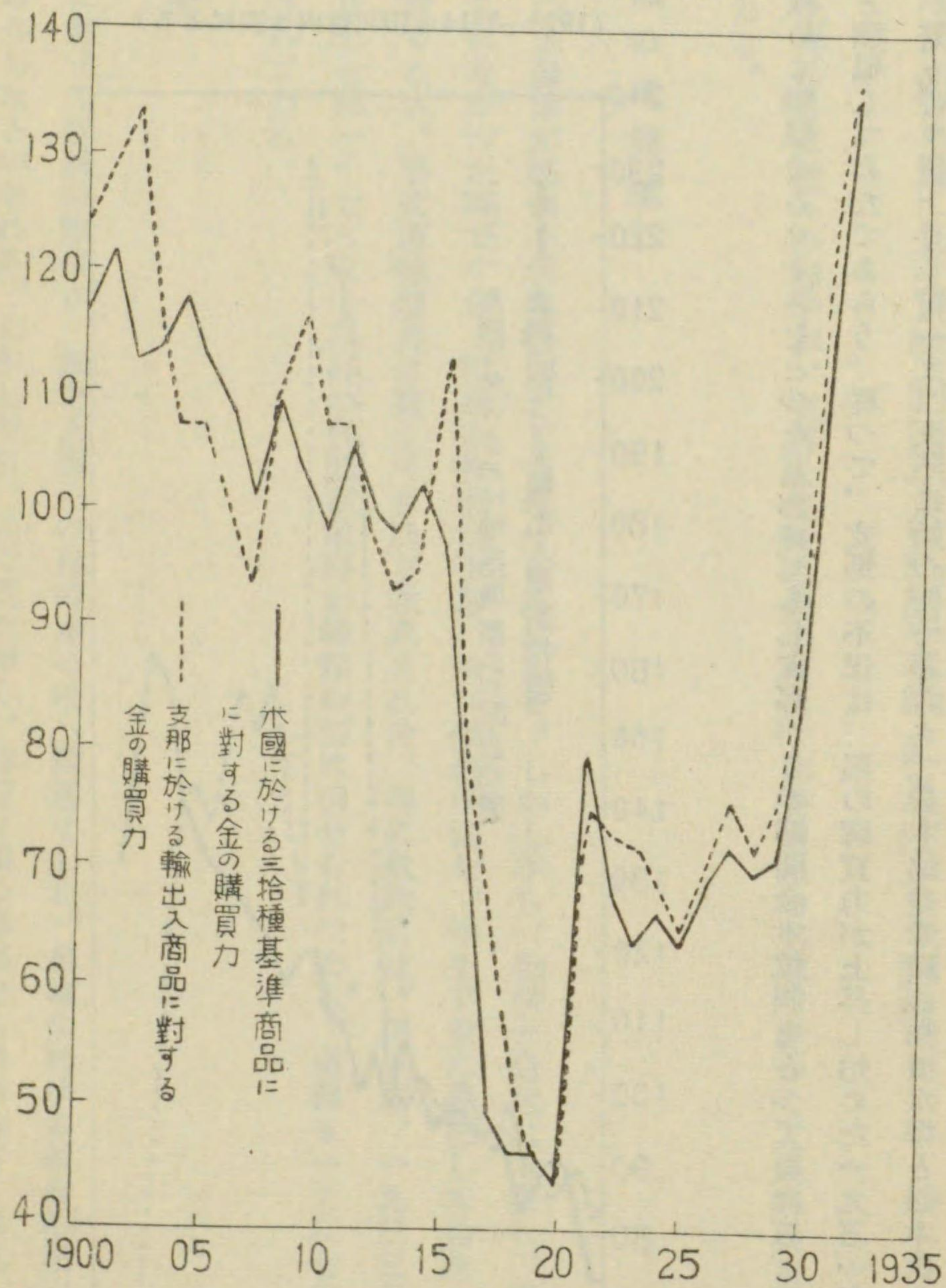
金の價格が他のものの物價に比し低いときは、その購買力が小であるといはれる、といふのは金の所有者が、基準期間(一九一〇—一九一四)におけるよりも少量の財貨しか買へないからである。金の價格が他の物價よりも高いときは、その購買力が大であるといはれる。従つて、支那商品で示された金の推定購買力指數は、金價格指數の物價指數に對して有する比率をとることによつて算出される。

一九〇〇年より一九三二年に至る期間の合衆國に於ては、金自體が價值の標準であつた。金の價值は米弗で一定されてゐた。財貨は一定重量の金を表現せる弗によつて直接賣買された。金が安いときには、財貨を購買するにより多くの弗を要した、換言すれば物價が上昇したのである。合衆國に於ける金の購買力指數は、三〇の基準商品價格指數の逆數として算出される。

一九〇〇年より一九三二年に至る期間、殊に一九一五年以後、支那商品で示された金の購買力及び合衆國における金

第25圖 1900—1933年、米國に於ける三十種基準商品による及び支那における輸出入品による金の購買力指數 (1900—1914=100) 第四十表による)

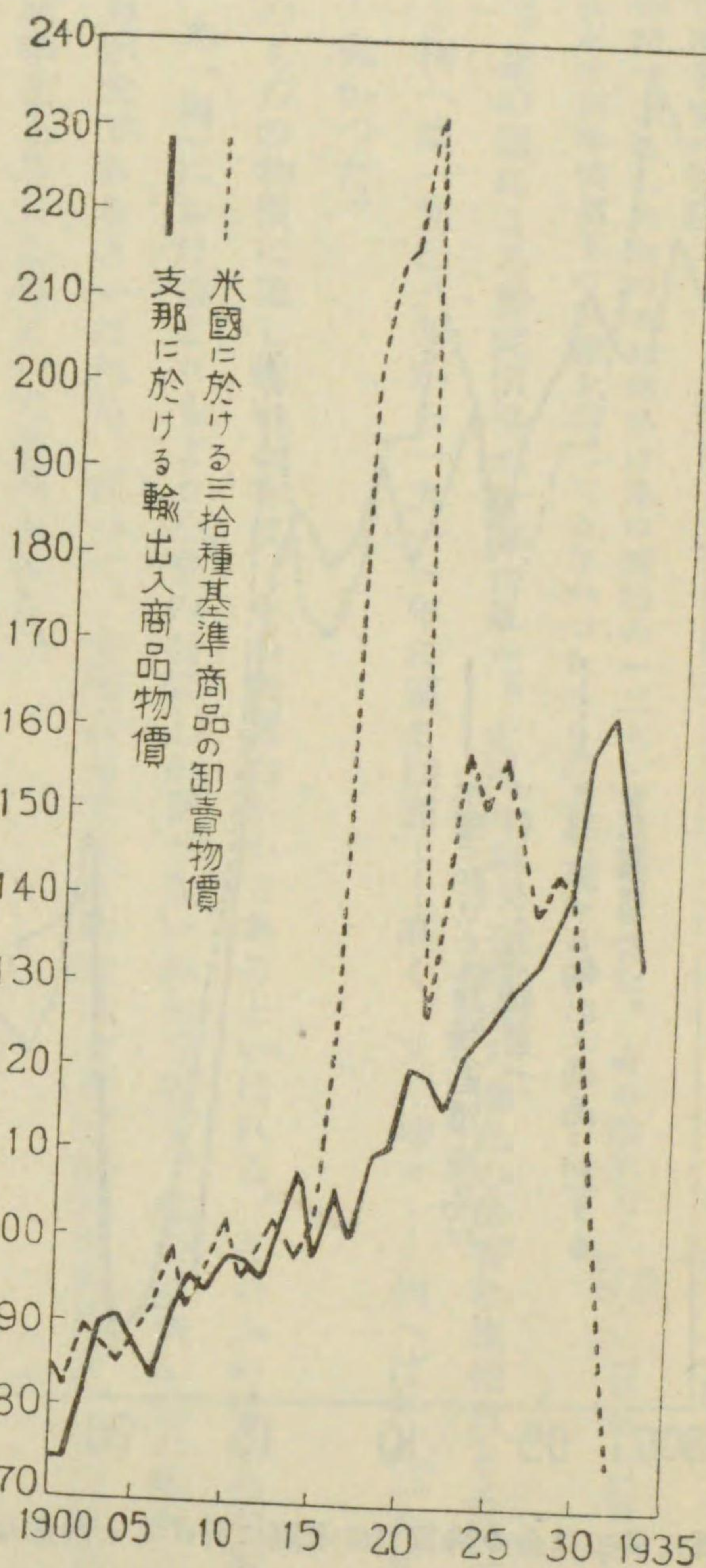
第七節 支那の商品にて示されたる金の購買力



支那に於ては金の購買力は米國に於けると同様な動きを示した。支那の商品で表はした金の購買力から、米國の基準卸賣商品の價格水準を正確に推定することは可能なことであらう。



第26圖 1900—1932・33年、米國に於ける三十種基準商品の卸賣物價指數並びに支那に於ける輸出入商品卸賣物價指數 (1910—1914=100(第四十表による))



米國に於ける卸賣物價は金の購買力を基礎としてゐる。これは銀の購買力を基礎としてゐる支那に於ける物價とは非常に異なる。

の購買力は極めて類似せるコースをとつた(第25圖)。もし支那がこの期間金本位制をとつてゐたら、支那の物價水準は合衆國のそれと類似してゐたであらう。従つて、支那の不況は、銀の購買力が上昇し始めた一九三一年に始まらまいで、金の購買力が驚く可き程上昇した一九二九年に始つたであらう。金本位の米國の物價水準と銀本位の支那のそれが如何に異つてゐるかは、第26圖に示されてある。

### 第八節 非貨幣的因子の物價水準に及ぼせる影響

銀價値の上昇の外に種々の因子が、支那に於ける農場價格、卸賣價格の下落、従つて人民の異常な困窮の原因として提示されてゐる。

#### 運輸機關の未發達

運輸機關の未發達が經濟不況の原因として擧げられてゐる。しかし乍ら、物價が急速に上昇し、過去三ヶ年間の事業の破産が知られなかつた時ですら、現在の物價の下落、及び經濟不況を、今まで常に存在してゐたところの困難に歸するのには不合理である。事實運輸能力は驚く可きほど改良された、殊に最近には。例へば、一九三三年には、一九三〇年の三萬軒に比し七萬一千七百五十六軒の自動車道路が輸送の便に供せられてゐる。道路も一九二七年よりも一九三三年の方が改良されてゐる。

#### 匪 賊

銀保有者に対する保證の缺如が、銀を上海その他の中心地へ發送せしめ、奥地に於ける銀の枯渴、従つて農場價格の下落を引きおこしたといはれる。しかし乍ら、前に見た如く、物價は銀の集積せる沿岸地方も奥地も同様に下落した。

第八節 非貨幣的因子の物價水準に及ぼせる影響



更に、上海に銀が集積されたのは論理的に充分理由のあることである。物價が下落するや、農民の販賣せる基準商品物價は、農民の購買せる生産物價格よりも遙かに低く下落した。従つて農民の都市向農業生産物を賣つて得る銀量は急速に減少し、反對に購買商品に支拂ふ額は多くなつた。従つて銀は奥地から流出して、都市に集積したのである。銀が如何なる地方から供給されるかといふことは、その價値に殆んど關係がない、銀は容易に移動され且つ世界の需給狀況に左右されるからである。同様のことが金についても言へる。

更に、疑もなく支那の匪賊は過去三ヶ年間に非常に減少した。過去三年間の異常な經濟狀勢を政治的不安に歸するのは非論理的である、といふのは政治的不安は遙かに長い間續いており、最近特にはげしくなつたわけでもないからである。匪賊が鎮定されれば、被害をうけた地域の人民の幸福が増進することは疑もない、しかし銀價値上昇による不況を著るしく緩和することは出来まい。金の價値が上昇すれば、組織的な匪賊や兵亂のない金本位國でも物價の下落及び不況に悩むのである。

### 東三省の分離

東三省の分離の結果、大豆價格の低落は、分離しなかつた場合に低落したらうと思はれる程甚しくはなかつた（第一章第二節）。東三省以外の支那における大豆の生産は明かに増進した。貿易の停止は、今まで東北より輸入され、當時は支那の他省の生産と競争することのなかつたその他の商品價格にも同じ影響を與へた。

東北三省以外の支那の産業が、東北市場に依存せるだけ、一定生産物の價格は下落したと考へられる。

### 貿易尻の逆調

この題目は第三章第三節でより詳細に研究される。概して謂へば、支那の輸入は支那の繁榮に依存してゐる。支那の物價が上昇する場合には輸入は増加する。支那の輸出は諸外國の繁榮に依存してゐる。諸外國は一九二九年以來經濟的不況にあり、あるものは一九二〇年來ノーマルな經濟狀態にない、殊に農業に於ては。従つて諸外國は支那の財貨に對してはいゝ市場ではない。かくの如き事情の下に於て、支那の輸出が輸入と平行することが出来ぬのは當然であり、貿易尻の逆調も擴大されたのである。一九三一年以來支那の輸入は減少した。一九三三年には、輸入は物價の低落と共に減少したが、輸出は、東三省の推定輸出を加算すると、海外の恢復と相俟つて増加した。

一般的に言へば、貿易收支は明かに支那の内部狀態を反映し、外國事情を逆に反映せるものである。もし支那の沈滞が續き、諸外國（金本位を離脱せるか或は變更を加へたる諸國）の恢復が續けば、貿易の逆調は少くなるであらう。

支那の物價下落は、貿易の逆調に由來する奥地銀の缺乏のためであるとはいへない。銀は輸送先の國々でも、支那でも同様に價値上昇せることは前に見た如くである。もしこれらの諸國が銀本位制下にあつたならば、その物價も亦下落してゐたであらう。

### 高率の租稅

租稅は第三節で不況に關聯して研究された。又、第三章でも考察されるであらう。







一九三三年十二月の實業部中央農業實驗所の農情報告者の報告に従へば、約五六%の農民は現金負債を負うてゐる  
 (第三十九表) 種々の貸付主の中、種々の地方的金貸業者、商人が最も重要である。  
 年利率は平均三割四分である。

平均四八%の農民が食用穀物の貸付をうけてゐる、これに對する利率は現金に對するより以上に高いことすらある。  
 支那に行はれる高利率は一部は過去六〇年間の物價水準上昇の結果である。一九三一年以前の農場價格は急速に上昇

第四十一表 農民信用の源泉及び利子 (註1)

省別	報告縣數	現金貸付									穀物貸付						月利率
		負債農民	貸付源泉の百分率								負債農民	貸付源泉の百分率					
			合作社	親戚	地主	富農	商人	質屋業	其ノ他	年利率		親戚	地主	富農	商人	其ノ他	
察哈爾	7	79	—	8.3	8.3	41.7	33.4	—	8.3	32	53	20.0	10.0	50.0	10.0	10.0	8.3
綏遠	11	48	—	8.3	16.7	37.5	12.5	12.5	12.5	32	33	4.6	18.2	40.9	4.5	31.8	7.7
寧夏	6	51	—	—	7.1	50.0	35.7	—	7.2	37	47	—	9.1	72.7	9.1	9.1	11.7
青海	6	56	—	7.2	7.2	35.7	35.7	—	14.2	27	46	11.1	7.5	29.6	11.1	40.7	5.1
甘肅	21	63	—	—	3.2	43.6	17.8	4.8	30.6	53	53	8.5	5.1	59.3	13.5	13.6	7.3
陝西	45	66	0.8	3.0	5.2	41.0	40.2	1.6	8.2	51	56	8.7	8.7	32.5	39.7	10.4	14.9
山西	71	61	0.4	3.0	1.1	48.1	26.9	14.5	6.0	46	40	7.2	6.2	59.0	8.2	19.4	6.0
河北	109	51	10.5	5.8	1.2	34.8	20.2	19.7	7.8	29	33	17.6	4.1	38.6	27.3	12.4	3.3
山東	82	46	2.2	7.0	2.7	41.6	15.0	27.0	4.5	34	36	19.1	10.2	59.3	6.9	4.5	3.5
江蘇	50	62	2.5	10.1	6.5	40.3	8.3	26.2	6.1	35	50	1.5	13.2	47.8	20.5	17.0	7.6
安徽	32	63	2.3	10.2	7.0	50.0	6.3	5.4	18.8	41	56	5.7	15.2	49.5	8.6	21.0	10.0
湖北	63	41	—	9.0	10.6	41.2	13.5	9.0	16.7	35	43	11.4	16.3	46.0	13.4	12.9	7.3
四川	22	46	3.7	11.1	11.1	46.2	14.8	3.8	9.2	29	51	10.9	17.4	52.2	8.7	10.8	6.9
雲南	56	56	—	19.5	20.5	32.5	12.0	8.0	7.5	38	46	23.7	31.9	32.5	1.8	10.1	5.7
貴州	25	46	1.9	17.0	9.4	43.4	11.3	5.7	11.3	35	49	12.8	19.1	48.9	4.3	14.9	7.2
湖南	25	45	—	4.2	10.4	64.6	6.2	4.2	10.4	36	47	1.9	21.2	46.2	7.7	23.0	7.4
江西	37	52	2.3	12.5	19.5	46.9	8.6	2.4	7.8	33	49	9.7	16.6	35.2	3.4	35.1	6.8
浙江	27	57	1.2	7.6	8.9	53.2	13.9	2.5	12.7	25	52	5.3	13.3	42.7	1.3	37.4	4.4
福建	42	67	1.5	15.3	6.1	43.5	7.6	19.8	6.2	20	48	14.9	7.9	42.6	19.9	19.7	4.0
廣東	26	55	—	8.9	12.5	51.8	16.1	5.4	5.3	21	49	21.1	13.5	40.4	13.5	11.5	4.7
廣西	49	60	0.6	10.2	5.8	52.9	16.6	5.7	8.2	27	52	15.4	11.1	50.4	15.4	7.7	5.8
平均	38	51	—	3.8	16.2	52.3	7.7	16.9	3.1	34	58	8.2	23.1	50.0	5.7	13.0	10.9
均	850	56	1.3	8.3	9.0	45.1	17.3	8.9	10.1	34	48	10.9	13.6	46.6	11.3	17.6	7.1

この報告は二十二省に對して、1933年12月に得られたもので、現金貸付及び穀物貸付を含んでゐる、上掲の貸付源泉、利率及び負債農民の割合は支那の農村金融状態を示すものである。

貸付源泉は、現金であれ、穀物であれ、農民が農村内で貸付を受ける處である。

富農とは農村内に生活せる、實際には農民でないかも知れない、富裕者を含んでゐる、商人とは穀物洋行及び乾物類商店で、質屋には利子を得る目的で金貸をする金融機關を含む、其他中には他の項目中に含まれざる各種の地方的諸機關、教會、學校教師、縣貸付所、縣の穀倉等を含む。

穀物貸付の月利率は貸付の月數によつて返還される穀物量から計算したものである。この種信用は短期物で從て利率は高い。若し、この穀物貸付の利率を貸付を受け或は返還した當時の價格から計算するならば、利率は上記のものほど高くはないであらう。

現金貸付を得てゐる農民の割合は、50%以上である。察哈爾、浙江及び陝西が最高の割合を示してゐる、年利率は34%、穀物貸付を得てゐる農民の割合は約50%で月利率は普通7%である。

【註1】 實業部中央實驗所「農情報告」第二卷第四號1934年4月。



品名	昭和十一年		昭和十一年		昭和十一年		昭和十一年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
米	100	100	100	100	100	100	100	100
小麦	100	100	100	100	100	100	100	100
大豆	100	100	100	100	100	100	100	100
...	...	...	...	...	...	...	...	...

物價の上昇は、生産的企業に従事せる人は二重の利得を得る、一つは労働及び産業からであり、他は原料の購買、労賃の支拂後、生産物の市場出現前に起る物價の上昇より生ずるものである。物價上昇しつゝある場合には、原料を購買し、これを貯蔵して後に販賣する人の利得は自分の活動の結果ではなく、單に貨幣の價値下落より生ずるものである。かくの如き事情の下に於ては、生産的に使用さる貨幣に對する需要は極めて大きい。従つて高率の利率が支拂はれ得るし、又支拂はれてゐる。

物價下落の場合には、生産的目的のために金を借りる人は、労働の利得から、原料を購買し勞賃が支拂はれた後に生ずる生産物價格の下落から生ずる損失を引き出さなくてはならぬ。物價下落の場合には、貨幣使用より生ずる利得は減少し、消失しさへする。貨幣に對する需要は減少する、貨幣の使用より生ずる利益がなくなるからである。

貸主は、もし確實な投資があるならば、極めて低利率で満足する、しかし確實な投資は、物價下落の際には殆んどない。銀行家等は商品生産者に貸付することを躊躇する、物價下落のため擔保の價値喪失を恐れるからである。物價下落の際には、都市に莫大な貸付貨幣が集積され、農工業に資金の大缺乏を生ずる。かくの如き状態は自然的原因によつて救済され、物價は下落を停止し、前債務は支拂、破産、擔保の讓渡若くは轉賣、その他の方法によつて清算される。物價下落の場合には、物價上昇の折に借りた人々は、物價上昇の場合にのみ許さるゝ如き高利率及び大負債を返済出来なくなる。何らか人工的な救済策が講ぜられざる限り、物價下落の場合には、債務者はその財産を失ふ恐れがある。債務者の多い地方では、負債の取立に對して強力的に抵抗する危険がある。かゝる抵抗が擴大して社會的不安を惹き起すに至る。



物價下落による収入の減少のため不可能となつた債務の負擔を救済するには

- 一、債務契約の時の水準にまで貨幣價值を低落せしめんとする貨幣的手段
- 二、負債の人工的切下げ
- 三、利率の人工的引下げ

生産者の負債の切下げは當然、生産者の負債の支拂に依存せるその他凡ての債務の切下げを必要ならしめる。もし政府が個人貸付業者の債權を整理することになれば、政府は損失の一部を、貸主及び借主も夫々一部を負擔せねばならぬ。何となれば、如何なる切下げも借主の全損失を救ふことは出来ぬであらうから。

負債の切下げは何者をも利せしめない、只何らの對策を講じない場合に陥るべき重大なる結果の發生を防止するといふ消極的利益があるだけである。

負債の切下げは生産者の財政状態に對する一部分な救済策に過ぎぬ、何となれば不況は負債の増加よりも寧ろ物價下落の結果であるからである。負債が切下げられても、購買商品價格、賃銀、租税は矢張り重荷となる。

#### 外國財貨のダムピング

支那の物價水準がデリック<sup>1</sup>上昇してゐる間は外國財貨の輸入は増加してゐる。一九三一年以來輸入は量に於ても價格に於ても減少した(第三章第三節)。従つて支那の物價下落は外國財貨のダムピングに歸することは出来ぬ。

外國財貨に對して關稅障壁を高めて輸入を阻止することが、不況中に於ける大部分の國の特徴であつた。<sup>2</sup>物價下落の

際には、市場は内外凡ての財貨に對して吸收力がない。國內財貨に對する市場の減退を救はんとして關稅が高められた。個々の商品の價格を高める手段としての關稅は、もし外國よりの供給部分を排除出来る位に高ければ効果がある。物價水準を高め、繁榮を取り戻す手段としては、關稅は効果がなく、銀の價值は國際的に決定されてゐるからである。關稅が課せられる場合には、ある種の國內商品の高價格は、他の商品の低價格によつて相殺される。<sup>3</sup>そして銀の平均購買力は何らの變化をうけなく。

自由貿易國たる英國の物價水準も、高關稅國たる合衆國のそれも、兩國が金本位制下にあつた時は、極めて類似してゐた。ワールン、ピアソン兩氏は次の如く結論してゐる、關稅は一商品の物價を高めるかもしれないが、物價水準を甚だしく高めるとは思はれぬ。<sup>4</sup>

【\*】 道路に關する統計は國際聯盟對支技術協力代表の提出に係る事業報告書より引用。

【\*\*】 Warren, G. F., and Pearson, F. A.: 前掲書第二十章。

【\*\*\*】 Warren, G. F., and Pearson, F. A.: 前掲書一一〇頁。



昭和十一年四月三十日印刷  
昭和十一年五月三日發行

支那に於ける銀と物價與付

定價金 五十錢

所	版
有	權

東京市麻布區飯倉六丁目十三番地  
著作兼發行人 平 山 敬 三  
兼印刷人

東京市京橋區築地二丁目五番地  
印刷所 川崎活版印刷所

東京市麴町區內山下町一丁目一番地

發行所 財團東亞經濟調查局  
法人



5

中華民國二十一年一月一日

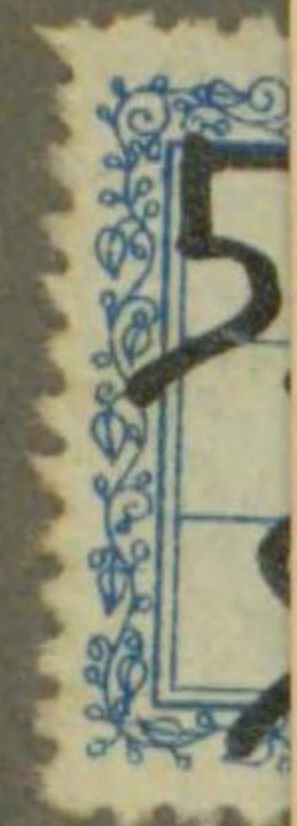

平 山 海

田 園 牧 歌

...

...







553  
94



